

# V 診療業務概要・ 活動報告

## ～解説～

### ①概要について

1年間の活動内容等を掲載しています。

### ②新規登録疾患について

2020年に登録した病名を診療科別に抽出し、ICD-10（国際疾病分類）3桁で集計を行い円グラフで掲載しています。

#### 抽出条件

- (1) 2020年1月1日から2020年12月31日までに受診した患者。
- (2) 診療科別で対象患者に主病名登録した病名（疑いは除外）を抽出。
- (3) ICD-10 3桁で集計、上位を表記し、それ以下はその他と表記。

#### 留意事項

- (1) 複数の病名が登録されている患者については病名ごとに集計（延べ）。
- (2) 比率については小数点第2位 四捨五入。

### ③活動報告について

この項目は、各々の希望に応じた資料を掲載しています。

# V 診療業務概要・活動報告

## 総合内科

### 1. 概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は、狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患の強力な危険因子である。これまで総合内科では、糖尿病を中心に、内臓脂肪の過剰蓄積・耐糖能障害・高血圧症・高中性脂肪血症を併せ持つメタボリックシンドロームや高尿酸血症を含め、積極的に診療を行ってきた。

1996年以来、総合内科では永らく上記の外来診療や糖尿病体験入院などを行ってきたが、2010年の糖尿病・内分泌内科の新設にともない、糖尿病外来や糖尿病教育入院はおもに同科で行われるようになった。それ以降、総合内科では、新規を除く糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの外来診療を継続するとともに、原因不明の発熱など専門診療科にすぐには振り分けられない患者の診療を行っている。

総合内科の病床は2012年からなくなっていたが、不明熱の入院精査などのため、2018年4月から3床が復活した。

2018年に始まった新専門医制度において、「総合診療専門医」が基本領域のひとつとなっている。当院は、名古屋大学医学部附属病院総合診療専門医養成プログラム（基幹施設：名古屋大学医学部附属病院総合診療科）および愛知県東三河総合診療科専門研修プログラム（基幹施設：新城市民病院総合診療科）の連携施設となっており、総合診療専門医を育成する使命も帯びている。2020年度には1名の専攻医が当院で研修を行った。

（部長 稲垣 大輔）

### 2. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	1,400人	年間外来新患者数	1,593人
年間入院患者数	4,766人	年間入院新患者数	80人

# 呼吸器内科・アレルギー内科

## 1. 概要

2020年度は部長が牧野に交代となった。大学と連携し、前年に比べ増員を果たすことができ、計7名の常勤医と2名の非常勤医により診療を行うことができた。

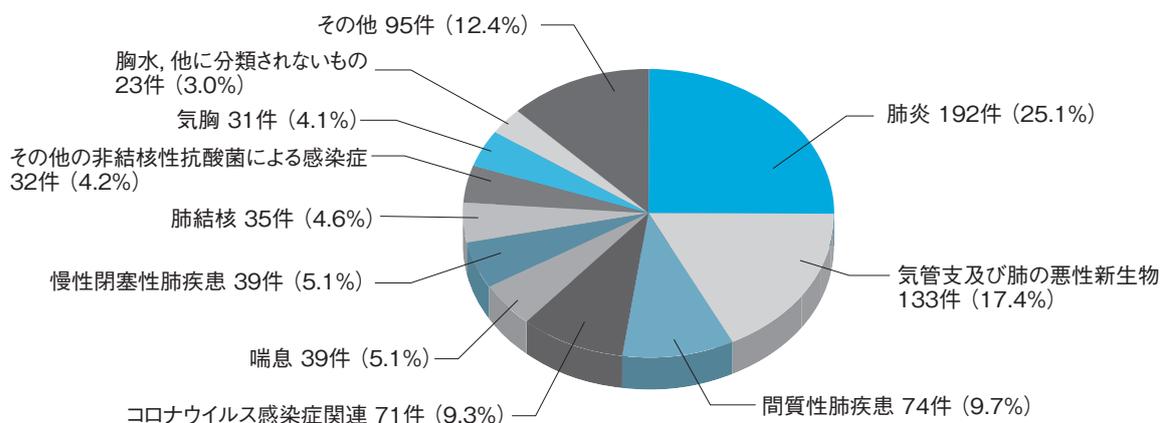
科としては改革を行い、まず、カンファレンスを週2回に増やし、全入院患者の把握および検討を行うようにした。また、毎朝、ブリーフィングを行い、重要事項の周知および情報共有を図った。さらには、研修医、専攻医の教育にも力をいれたいと考え、小セミナーを毎週定期的に施行するようにした。皆で、相談、確認しながら診療し、また若い医師の教育に注力していくという姿勢が定着しつつある。

実際の診療では、ともかく、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）にすべて振り回された1年であった。入院患者は当科を中心に、2021年3月までに180名程度を担当した。当科の医師たちは、精神的にもとてもつらい仕事をよく我慢し対応してくれている。COVID-19が終息するまで、まだ時間がかかりそうであるが、南病棟の看護師をはじめとした様々な職種の医療従事者や、協力してくれる他科の医師と力を合わせて、この異常時を乗り切りたいと考えている。

(部長 牧野 靖)

## 2. 新規登録疾患

総数：764件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
肺炎	肺炎,詳細不明	115	J189
	食物及び吐物による肺臓炎	36	J690
気管支及び肺の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物,気管支又は肺,部位不明	106	C349
	気管支及び肺の悪性新生物,上葉,気管支又は肺	13	C341
間質性肺疾患	間質性肺疾患,詳細不明	49	J849
	肺線維症を伴うその他の間質性肺疾患	17	J841
コロナウイルス感染症関連	COVID-19	71	U071
喘息	喘息,詳細不明	34	J459
慢性閉塞性肺疾患	慢性閉塞性肺疾患,詳細不明	27	J449
肺結核	肺結核,細菌学的又は組織学的確認の記載がないもの	24	A162
その他の非結核性抗酸菌による感染症	非結核性抗酸菌感染症,詳細不明	28	A319
気胸	その他の自然気胸	20	J931
胸水,他に分類されないもの	胸水,他に分類されないもの	23	J90

### 3. 活動報告

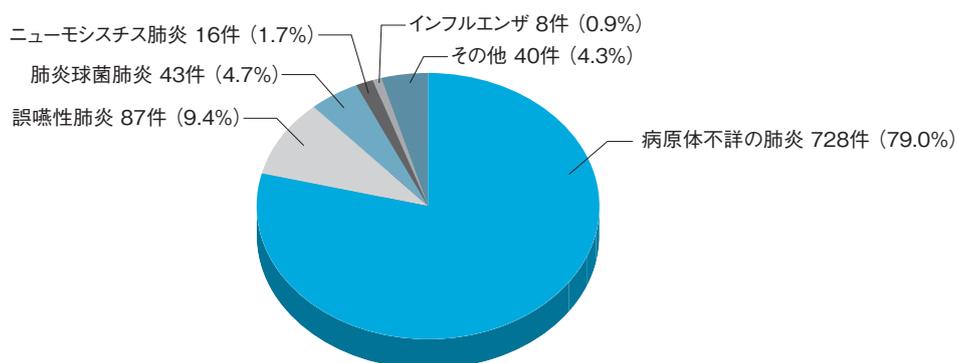
#### (1) 患者状況

年間外来患者数 27,686人 年間外来新患者数 1,944人

年間入院患者数 25,777人 年間入院新患者数 1,522人

#### (2) 肺炎別頻度

総数：922件



#### (3) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	肺炎	922	4	気管支喘息	275
2	肺癌	411	5	慢性閉塞性肺疾患	225
3	間質性肺炎	398		計	2,231

# 消化器内科

## 1. 概要

浦野院長を筆頭とする6名のスタッフ、専攻医6名、後期研修医1～2名で診療に従事している。

山田、山本、服部が消化管、浦野、内藤が肝臓、松原が胆道・膵臓を担当し、

- ①消化器癌のX線・内視鏡・US診断
- ②食道・胃・大腸腫瘍に対する、ESDをはじめとする内視鏡的治療
- ③IBDに対する内科的治療
- ④胆道・膵疾患に対するEUS (-FNA)、造影US・EUS、ERCP (-IDUS) の診断成績
- ⑤ERCP後膵炎の予防
- ⑥閉塞性黄疸に対するERCP（経乳頭的内視鏡）下と、EUS（超音波内視鏡）下治療
- ⑦ウイルス性肝炎の治療と長期経過
- ⑧肝癌の画像診断と内科的治療-TACE、RFA、リザーバーを用いた化学療法など

を主な研究テーマとしている。

一方、全消化器領域に対応すべく日常診療を行っており、嚥下困難患者に対する内視鏡的胃瘻造設術の依頼にも随時対応している。

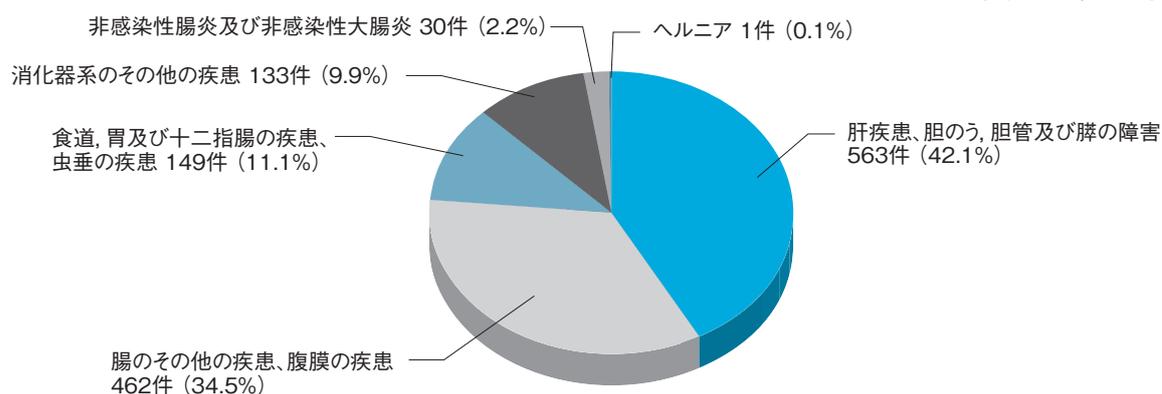
この他、食道胃静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、大腸憩室などからの急性消化管出血に対するEIS、EVLやクリッピング止血、内因性肝出血や壊死性膵炎に対するIVR、急性胆道炎に対するERCP、PTBD、PTGBD、EUS下ドレナージ、そして劇症肝炎や重症急性膵炎など重症消化器疾患に対する集中治療を積極的に行い、地域の救命救急医療に貢献している。

(第一部長 松原 浩)

## 2. 新規登録疾患

### (1) 新生物以外

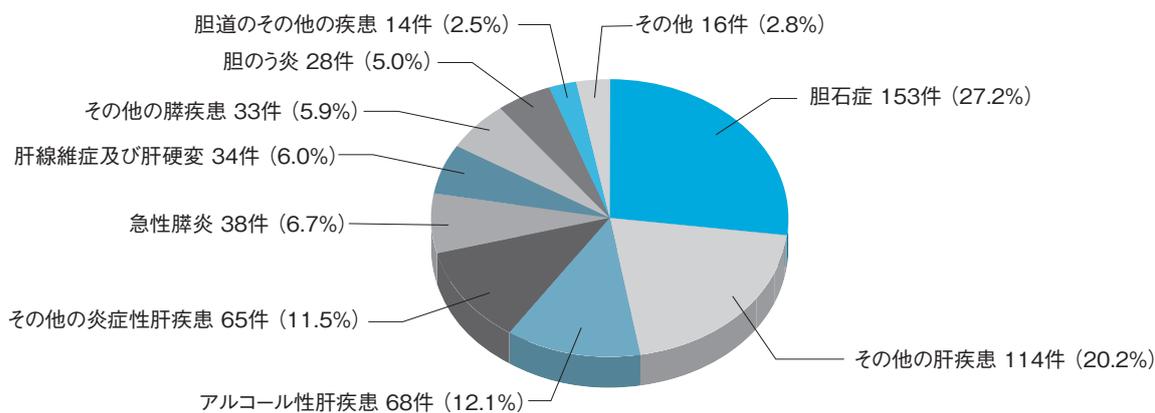
総数：1,338件



上位3位の詳細

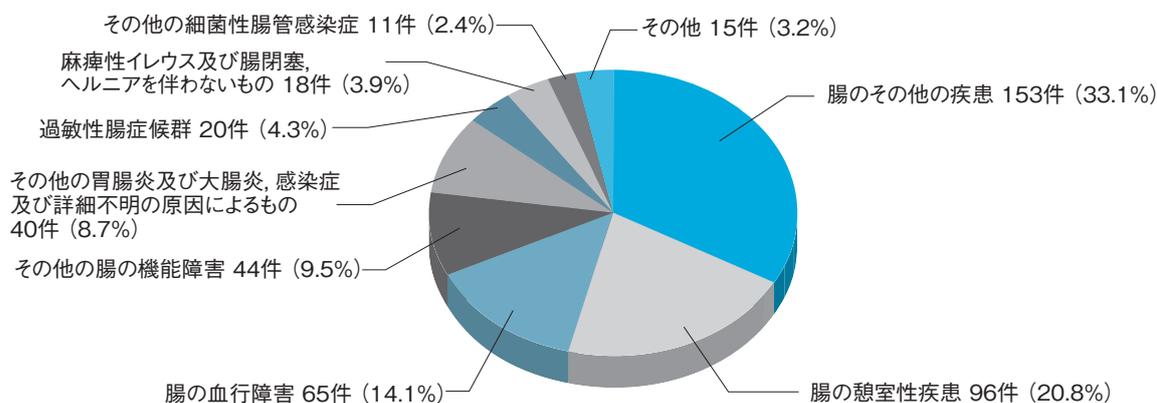
①肝疾患、胆のう、胆管及び膵の障害

総数：563件



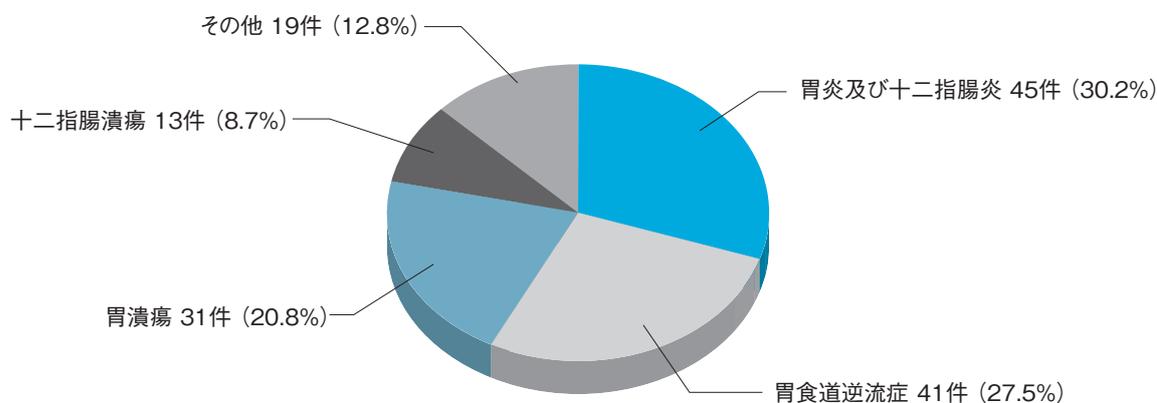
②腸のその他の疾患、腹膜の疾患

総数：462件



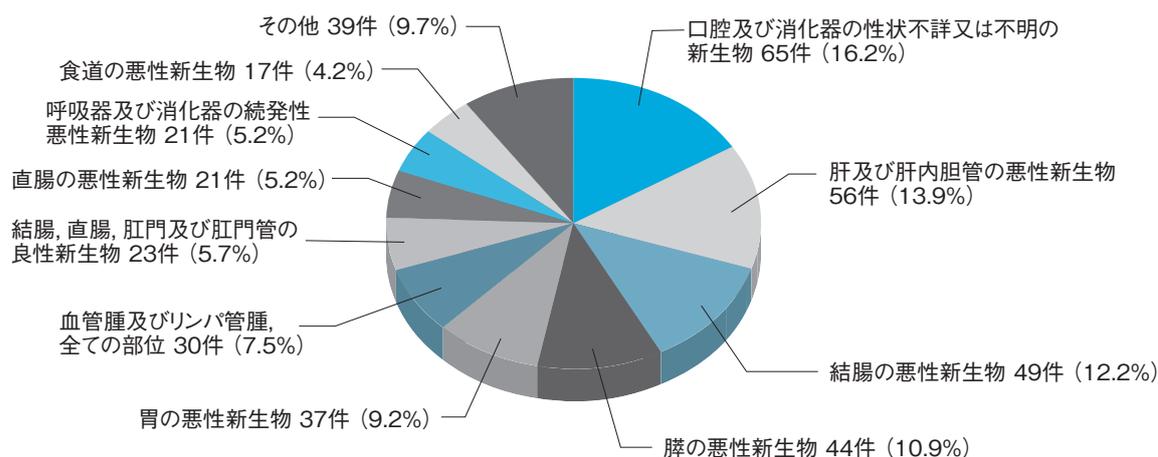
③食道、胃及び十二指腸の疾患、虫垂の疾患

総数：149件



## (2) 新生物

総数：402件



## 3. 活動報告

### (1) 患者状況

年間外来患者数	49,798人	年間外来新患者数	4,972人
年間入院患者数	31,485人	年間入院新患者数	2,613人

### (2) 主な検査治療実績

胃内視鏡検査	6,157件
大腸内視鏡検査	3,954件
小腸内視鏡検査	バルーン内視鏡 27件
	カプセル内視鏡 77件
消化管超音波内視鏡検査	上部 98件
	下部 6件 (うち穿刺生検 10件)
内視鏡的粘膜下層切開剥離術	食道/胃 106件
	大腸 58件
胆膵超音波内視鏡検査	259件 (うち穿刺生検 74件)
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	512件
腹部血管造影検査	55件
うち 動脈塞栓術	35件
動注化学療法	5件
リザーバー留置による動注化学療法	2件
ラジオ波焼灼術	35件

# 循環器内科

## 1. 概要

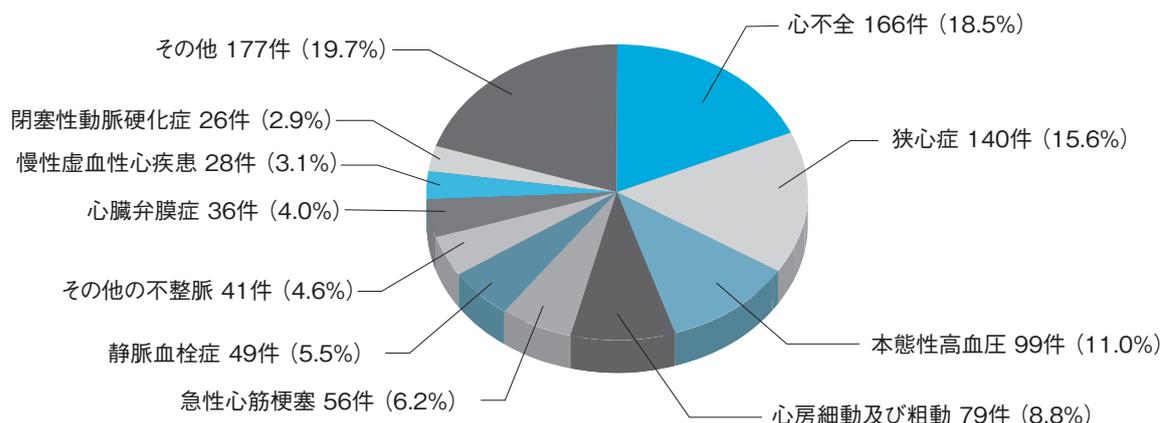
2020年は、心血管カテーテル検査を777件（うち緊急検査196件）に施行した。経皮的冠動脈インターベンションは265例（成功率95.8%）で、その内、血管内超音波を246例に、ステント留置術は226例に施行した。再狭窄防止のための薬剤溶出性バルーンは15件に使用した。観血的虚血評価のため、圧ワイヤー検査を57件に施行した。また、血行動態の悪い症例には、大動脈内パンピングを38例に施行した。心原性ショック例・心停止例（来院時心肺停止も含む）には、経皮的心肺補助装置を装着した（18例）。一方、不整脈診断の為の心臓電気生理学的検査を60例に、カテーテルアブレーションを48例（心房細動に対するもの36例）に施行した。さらに多列検出器CTによる冠動脈CT検査を194例に施行した。

2020年より、心不全患者に対する多職種カンファレンスを開始した。

（第一部長 成瀬 賢伸）

## 2. 新規登録疾患

総数：897件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
心不全	うっ血性心不全	109	1500
	心不全, 詳細不明	48	1509
狭心症	その他の型の狭心症	66	1208
	狭心症, 詳細不明	50	1209
本態性高血圧	本態性(原発性)高血圧(症)	99	110
心房細動及び粗動	心房細動及び心房粗動, 詳細不明	45	1489
	発作性心房細動	30	1480
急性心筋梗塞	前壁の急性貫壁性心筋梗塞	32	1210
	下壁の急性貫壁性心筋梗塞	18	1211
静脈血栓症	下肢のその他の深在血管の静脈炎及び血栓(性)静脈炎	49	1802
その他の不整脈	心室性早期脱分極	18	1493
心臓弁膜症	大動脈弁狭窄(症)	26	1350
慢性虚血性心疾患	陳旧性心筋梗塞	19	1252
閉塞性動脈硬化症	全身性及び詳細不明のアテローム硬化(症)	19	1709

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

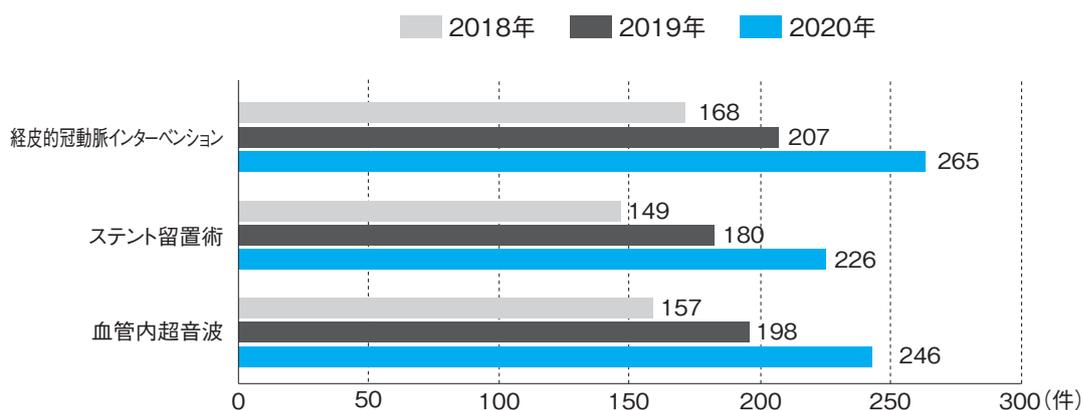
年間外来患者数 17,433人      年間外来新患者数 1,216人  
年間入院患者数 9,334人      年間入院新患者数 906人

#### (2) 科指定4疾患

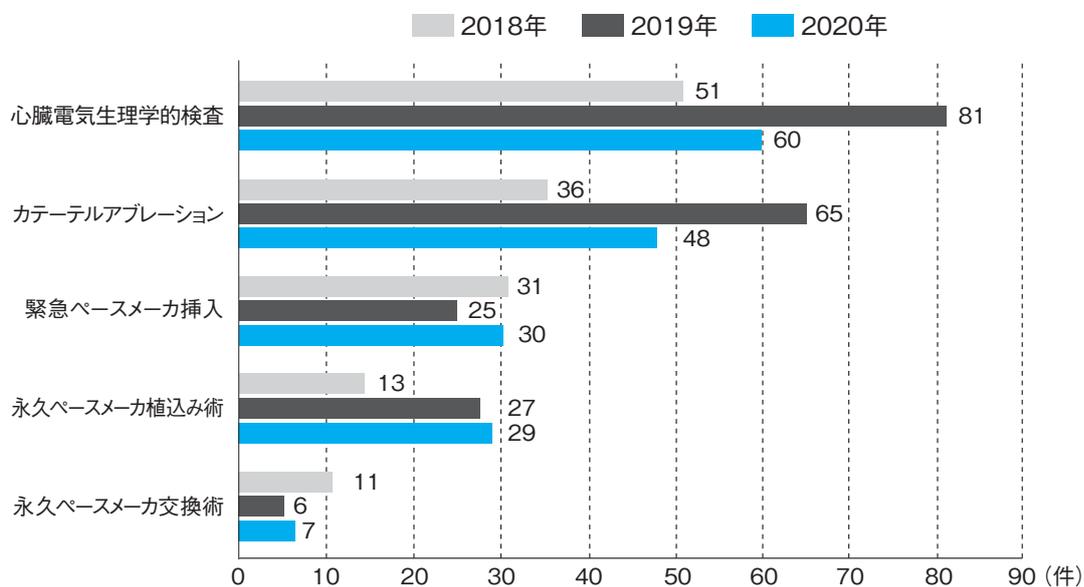
	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	心不全	747	4	肺血栓塞栓症	33
2	狭心症	444		計	1,370
3	急性心筋梗塞	146			

### (3) 治療実績

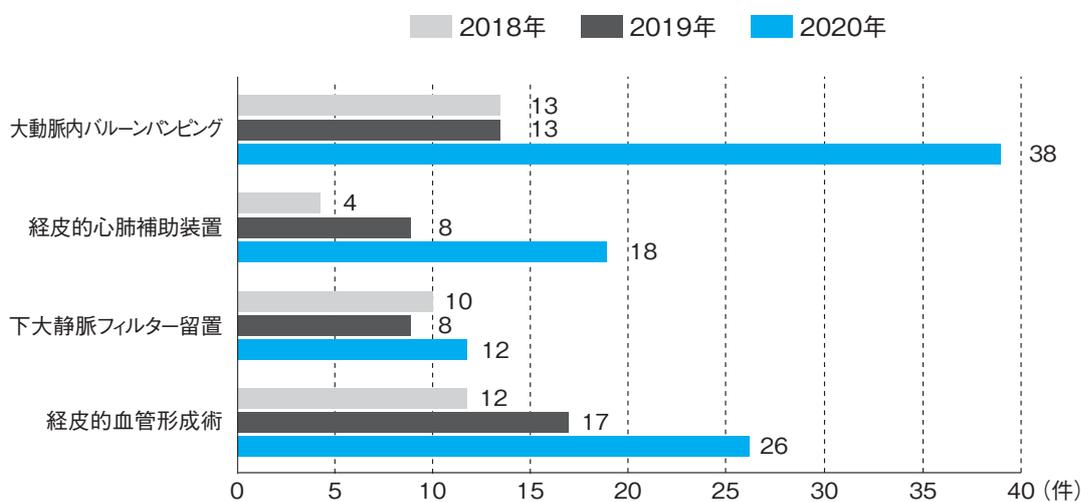
#### ①虚血性心疾患治療



#### ②不整脈治療



#### ③その他の観血的治療



# 腎臓内科

## 1. 概要

当科の主な診療領域は、腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全（腎後性腎不全は除く）等の内科的腎臓病の他に、透析を含む血液浄化である。尿路結石・腫瘍・感染症は、取り扱っていない。また、透析患者のシャントトラブルも扱っていない。

当院は東三河地域の基幹病院であるが、その中で常勤医師数からして最も小さな科の一つであるものの、多種多様な病態の診療に携わっている。

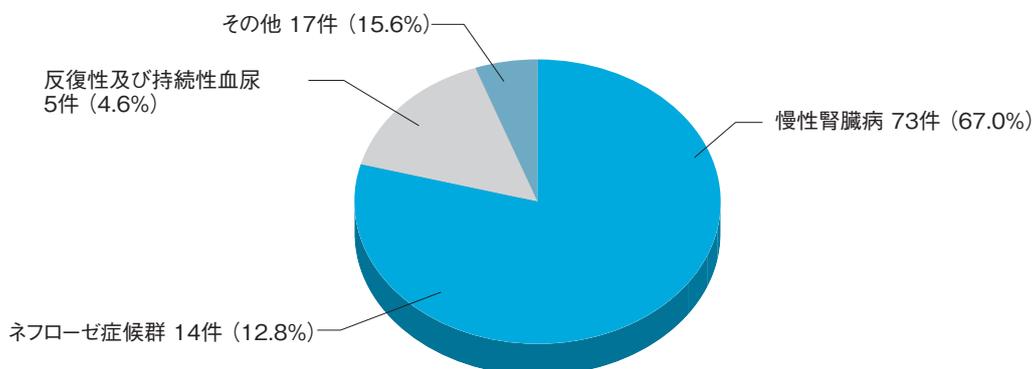
急性腎不全（AKI）をはじめとする重症患者の血液浄化の依頼やコンサルトは多く、院内他科からの紹介患者数は県下有数であると自負している。これらには、臨床工学士（ME）や看護師の協力により、血漿交換・免疫吸着・持続的血液ろ過透析（CHDF）等を病態にあわせて施行している。腎炎やネフローゼ症候群には、名古屋大学腎臓内科の御支援の下、積極的に腎生検を行い、診断・治療に役立てている。さらに、維持透析患者の合併症や保存期の慢性腎不全（CKD）患者の治療にも関わっている。

また、末期腎不全に対しては、スタッフ不足から新規の通院透析患者は受け入れられないものの、移植外科と連携して腎移植に対応している。

（部長 山川 大志）

## 2. 新規登録疾患

総数：109件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
慢性腎臓病	慢性腎臓病, 詳細不明	64	N189
ネフローゼ症候群	ネフローゼ症候群, 詳細不明	14	N049
反復性及び持続性血尿	反復性及び持続性血尿, その他	5	N028

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数 9,052人      年間外来新患者数 367人  
年間入院患者数 5,822人      年間入院新患者数 398人

#### (2) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	慢性腎不全	432	4	急速進行性糸球体腎炎	16
2	ネフローゼ症候群	91	5	IgA腎症	10
3	急性腎不全	64		計	613

# 糖尿病・内分泌内科

## 1. 概要

当科の診療内容は、糖尿病と各種内分泌・代謝疾患である。糖尿病看護認定看護師、透析看護認定看護師の他、日本糖尿病療養指導士 13 名や愛知県糖尿病療養指導士 4 名等の協力で、糖尿病教育入院や療養指導外来、フットケア外来、糖尿病透析予防指導外来を設置している。インスリンポンプ療法(CSII)とSAP(CGMつきCSII)療法は20数名が継続している。うち1名が他院で腎臓同時移植を受け、SAP療法を離脱した。2週間連続で血糖値を記録できる Flash Glucose Monitoring 式の CGMも引き続き数十名が利用している。12月には数年来の懸案であった血糖・インスリン管理システムを電子カルテに実装・稼働した。これにより、より安全・確実なインスリン療法が可能となった。

日本糖尿病協会の支部として友の会があり、例年は毎年11月の全国糖尿病週間に合わせて院内での講演会や啓発活動を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、これを休止した。

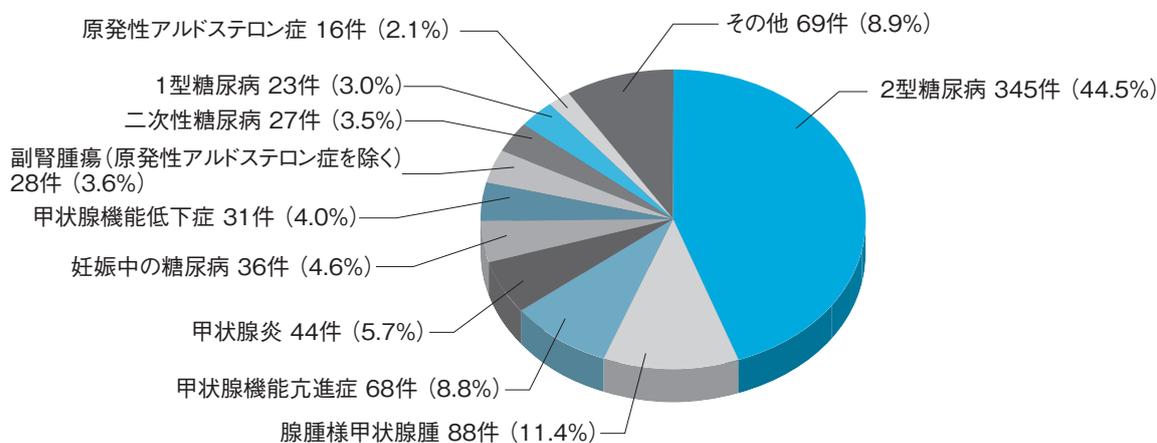
各種内分泌疾患に対しては各種負荷試験、画像診断を元に正確な診断を行い、一般外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、移植外科、脳神経外科、放射線科などとの密接な連携の下に治療を行っている。放射線科には原発性アルドステロン症に対する選択的副腎静脈サンプリングも依頼している。

人事面では動きがなかった。

(部長 山守 育雄)

## 2. 新規登録疾患

総数：775件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
2型糖尿病	2型糖尿病	233	E11
	2型糖尿病, 多発合併症を伴うもの	42	E117
腺腫様甲状腺腫	非中毒性甲状腺腫, 詳細不明	72	E049
甲状腺機能亢進症	びまん性甲状腺腫を伴う甲状腺中毒症	58	E050
	甲状腺中毒症, 詳細不明	10	E059
甲状腺炎	自己免疫性甲状腺炎	37	E063
妊娠中の糖尿病	妊娠中に発生した糖尿病	35	O244
甲状腺機能低下症	甲状腺機能低下症, 詳細不明	31	E039
副腎腫瘍(原発性アルドステロン症を除く)	内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物, 副腎	22	D441
二次性糖尿病	その他の明示された糖尿病	23	E13
1型糖尿病	1型糖尿病	19	E10
原発性アルドステロン症	原発性アルドステロン症	15	E260

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	21,148人	年間外来新患者数	1,140人
年間入院患者数	3,175人	年間入院新患者数	256人

# 脳神経内科

## 1. 概要

2020年のスタッフは、関連医局である名古屋大学脳神経内科の人事異動により、2020年3月に小林が異動、同年4月前田が赴任し、5名体制継続であった。同年6月に前田は異動、同年7月に松本が赴任となった。また、小野田の赴任も得られた。松本については同年12月までの勤務となった。

年々増加していた総入院患者数は、新型コロナウイルス感染症による社会情勢・医療情勢の影響もあり、2020年は978人と前年よりわずかに減少した（2019年1,010人、2018年985人、2017年911人、2016年795人）。

定床40床をオーバーすることが常態化していたため、配分見直しが行われ、定数45床に増床、収容については緩和された。しかし、新型コロナウイルス感染症関連により、南1階病棟が使えなくなったため、多くの病棟に入院患者が分散となり、回診に時間を要した。

2020年の主なトピックは、以下のとおりである。

- ①東病棟5階および東病棟9階など従来と異なる病棟への入棟が増えた。
- ②比較的重症の患者さんに限り、西病棟2階での管理となった。
- ③前年同様、高齢患者の軽症脳梗塞や一過性脳虚血発作が目立った。
- ④高齢者のてんかん関連、意識障害関連の入院も変わらず目立った。
- ⑤慢性炎症性脱髄性多発神経炎の患者、γグロブリン維持療法反復入院が多い。
- ⑥家族背景や社会的背景の難しい患者が多く、安定後の療養先について患者や家族への早期説明の実施や、患者総合支援センターによる介入が多かった。

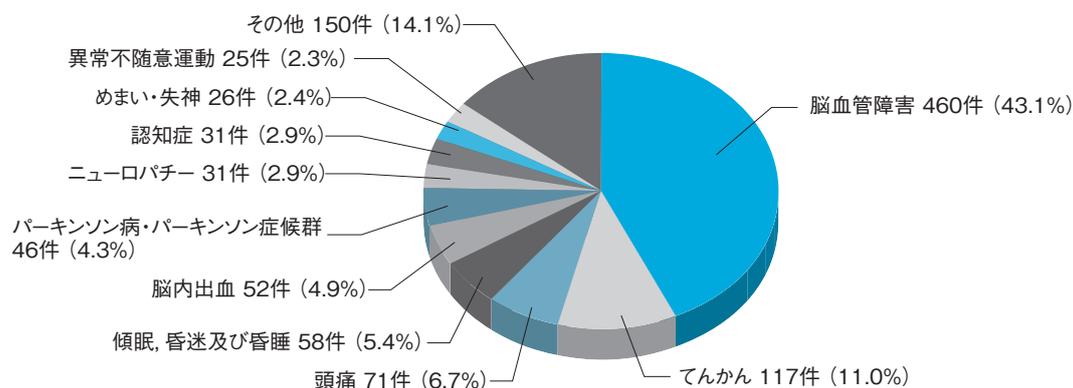
外来診療においては、空野前部長が勇退され、非常勤医2人の応援を得て診療を行っている。外来の年間受診者総数は、12,443人で前年の11,929人と比べて500人余増加、また初診患者数は1,070人と前年の1,186人と比べて100人余減少した。MCR体制に加え、紹介状持参での予約外患者も多いが、診察数等を増やし、可能な範囲で対応している。

日本神経学会の決定を受け、当科においても2019年4月より「脳神経内科」と標榜し、なじんできたと思っている（当院では1975年の「神経内科」標榜が端緒）。

（部長 岩井 克成）

## 2. 新規登録疾患

総数：1,067件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
脳血管障害	脳動脈の血栓症による脳梗塞	220	I633
	脳梗塞の続発・後遺症	58	I693
てんかん	その他のてんかん	52	G408
	てんかん, 詳細不明	51	G409
頭痛	頭痛	52	R51
	緊張性頭痛	12	G442
傾眠, 昏迷及び昏睡	昏睡, 詳細不明	58	R402
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	22	I610
	脳内出血, 詳細不明	20	I619
パーキンソン病・パーキンソン症候群	パーキンソン病	42	G20
ニューロパチー	多発(性)ニューロパチー, 詳細不明	22	G629
認知症	アルツハイマー病, 詳細不明	18	G309
めまい・失神	めまい感及びよろめき感	25	R42
異常不随意運動	(有痛性)けいれん	15	R252

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	11,618人	年間外来新患者数	1,396人
年間入院患者数	16,595人	年間入院新患者数	955人

#### (2) 神経難病6疾患

	疾患名	件数(件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	42
2	重症筋無力症	12
3	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	10
4	脊髄小脳変性症	5
5	多発性硬化症	4
6	多系統萎縮症	3
	計	76

# 血液・腫瘍内科

## 1. 概要

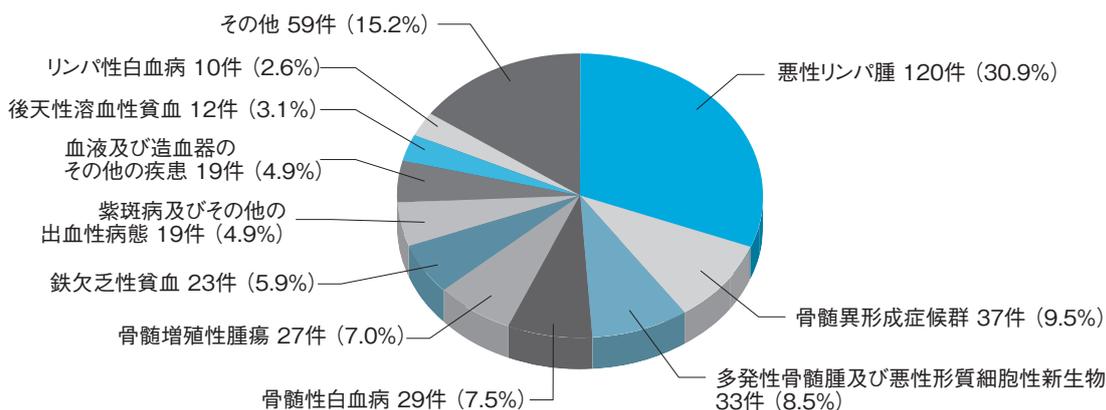
東三河地域の中核施設として、血液悪性疾患に対する化学療法、自家および同種造血幹細胞移植、血液良性疾患に対する免疫療法や補充療法、血栓・止血疾患に対する治療など、血液疾患の治療ほぼ全てに対応している。本年度も東三河全域や静岡県西部などから、多くの患者さんが来院された。2020年度は5から7名のスタッフにて、1日平均約45人の入院と、同様に約75人の外来患者に対する診療を行った。

造血幹細胞移植は、本年度は24例に施行した。そのうち同種造血幹細胞移植は15例で、うち臍帯血移植が7例と最多であった。適切な時期に移植を行うことが重要であり、そのため全てのドナーソースに対応できるよう、体制を整えている。また、比較的高齢であっても適応があり、かつ全身状態が良好であれば同種造血幹細胞移植を検討しており、本年度も60歳代の複数例に施行した。

(部長 倉橋 信悟)

## 2. 新規登録疾患

総数：388件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
悪性リンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	59	C833
骨髄異形成症候群	骨髄異形成症候群, 詳細不明	35	D469
多発性骨髄腫及び 悪性形質細胞性新生物	多発性骨髄腫	24	C900
骨髄性白血病	急性骨髄芽球性白血病[AML]	21	C920
骨髄増殖性腫瘍	真性赤血球増加症	8	D45
	骨髄線維症	6	D474
鉄欠乏性貧血	鉄欠乏性貧血, 詳細不明	23	D509
紫斑病及びその他の出血性病態	特発性血小板減少性紫斑病	19	D693
血液及び造血器のその他の疾患	続発性赤血球増加症	16	D751
後天性溶血性貧血	その他の自己免疫性溶血性貧血	8	D591
リンパ性白血病	急性リンパ芽球性白血病[ALL]	6	C910

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

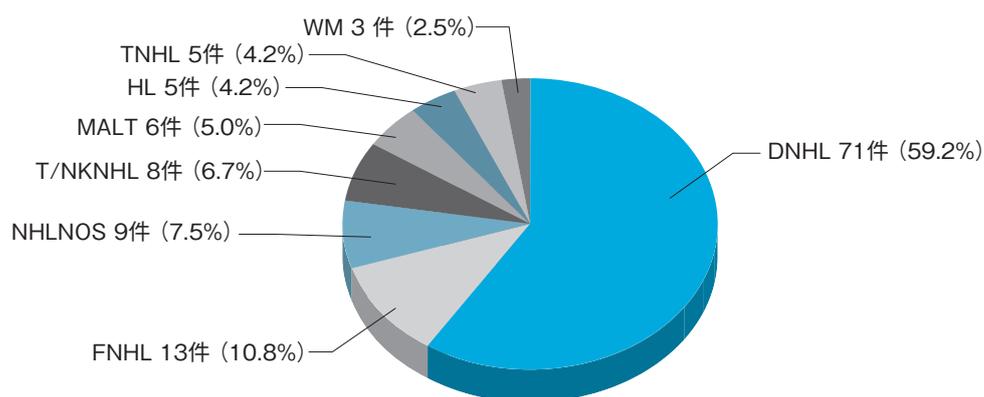
年間外来患者数	18,503人	年間外来新患者数	509人
年間入院患者数	16,781人	年間入院新患者数	815人

#### (2) 造血幹細胞移植

種 類		件 数(件)	
自家移植		9	
同種移植	血縁者間	同胞	3(骨髄:2 末梢血:1)
		半合致	0
	非血縁者間	骨髄バンク	5
		臍帯血バンク	7

(3) 悪性リンパ腫の組織分類 (ICD10 C81-C88)

総数：120件



略 語	疾 患 名
DNHL	びまん性非ホジキンリンパ腫
FNHL	ろ胞性[結節性]非ホジキンリンパ腫
NHLNOS	非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型
T/NKNHL	T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型
MALT	MALTリンパ腫
HL	ホジキン病
TNHL	末梢性及び皮膚T細胞リンパ腫
WM	ワルデンシュトレームマクログロブリン血症

# 一般外科・小児外科・肛門外科

## 1. 概要

### (1) 一般外科・小児外科

2020年はコロナ禍の影響を受け、手術総数は1,584件で、2019年の1,724件と比べ140件（-8.1%）の大幅な減少となった。そのうち15歳以下の小児手術は135件、全緊急手術は325件（325/1,584、20.5%）でこれは逆に2019年の19.7%（総数339件）と比べ若干増加した。このうち鏡視下手術は134件（134/325、41.2%、昨年118件、34.8%、一昨年101件 30%）で昨年より大幅に増加していた。

全症例について総覧すると対象疾患は、当院の性格上、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から甲状腺（24件）・消化器・乳腺（112件）まで幅広い。しかしいずれも去年の実績よりは減少していた。

腹腔鏡下手術は、胃癌手術26件（26/80 32.5%、昨年32%、一昨年28%）でその割合は徐々に増加し、大腸癌切除では88件（88/174、50.6%、昨年48%、一昨年33%）とこちらも割合を増加させ続けている。腹腔鏡下肝部分切除9件（9/23、39%、昨年48%、一昨年58%）は若干数も割合も下げたが、腹腔鏡下膵体尾部切除は3件（3/12、25%、昨年6.7%）が行われ、その割合を増加した。虫垂や成人鼠径ヘルニアに対してもさらに積極的に腹腔鏡を導入し、虫垂炎手術で93件（93/108、86%、昨年63%、一昨年40%）、鼠径ヘルニア手術40件（40/175、22.8%、昨年16%、一昨年16%）と件数、割合とも増加させていた。最近では腹壁癒痕ヘルニアに対しても腹腔鏡下Tension free repairを用い、2020年にも3件（3/26件、11.5%）に行った。

2014年11月より直腸癌に対するロボット支援下手術を臨床研究として開始し一昨年までは順調に症例を伸ばしたが、去年はコロナ禍で、2019年の16件に対して2020年は14件と減少した。2015年4月から早期胃癌に対して行っているロボット支援手術も、2019年の17件に対し2020年は12件と減少した。

乳癌手術もコロナ禍の影響を受けて91件（昨年131件、一昨年138件）と減少した。乳房温存手術は74件（74/91、81%、昨年65%、一昨年41%）、センチネルリンパ節生検陰性は74件で、昨年とほぼ同様の傾向であった。肝切除は35件（昨年40件）で、疾患別内訳は、原発性肝癌 9件、胆管細胞癌4件、転移性肝癌 19件、胆道癌 3件。膵頭十二指腸切除は18件行われた。この疾患別内訳は、膵癌 14件、胆嚢・胆管癌 1件、乳頭部癌 1件、IPMC 2件。またIPMCに対して膵全摘を1件行った。食道悪性腫瘍は5件に根治手術が行われ、すべて3領域郭清であった。上部消化管潰瘍穿孔18件のうち非手術的保存療法は7件（39%）だった。腸閉塞入院は158件のうち51件（32.3%）に手術が施行された。小児外科手術は名古屋大学小児外科と連携して治療に当たっており2020年は135件で、新生児手術は3件であった。一般外科全体の入院総数はこちらもコロナ禍の影響を受け2,099人と去年の2,353人より10.8%減少し、平均入院期間は10.9日で去年の9.8日よりわずかに増加した。

（第一部長 平松 和洋）

### (2) 肛門外科

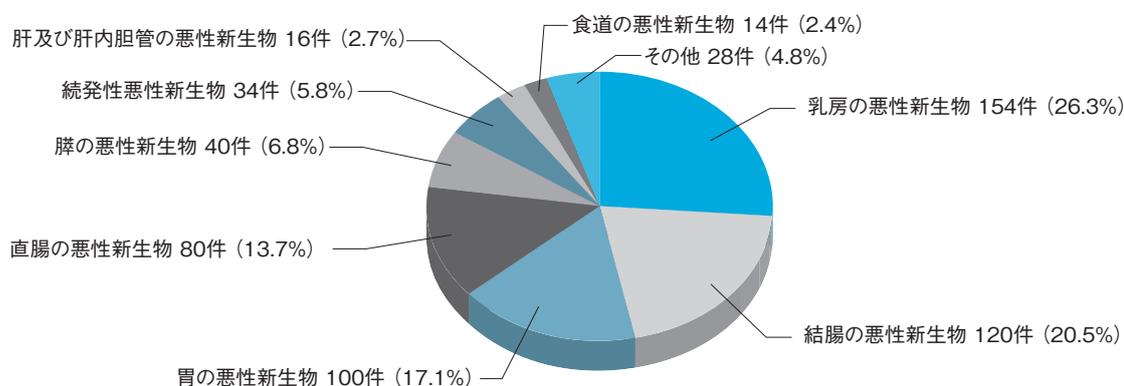
肛門外科は当院移転新設に伴い、単科標榜された。現在は厚生労働省の標榜指導にて『肛門外科』だが、診療・治療は一般外科と共同での運営である。外科外来診療における統計では、悪性疾患治療を除くと痔核を筆頭とした肛門疾患、肛門に関する症状にて受診される患者が多い。多くの施設がそうであるように外科外来当番医が対応していることもあるが、肛門というデリケートな部分で専門性を必要とするため、やはり専門家での診療・治療を希望される方も多く、日本大腸肛門病学会の専門医として診療にあたっている。近隣の診療施設からの紹介も多く、肛門外科標榜は木曜日の一日であるが、常勤で外科診療に携わっている利点から、日々時間が許す限り診察や治療に当たることが可能である。外来診察の際は、専門性を求めて来られる方が安心して受診できるような対応を心掛け、診察で不自由・不快な思いを持たれないように努力している。肛門疾患に対しては、一般的な対応を主として、外来処置や生活指導・薬物療法など保存治療に重きを置き、症状によって、また患者さんのQOLの面から手術適応を決めている。近年大腸がんも増加傾向にあり、肛門症状で受診された患者には大腸検査を受けていただくようにしている。専門外来として“ストーマ外来”を認定看護師とともに行っている。

（部長 柴田 佳久）

## 2. 新規登録疾患

### (1) 悪性新生物

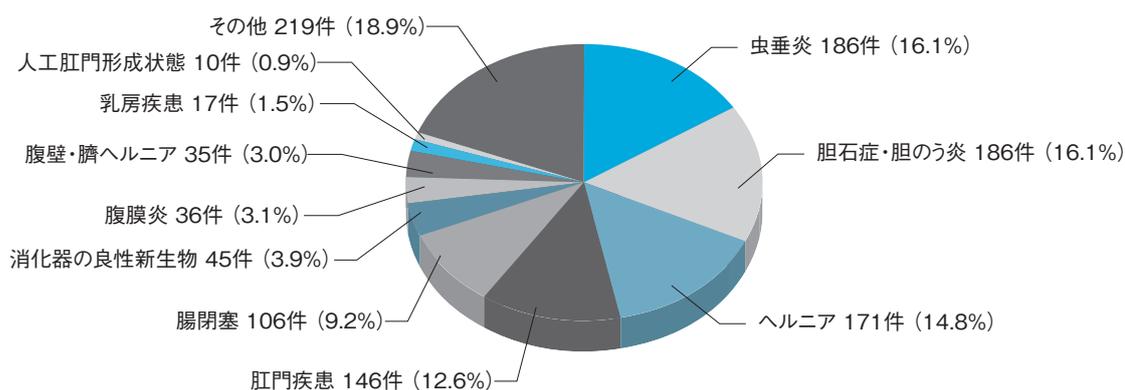
総数：586件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4 分の 1	52	C504
	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	49	C509
結腸の悪性新生物	結腸の悪性新生物, 上行結腸	41	C182
	結腸の悪性新生物, S 状結腸	41	C187
胃の悪性新生物	胃の悪性新生物, 胃, 部位不明	70	C169
	胃の悪性新生物, 胃体部	10	C162
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	80	C20
膵の悪性新生物	膵の悪性新生物, 膵頭部	15	C250
	膵の悪性新生物, 膵管	8	C253
続発性悪性新生物	肝及び肝内胆管の続発性悪性新生物	23	C787
	後腹膜及び腹膜の続発性悪性新生物	6	C786
肝及び肝内胆管の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物, 肝細胞癌	10	C220
	肝及び肝内胆管の悪性新生物, 肝内胆管癌	6	C221
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 食道, 部位不明	5	C159
	食道の悪性新生物, 胸部食道	4	C151

## (2) 悪性新生物以外

総数：1,157件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
虫垂炎	急性虫垂炎, その他及び詳細不明	142	K358
	詳細不明の虫垂炎	21	K37
胆石症・胆のう炎	胆のう炎を伴わない胆のう結石	111	K802
	急性胆のう炎	34	K810
ヘルニア	一側性又は患側不明のそけいヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	146	K409
	一側性又は患側不明のそけいヘルニア, 閉塞を伴い, え疽を伴わないもの	12	K403
肛門疾患	痔核, 詳細不明	82	K649
	裂肛, 詳細不明	15	K602
腸閉塞	閉塞を伴う腸癒着[索条物]、イレウス, 詳細不明	43	K565, K567
	その他及び詳細不明の腸閉塞	29	K566
消化器の良性新生物	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, その他の消化器	10	D377
腹膜炎	急性腹膜炎	32	K650
腹壁・臍ヘルニア	臍ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	17	K429
	癒痕ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	11	K432
乳房疾患	乳房の良性新生物	17	D24
人工肛門形成状態	人工肛門造設状態	8	Z933

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数 36,186人      年間外来新患者数 2,005人  
 年間入院患者数 23,530人      年間入院新患者数 1,990人

#### (2) 2020年1月～12月入院概要 (全2,099人、平均入院期間10.9日、未退院0人)

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 日数(日)
イレウス	手術	51	22.8
	保存療法	107	8.3
外傷	手術	5(1:医原)	40.9
	IVR	1	12
	保存療法	10	9.1
血管系緊急 (塞栓・解離など)	手術	2	17
	IVR	6	11.3
	保存	11	9.9
合併症治療 (感染性)	手術	1	10
	IVR	1	7
	保存療法	24	14.1
合併症治療 (出血性)	IVR	1	36
合併症治療 (その他)	手術	3	9.3
	IVR	2	9.0
	保存療法	9	16.3
抗がん剤有害事象	保存療法	52	9
	緩和療法	1	27
その他	IVR	1	9
	保存治療	32	8.2
	予定手術	21	7.9
	緊急手術	2	10
	緩和療法	1	48
その他/悪性	保存治療	1	19.0
	緊急手術	1	1
	予定手術	7	24.8
	緩和療法	1	11
甲状腺/良性	手術	16	5.2
甲状腺/悪性	手術	10	7.8
副腎良性	予定手術	0	-
新生児	緊急手術	0	-
非新生児	予定手術	69	2.3
	緊急手術	7	3.4
	保存療法(検査)	7	3.7
	手術中止	1	1
腹腔内癌再発	手術	7	15.9
	保存・緩和療法	7	26.4
腹膜炎	手術	29	24.2
	IVR	1	46.0
	保存療法	24	13.9
ヘルニア	手術	224	3.1
	保存療法	3	7
	手術中止	1	2.0
痔核・痔瘻	手術	13	6.8
	保存療法	1	4
	手術中止	1	1
虫垂	待機手術	29	5.2
	緊急手術	101	4.9
	保存療法	30	6.7

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 日数(日)
胃十二指腸/良性	予定手術	6	22
	緊急手術	11	16
	IVR	2	11.5
	保存治療	7	27.3
肥満症	予定手術	13	13.5
胃十二指腸/悪性	予定手術	97	18.3
	化学療法	8	3.6
	放射線治療	1	15.0
	緩和療法	6	12.3
	保存療法	32	15.7
	IVR	4	29.5
	手術中止	1	7.0
肝胆膵脾	予定手術	233	10.3
	緊急手術	31	6.6
	IVR	2	4.0
	保存療法	22	11.3
	手術中止	5	7.4
小・大腸/悪性	予定手術	185	17.2
	緊急手術	22	20.7
	保存療法	75	12.6
	緩和療法	21	10.6
	放射線治療・IVR	6	19.2
	化学療法	1	5.0
小・大腸/良性	予定手術	52	14.6
	緊急手術	3	11.3
	保存療法	5	10.6
	手術中止	1	0.0
食道/悪性	予定手術	5	26.2
	保存療法	12	13.4
	化学療法	14	10.1
	放射線治療・IVR	3	28.0
乳腺/その他	予定手術	9	3.1
乳腺/悪性	予定手術	92	5.9
	保存療法	53	17.2
	緩和療法	5	5.2
	化学療法	1	16
	放射線治療・IVR	11	20.5
CVポート関連	保存療法	1	4
	予定手術	70	4.5
	緊急手術	3	17
術後後遺症その他	保存療法	41	15.4
	IVR	2	30.5
	緊急手術	1	1

**(3) 一般外科・小児外科手術数 (2020年) 1,584例**

①一般外科	1,584	(オ)小腸・大腸	
全身麻酔	1,298	a良性疾患	124
脊髄麻酔	33	(a)小腸切除	27(2)
局部麻酔	253	(b)腸瘻造設	6
(ア)甲状腺	24	(c)腸瘻閉鎖	40
a良性疾患		(d)腸吻合	2
(a)部分切除	0	(e)結腸直腸切除	21(6)
(b)葉切、亜全摘、全摘	16	(f)大腸亜全摘	0
b悪性疾患		(g)癒着剥離	28(1)
(a)部分切除、亜全摘、他	2	(h)経肛門/経仙骨	0
(b)全摘	4	(i)単開腹/その他	0
(c)その他	2	a悪性疾患	221
(イ)乳腺	112	(a)腸瘻造設	32(5)
a良性疾患	11	(b)腸吻合	1
摘出	9	(c)小腸切除	4
腺管区域切除	2	(d)結腸切除	118(54)
b悪性疾患	91	(e)直腸切除(高位、低位)	44(28、ロボット12)
(a)定型乳切	0	(f)直腸切断	12(6、ロボット2)
(b)非定型乳切(Bt+Ax)	17	(g)経肛門/仙骨的切除	0
(c)Bt±SLNB	47	(h)骨盤内臓全摘	9
(d)乳房温存手術±SLNB	27	(i)大腸亜全摘	1
(e)Tm他	0	(j)単開腹/その他	0
(ウ)食道	5	(カ)虫垂炎(虫垂/回盲部切除)	108(93)
a良性疾患	0	(キ)肝/胆/膵/脾	
b悪性疾患		(a)肝部分切除	23(9)
(a)胸部食道切除	5	(b)肝区域/葉切除	12
(b)その他	0	(c)胆嚢床切除	0
(エ)胃・十二指腸		(d)開腹胆嚢摘出術	13
a良性疾患	25	(e)腹腔鏡下胆嚢摘出術	174
(a)胃切除、胃全摘	1	(f)開腹胆管切開術	3
(b)体網充填	11	(g)胆管消化管吻合	0
(c)スリーブ状胃切除	13(13)	(h)胆管切除	1
b悪性疾患	98	(i)膵頭十二指腸切除(PD)	1
(a)幽門側胃切除	52(23、ロボット11)	(j)亜全胃温存PD	17
(b)胃全摘	28(3、ロボット1)	(k)膵体尾部切除	12(3)
(c)噴門側胃切除	4(1)	(l)膵全摘	1
(d)胃腸吻合	2	(m)膵部分切除	0
(e)楔状切除/十二指腸切除	9(5、LECS0)	(n)膵管空腸吻合	0
(f)PD	0	(o)脾摘	1(1)
(g)試験開腹/その他	3	(p)胃腸吻合	1
		(q)単開腹/その他	2

(ク)内分泌	(ソ)その他
(a)副甲状腺 …………… 0	(a)非悪性 …………… 34(4)
(b)副腎 …………… 0	(b)悪性 …………… 11
(ケ)ヘルニア	②小児外科(全例全身麻酔)…………… 135
(a)鼠径大腿 …………… 175(40)	(ア)新生児手術…………… 3(1)
(b)腹壁・臍・閉鎖孔など …………… 26(3)	(イ)鼠径ヘルニア…………… 50(48)
(コ)痔核痔瘻…………… 13	(ウ)虫垂切除…………… 29(25)
(サ)局麻手術…………… 140	(エ)精巣固定…………… 17
(a)摘出、生検…………… 16	臍形成…………… 10
(b)CVポート …………… 123	(オ)幽門筋切開…………… 0
(c)その他 …………… 1	(カ)その他…………… 26(6)
(シ)外傷/医原性 …………… 15	(キ)局麻手術…………… 0
(ス)腹膜炎…………… 46(1)	
(セ)腹腔内癌再発…………… 18	( )はその内の鏡視下手術件数、ロボット支援手術

# 呼吸器外科

## 1. 概要

当科は、東三河地区の重要な基幹病院として、肺癌などの悪性疾患、気胸のような良性疾患、胸部外傷など、地域医療に必要とされる胸部外科疾患を幅広く取り扱い、体への負担が少ない低侵襲手術を積極的に実施している。

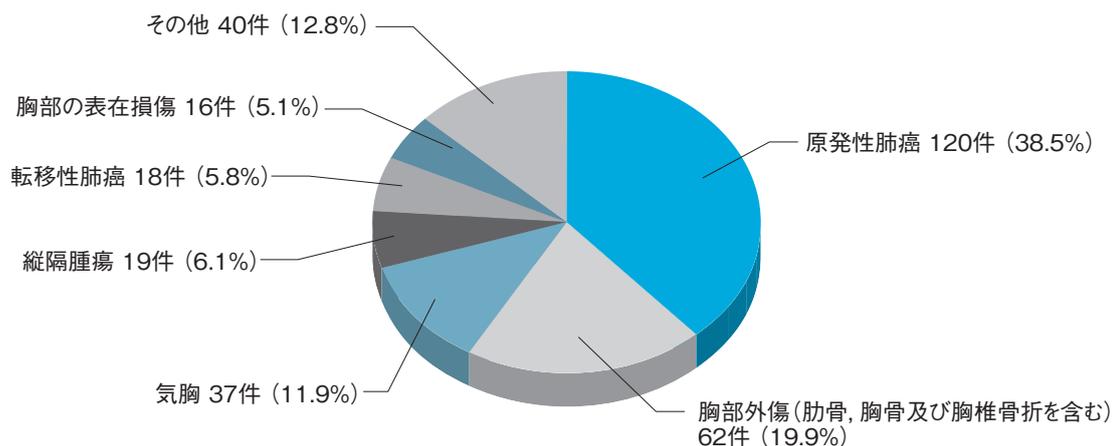
早期肺癌の標準術式は肺葉切除だが、ごく早期の肺癌もしくは低肺機能の患者には、より切除範囲が小さく呼吸機能を温存できる肺区域切除や部分切除を検討する。また、肺葉切除に関しても、従来行われてきた標準的な開胸手術や胸腔鏡下手術だけでなく、できるかぎり体に負担の少ない低侵襲手術を適応することができるか十分に検討し、治療を提案している。

毎週定期的に開催するカンファレンスでは、呼吸器内科や放射線科とともに症例検討を行い、患者さんに応じた治療を複数の医師で検討している。

(部長 成田 久仁夫)

## 2. 新規登録疾患

総数：312件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
原発性肺癌	気管支及び肺の悪性新生物, 気管支又は肺, 部位不明	108	C349
胸部外傷(肋骨, 胸骨及び胸椎骨折を含む)	肋骨骨折	19	S2230
	外傷性血胸	13	S271
気胸	自然気胸	21	J931
	続発性気胸	13	J938
縦隔腫瘍	その他及び部位不明の胸腔内臓器の良性新生物, 胸腺	9	D150
	中耳, 呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物, 縦隔	6	D383
転移性肺癌	肺の続発性悪性新生物	18	C780
胸部の表在損傷	胸部の挫傷	16	S202

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数 2,858人 年間外来新患者数 301人  
 年間入院患者数 1,403人 年間入院新患者数 201人

# 心臓外科・血管外科

## 1. 概要

先天性心疾患：NMCにおいて1kgに満たない小さな子たちに救命的な手術を行っている。以前より一貫して将来を見越した胸筋温存による手術を行っており、この術式を取り入れている施設は全国でもごくわずかである。それ以外の症例については他院へお連れして手術を行っている。

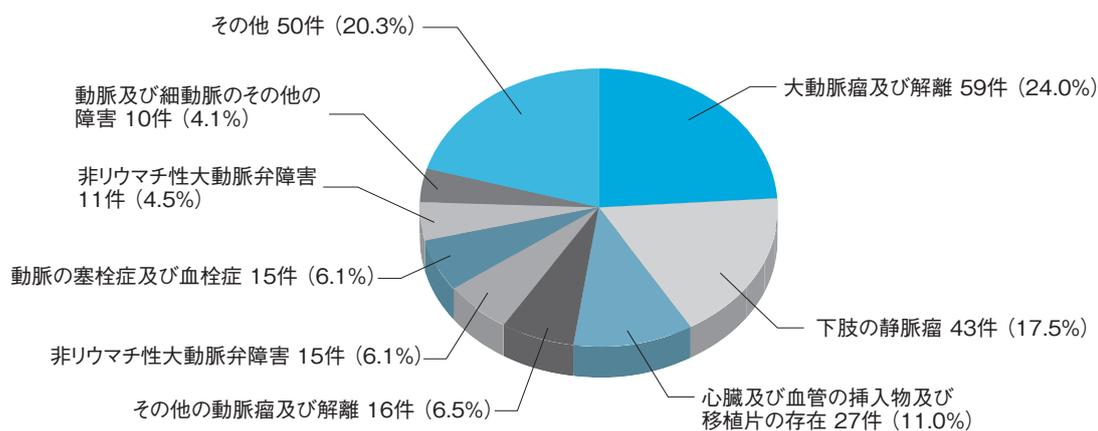
成人心疾患：症例数が少なく、チームの練度が上がらないのが現状であるが、日々のカンファレンスを充実させ一步一步進んでいる。

血管外科：下肢静脈瘤に対して血管内焼灼手術を取り入れてから、5年以上が経ち、多数の方々に施行してきたが、静脈瘤の再開通例はなく、海外のデータと比較してもよい成績であると自負している。より安全で早期回復を目指した手術を行うよう、スタッフともども進めていく所存である。

(部長 中山 雅人)

## 2. 新規登録疾患

総数：246件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
大動脈瘤及び解離	腹部大動脈瘤, 破裂の記載がないもの	35	I714
	大動脈の解離[各部位]	14	I710
下肢の静脈瘤	潰瘍又は炎症を伴わない下肢の静脈瘤	36	I839
心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	その他の心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	23	Z958
その他の動脈瘤及び解離	部位不明の動脈瘤及び解離	10	I729
非リウマチ性大動脈弁障害	大動脈弁閉鎖不全(症)	13	I351
動脈の塞栓症及び血栓症	詳細不明の動脈の塞栓症及び血栓症	11	I749
非リウマチ性僧帽弁障害	僧帽弁閉鎖不全(症)	11	I340
動脈及び細動脈のその他の障害	動脈の狭窄	10	I771

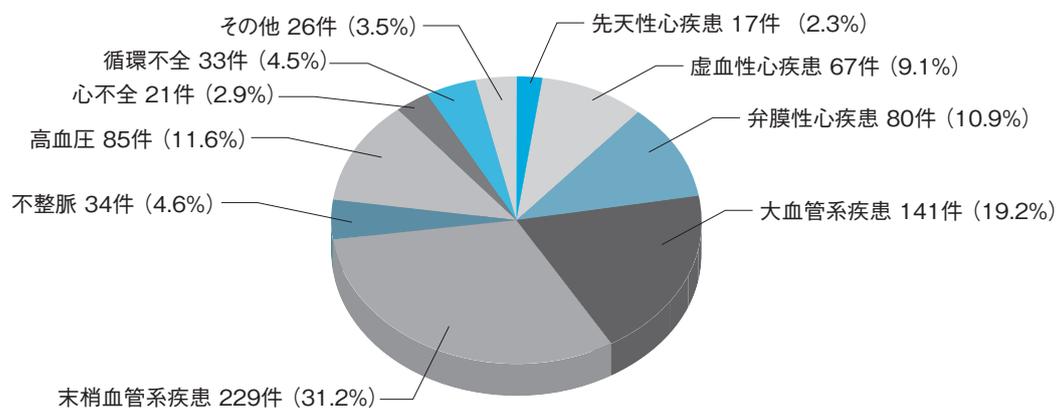
### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数 3,017人 年間外来新患者数 136人  
 年間入院患者数 2,496人 年間入院新患者数 140人

#### (2) 疾患別頻度

総数：733件



# 移植外科

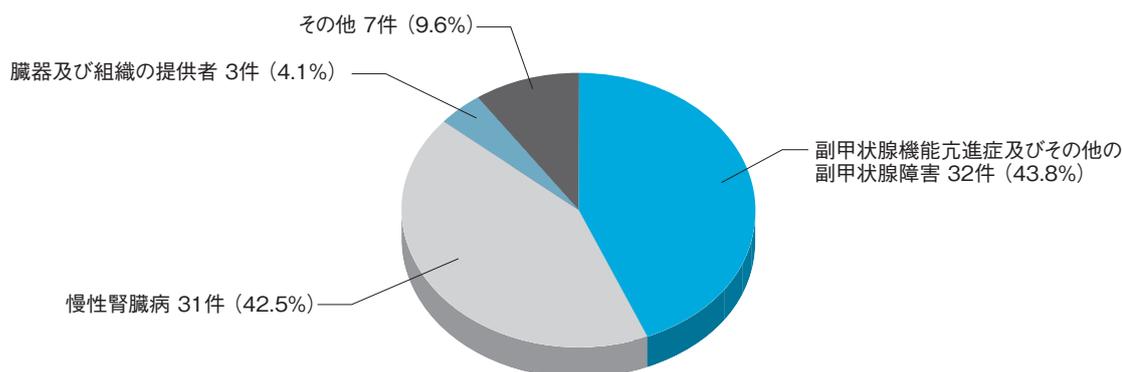
## 1. 概要

2010年4月に移植外科が標榜され、2012年5月に大塚聡樹医師（15年間勤務）が異動し、2021年3月に岩瀬勇斗医師が新しく赴任した。2012年10月からは東三河地域において唯一の腎移植認定施設となってしまったため、当地域の献腎移植登録患者の待機期間中のフォローアップは当院のみで行っている（常勤2人、非常勤1人体制）。また他院で移植された腎移植患者や肝臓・膵臓移植患者の定期通院も受け入れており、愛知県だけでなく全国の移植施設との間で病診連携がなされている。生体腎移植希望患者は年々増加しており今後、腎移植症例はさらに増えてゆくものと思われる。また長期透析に伴い骨代謝異常をおこす続発性副甲状腺機能亢進症に対する外科的手術（副甲状腺全摘出術+前腕筋肉内自家移植術）件数も増加しており、昨年は名古屋第二赤十字病院に次ぎ全国で二番目に多い症例数となった。副甲状腺手術症例も県をまたいで、より遠方からの紹介も増えている。

（部長 長坂 隆治）

## 2. 新規登録疾患

総数：73件



## 3. 活動報告

### (1) 患者状況

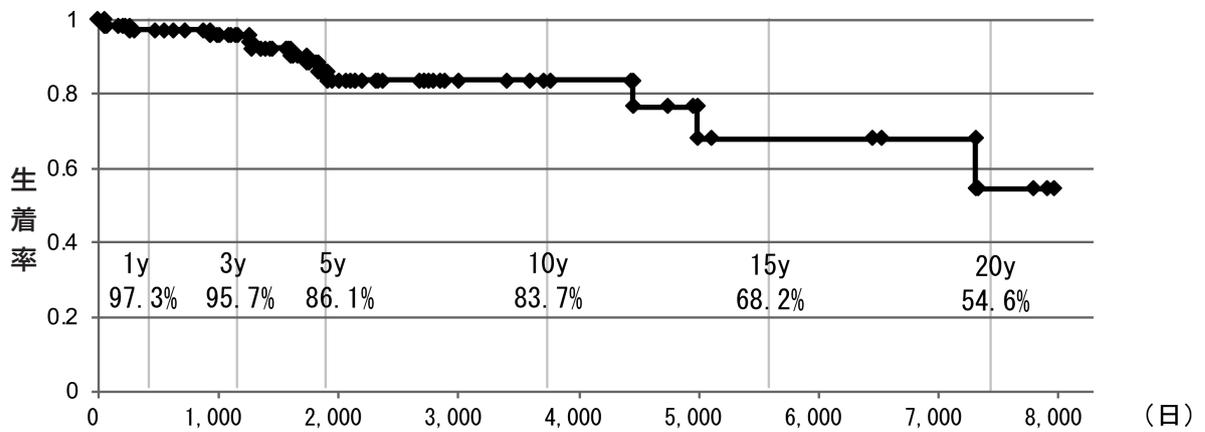
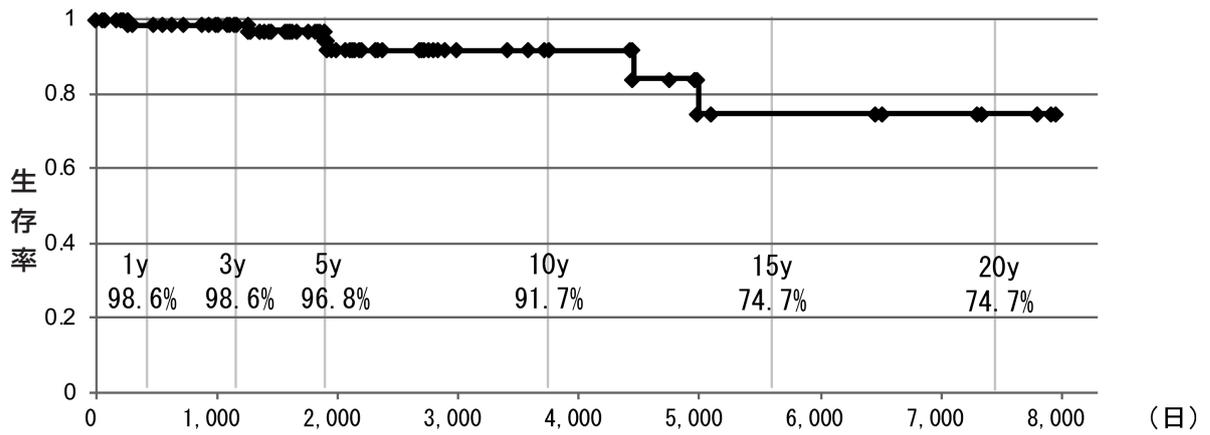
年間外来患者数	1,321人	年間外来新患者数	53人
年間入院患者数	619人	年間入院新患者数	66人

### (2) 外来患者の状況

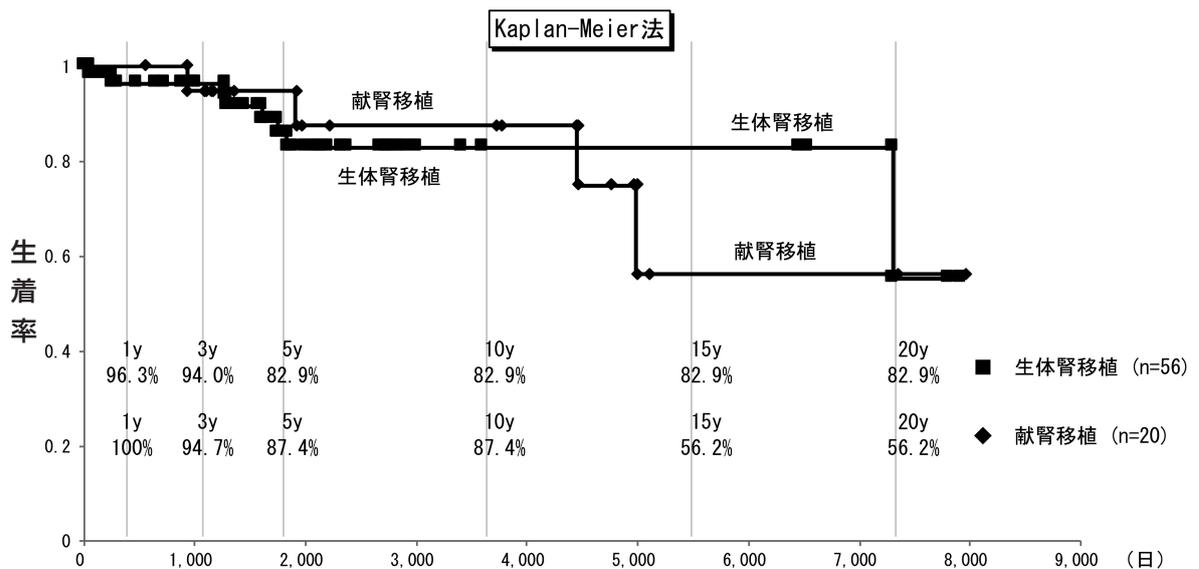
	疾患名	件数(件)
1	献腎移植登録外来	101
2	腎移植後	93
3	生体移植ドナー術後（肝臓、腎臓、膵臓）（当院外患者）	71
4	副甲状腺手術後	63
5	肝移植後	9
6	膵移植後	1

（2021年3月1日現在）

(3) 当院腎移植症例の生着率と生存率 (2021年4月現在, N=76)



(4) 当院腎移植症例の生着率 (生体腎移植 vs 献腎移植) (2021年3月現在, n=76)



# 整形外科

## 1. 概要

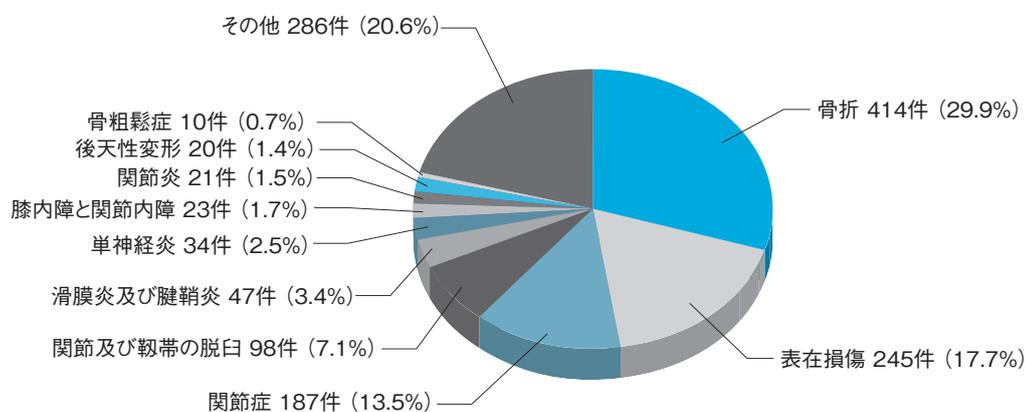
2020年12月31日時点での構成は常勤医（山内健一、藤田護、三矢聡、武田真輔、三矢未来、福井順）と専攻医である。専門外来は股関節（山内）、膝・肩関節（藤田、福井）、上肢、骨盤外傷（三矢聡）、上肢（武田）を担当している。腫瘍については全員で診療をおこない、毎月第2月曜日に名古屋大学整形外科腫瘍グループに骨軟部腫瘍外来をご協力いただいている。

年2回（2月、8月）豊橋整形外科研修セミナーを主催、また毎月東三河整形外科医会に参加し研修、および近隣の医療機関の医師との交流に努めている。

（部長 山内 健一）

## 2. 新規登録疾患

総数：1,385件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
骨折	大腿骨頸部骨折	51	S7200
	橈骨遠位端骨折	40	S5250
表在損傷	頸部の表在損傷, 部位不明	40	S109
	膝の挫傷	20	S800
関節症	その他の原発性膝関節症	79	M171
	股関節症, 詳細不明	58	M169
関節及び靭帯の脱臼	半月裂傷, 新鮮損傷	34	S832
	膝の(前)(後)十字靭帯の捻挫及びストレイン	20	S835
滑膜炎及び腱鞘炎	ばね指	18	M6534
	滑膜炎及び腱鞘炎, 詳細不明	14	M6599
単神経炎	尺骨神経の病変	12	G562
膝内障と関節内障	膝内障, 詳細不明	10	M2399
関節炎	化膿性関節炎, 詳細不明	3	M0099
	単(発性)関節炎, 他に分類されないもの	3	M1313
後天性変形	指の変形	14	M200
骨粗鬆症	骨折の骨癒合不全[偽関節]	3	M8416

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	23,851人	年間外来新患者数	3,594人
年間入院患者数	21,859人	年間入院新患者数	1,123人

#### (2) 骨折頻度

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	大腿骨	96	5	手首及び手	57
2	前腕	70	6	その他	46
3	肩及び上腕	63	7	足 (足首を除く)	23
4	下腿 (足首を含む)	59		計	414

#### (3) 手術実績

- ①手術症例件数 1,316件  
 ②麻酔別症例件数 (重複あり)

名 称	件 数(件)
全身麻酔	204
腰椎麻酔	499
伝達麻酔	564
局所麻酔	464
その他	67
計	1,798

③分野別症例件数（重複あり）

(ア) 関節外科

a 人工関節

名 称	件 数(件)
人工股関節	80
人工骨頭股関節	38
人工膝関節	37
人工肩関節	2
人工肘関節	1
計	158

b 関節形成術

名 称	件 数(件)
股関節	4
膝関節	2
肩関節	3
足関節	8
計	17

c 関節鏡視下手術

名 称	件 数(件)
手関節	51
膝関節	46
肩関節	5
足関節	3
計	105

a+b+c 280件

(イ) 手の外科

名 称	件 数(件)
肘・前腕	132
手指	177
手関節	26
マイクロサージャリー	29
足趾、多合指(趾)	11
計	375

(ウ) 骨軟部外傷

名 称	件 数(件)
骨盤	13
大腿骨近位部	147
大腿	10
膝	26
下腿	91
足関節-足	63
鎖骨-上腕	68
抜釘	169
計	587

(エ) 切断術(手指を除く) 34件

(オ) 骨髓炎・感染症 39件

(カ) 腫瘍 21件

(キ) その他 95件

計 1,431件

# リウマチ科

## 1. 概要

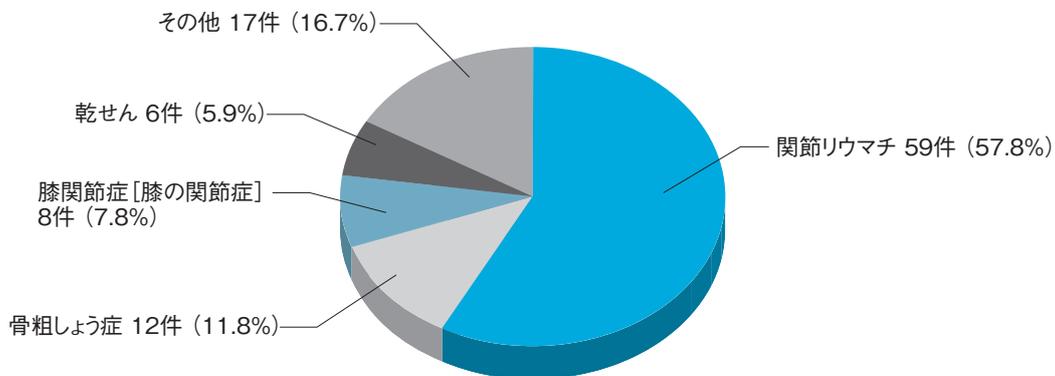
当科は内科的治療を基本としているが、整形外科より発展したため外科的治療も行っている。当科の診療の4本柱について記す。2020年は平野、小杉山、長谷川、大石（代務医師）で診療を行ってきた。2人のリウマチ科常勤医を中心に、代務医師、研修中の整形外科若手医師、他院勤務医師の助けも借りて診療を行った。

- ① 関節リウマチ（RA）の薬物治療：MTXを中心とした古典的抗リウマチ薬を早期から使用し、効果不十分例には生物学的製剤やJAK阻害剤を導入し関節破壊の防止に努めている。新薬の治験も行っている。
- ② 各種リウマチ性疾患（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、SAPHO症候群、分類不能の脊椎関節炎、RS3PE症候群、炎症性腸疾患関連関節炎、好酸球性筋膜炎）：比較的珍しい疾患群であるが対応し、疾患ごとの適切な治療を行っている。
- ③ 骨粗鬆症の診療：古典的薬剤に加え、新規薬剤（テリパラチド、デノスマブ、ロモソズマブ）が出現し、パラダイムシフトが起こっている。骨折診療の潮流は治療から予防に向かっている。
- ④ RAの外科的治療：長期罹病RA患者には外科的治療が必要であり、薬物治療とのコンビネーションこそが最高の結果をもたらす。人工関節置換術、関節固定術、関節形成術を行っている。

（部長 平野 裕司）

## 2. 新規登録疾患

総数：102件



## 3. 活動報告

### (1) 患者状況

年間外来患者数	12,053人	年間外来新患者数	162人
年間入院患者数	583人	年間入院新患者数	29人

## (2) 実績

関節リウマチ患者背景		
症例数(例)		1011
新患者数(人)		74
性別	男(人)	249
	女(人)	762
	女性率(%)	75.4
平均年齢(歳)		67.1
平均罹病期間(年)		13.8
罹病期間分類(%)	2年以下	13.6
	3年～9年	29.7
	10年以上	56.7
Stage(%)	I	26.2
	II	14.1
	III	25.7
	IV	34.1
Class(%)	1	43.5
	2	44.0
	3	10.0
	4	2.5
RF陽性率(%)		78.1
ACPA陽性率(%)		76.4

関節リウマチ薬物治療	
MTX投与者(例)	619
MTX投与率(%)	61.2
投与例の平均MTX投与量(mg/w)	7.4
GST投与者(例)	17
GST投与率(%)	1.7
SASP投与者(例)	187
SASP投与率(%)	18.5
TAC投与者(例)	163
TAC投与率(%)	16.1
IGU投与者(例)	151
IGU投与率(%)	14.9
BUC投与者(例)	9
BUC投与率(%)	0.9
PSL投与率(%)	14
投与例の平均PSL投与量(mg/day)	4.7
生物学的製剤経験者(例)	420.0
生物学的製剤経験率(%)	41.5

手術件数	
人工膝関節全置換術(件)	1
人工膝関節単顆置換術(件)	3
人工股関節置換術(件)	3
足趾形成術(件)	3
RA手関節手術(件)	0
足関節固定術(件)	7
その他(件)	28
合計手術件数(件)	11

関節リウマチ患者の骨粗鬆症治療		
骨粗鬆症治療の施行(例)	あり	457
	なし	554
骨粗鬆症治療の施行率(%)		45.2
ビタミンD製剤(例)	エディロール	252
	<i>a</i> カルシドール	49
	ロカルトロール	0
	デノタス	57
ビスフホスホネート製剤(例)	アクトネル	52
	ボノテオ	160
	ボナロンゼリー	9
	ボンビバ	5
	リクラスト	35
SERM(例)	エビスタ	11
	ビビアント	5
PTH製剤(例)	フォルテオ(投与中)	0
	フォルテオ(延べ数)	81
	テリパラチドBS	3
	テリパラチドBS(延べ数)	3
抗RANKL抗体(例)	プラリア(投与中)	109
	プラリア(延べ数)	145
抗スクロスチン抗体(例)	イベニティ(投与中)	19
	イベニティ(延べ数)	22
その他(例)	グラケー	2

関節リウマチ臨床成績		
平均CRP(mg/dl)	0.54	
平均DAS28(ESR)	3.02	
DAS28(ESR)疾患活動性分類(%)	High	5.3
	Moderate	32.3
	Low	25.0
	Remission	37.4
平均SDAI	5.1	
SDAI疾患活動性分類(%)	High	2.2
	Moderate	11.0
	Low	32.4
	Remission	54.5
Boolean4(%)	46.6	
平均mHAQ	0.324	
mHAQ<0.5(%)	73.9	

関節リウマチ類縁疾患	累計	通院中
強直性脊椎炎(例)	13	9
乾癬性関節炎(例)	55	34
リウマチ性多発筋痛症(例)	132	49
SAPHO症候群(例)	31	15
RS3PE症候群(例)	30	10
炎症性腸疾患関連関節炎(例)	5	3

関節リウマチ患者の通院中断		
死亡(例)	18	
連絡無く通院中断(例)	5	
他医紹介	通院困難(例)	27
	関節リウマチ以外の病気の転院に伴って(例)	11
	遠方への転居(例)	7
	患者希望で紹介(転居通院困難以外)(例)	17
関節リウマチから他疾患に診断変更(例)	7	
寛解などで終了(例)	2	
その他・分類不能(例)	5	
計	99	

関節リウマチ以外の患者の骨粗鬆症診療	
閉経後骨粗鬆症(例)	79
ステロイド性骨粗鬆症(例)	83
性腺機能不全による骨粗鬆症(例)	10
妊娠後骨粗鬆症(例)	3
男性骨粗鬆症(例)	10
内分泌性骨粗鬆症(例)	1
廃用性骨粗鬆症(例)	4
分類不能の骨粗鬆症(例)	1
計	191

※通院中の患者数

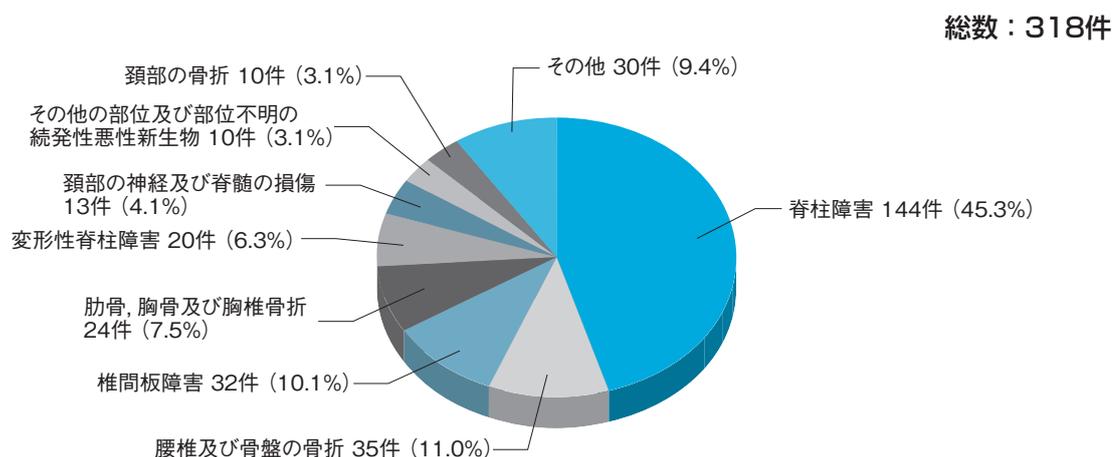
# 脊椎外科

## 1. 概要

脊椎外科は2005年4月1日より院内標榜科として新設された。2020年の脊椎外科医は吉原（部長 専門医、指導医）、岡田、館の3人であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行い、年間200件程の手術治療を行っている。主な疾患は、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアであるが、当院が3次救急病院であるため、脊椎外傷の治療も精力的に行っている。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら治療を行っている。2014年から手術室にO-arm CTとナビゲーション機器を導入し、より安全性を向上させた。また、高齢化に伴い増加している骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対してはセメント治療（BKP）も導入を始めた。また腰椎椎間板ヘルニアに対しては、保存療法として椎間板酵素注入療法も開始した。2021年からは脊椎脊髄外科専門医の増員を予定しており、より積極的かつ安全な治療を提供していく。

（部長 吉原 永武）

## 2. 新規登録疾患



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
脊柱障害	脊柱管狭窄(症)	55	M4806
	その他の脊椎症	37	M4782
腰椎及び骨盤の骨折	腰椎骨折	35	S3200
椎間板障害	その他の明示された椎間板ヘルニア	25	M512
肋骨, 胸骨及び胸椎骨折	胸椎骨折	22	S2200
変形性脊柱障害	脊椎すべり症	9	M4316
頸部の神経及び脊髄の損傷	頸髄のその他及び詳細不明の損傷	13	S141
その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物	骨及び骨髄の続発性悪性新生物	10	C795
頸部の骨折	頸部の骨折, 部位不明	9	S1290

### 3. 活動報告

#### (1) 主な対象疾患

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頸椎症性頸髄症 腰椎迂り症・分離症 頸椎椎間板ヘルニア 後縦靭帯骨化症・黄色靭帯骨化症・黄色靭帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍 脊椎感染症 脊椎外傷 その他

#### (2) 手術実績

術式	件数(件)
頸椎椎弓形成術	37
頸椎椎間孔拡大術	2
頸椎前方除圧固定	1
頸椎後方固定術	21
胸椎除圧固定	3
胸椎椎弓切除	10
椎間板ヘルニア摘出	28
椎弓切除(腰椎除圧術)	65
脊椎固定術	44
XLIF	1
胸腰椎前方固定	1
胸腰椎後方固定	17
胸腰椎前方後方同時固定	1
脊椎脊髄腫瘍	3
その他	35
計	269

# 脳神経外科

## 1. 概要

当科では新生児から超高齢者まで脳神経外科疾患のほぼ全ての領域を対象に、高侵襲な手術から、血管内治療や神経内視鏡手術などの低侵襲かつ最先端の治療を導入して可能な限り当院にて治療が完結できるよう努めている。手術件数は年々増加し、2019年に初めて400件を超え、2020年のコロナ禍以降も手術件数を維持している。hybrid手術室も稼働し、より難易度の高い脳血管障害を中心とした手術の適応拡大を図っている。

当科の該当疾患は、脳血管障害、脳腫瘍、外傷、先天性疾患、感染など多岐にわたるが、その中で脳卒中に於いては2019年に施行された「脳卒中・循環器病対策基本法」に基づき、脳神経内科と連携・協力して脳卒中ケアユニットを設置し、2020年4月からは一次脳卒中センターを開設した。専門医も増員され、需要が高まる血栓回収療法などの高度医療の提供に積極的に努めている。

また地域医療では東三河地域の関連施設とともに構築してきた「穂の国脳卒中連携パス」を今後も検討・改訂しながら、急性期から回復期および維持期医療への円滑な地域連携を引き続き図っていきたい。

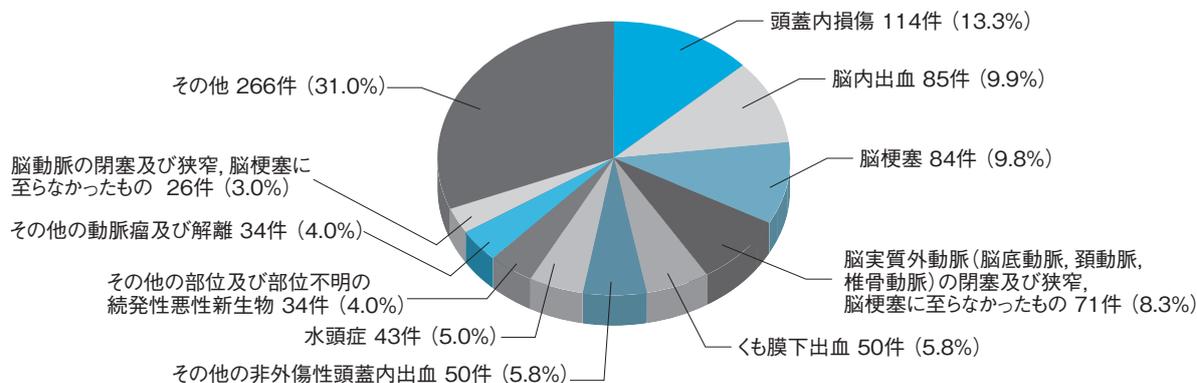
少子高齢化時代の中で、スタッフ一同、迅速・安全・確実な診療を心掛け、地域の皆様に信頼され広く親しまれる病院を目指して努力する所存である。

(第一部長 雄山 博文)

(文責 第二部長 若林 健一)

## 2. 新規登録疾患

総数：857件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
頭蓋内損傷	外傷性硬膜下出血	25	S065
	びまん性脳損傷	15	S062
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	64	I610
脳梗塞	脳梗塞, 詳細不明	39	I639
	脳動脈の血栓症による脳梗塞	16	I633
脳実質外動脈(脳底動脈, 頸動脈, 椎骨動脈)の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	頸動脈の閉塞及び狭窄	67	I652
くも膜下出血	くも膜下出血, 詳細不明	14	I609
	前交通動脈からのくも膜下出血	10	I602
その他の非外傷性頭蓋内出血	硬膜下出血(急性)(非外傷性)	50	I620
水頭症	水頭症, 詳細不明	21	G919
	正常圧水頭症	13	G912
その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物	脳及び脳髄膜の続発性悪性新生物	34	C793
その他の動脈瘤及び解離	頸動脈瘤及び解離	16	I720
	椎骨動脈の動脈瘤及び解離	15	I726
脳動脈の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	中大脳動脈の閉塞及び狭窄	23	I660

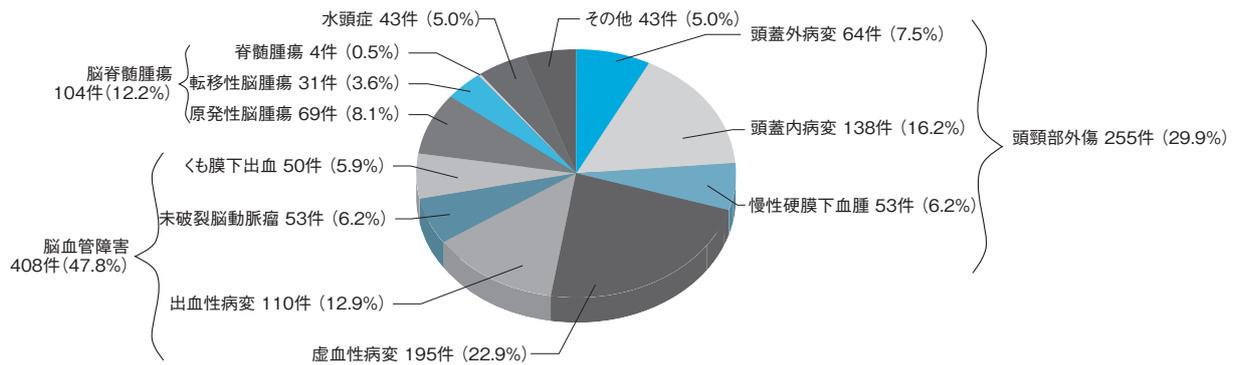
### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	13,234人	年間外来新患者数	1,722人
年間入院患者数	15,454人	年間入院新患者数	785人

## (2) 疾患群別に見た症例数

総数：853件



## (3) 血管内手術件数

術式	件数(件)
経皮的血管形成術	29
急性期再開通療法	55
脳動脈瘤塞栓術	36
硬膜静脈瘻塞栓術	6
脳動静脈奇形塞栓術	1
その他の血管内手術	25
計	152

# 小児科

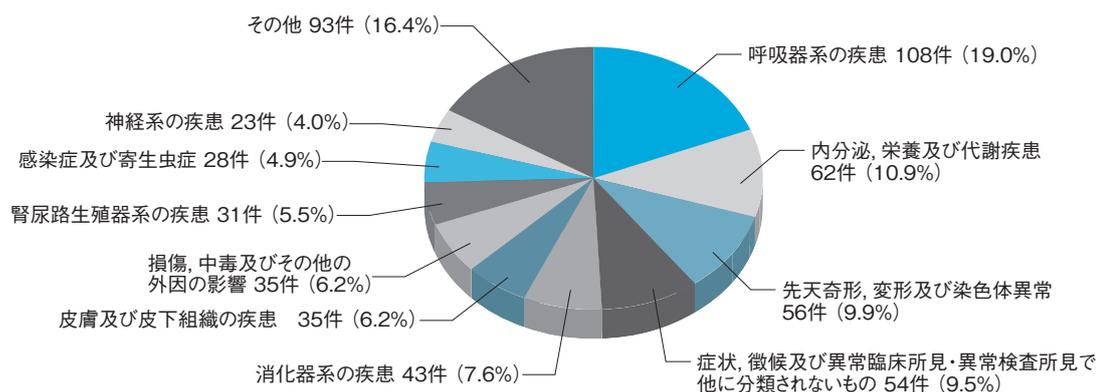
## 1. 概要

小児科病棟スタッフは皆、東三河地域の最後の砦を担うという緊張感を持って対応している。小児科内のサブスペシャリティとしてはアレルギー疾患、神経疾患、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患、血液腫瘍疾患をカバーし、高度特殊医療を除けば各分野ともに専門施設と比べても引けを取らない医療レベルを提供できている。また、患者には最善の医療を提供すべく、各分野で対応困難な症例については専門施設との連携をとって対応している。このような体制を維持する意義は、東三河地域で医療が完結することが患者家族への最高のサービスになることにある。特に長期入院を必要とする場合や、月に何度も専門外来にかかる必要がある時には患者家族に大きな負担となり切実な問題となる。一方で東三河地域の小児医療は、一次医療、二次医療、休日夜間診療所の業務、健診医療などの充実に支えられており、当院が二次、三次医療に集中することが可能であるということも忘れてはならない。

(第一部長 村松 幹司)

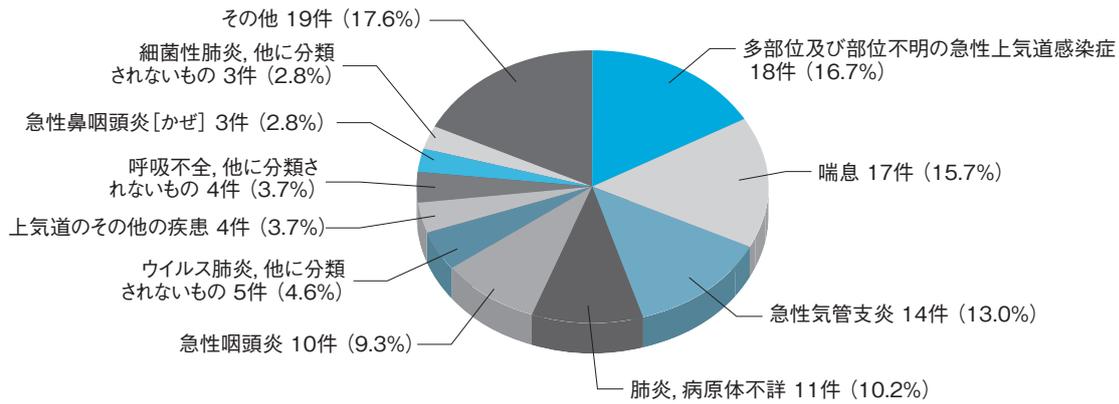
## 2. 新規登録疾患

総数：568件

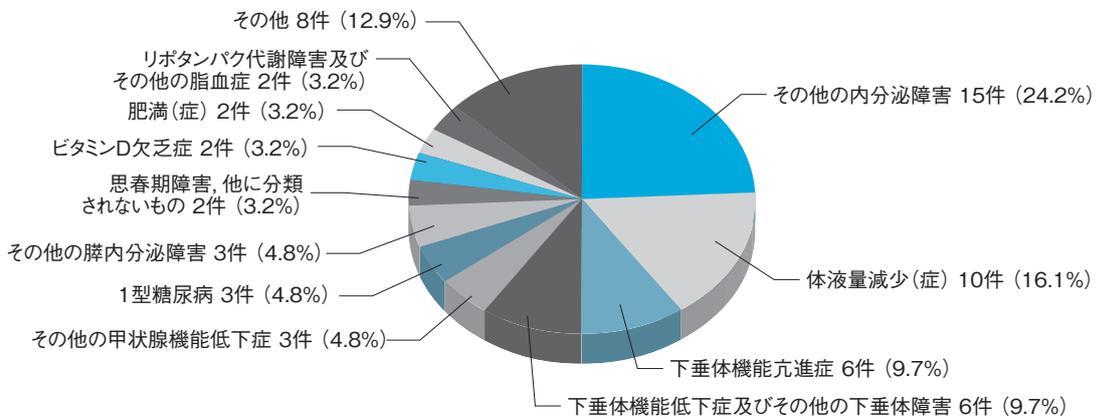


## 上位3位の詳細

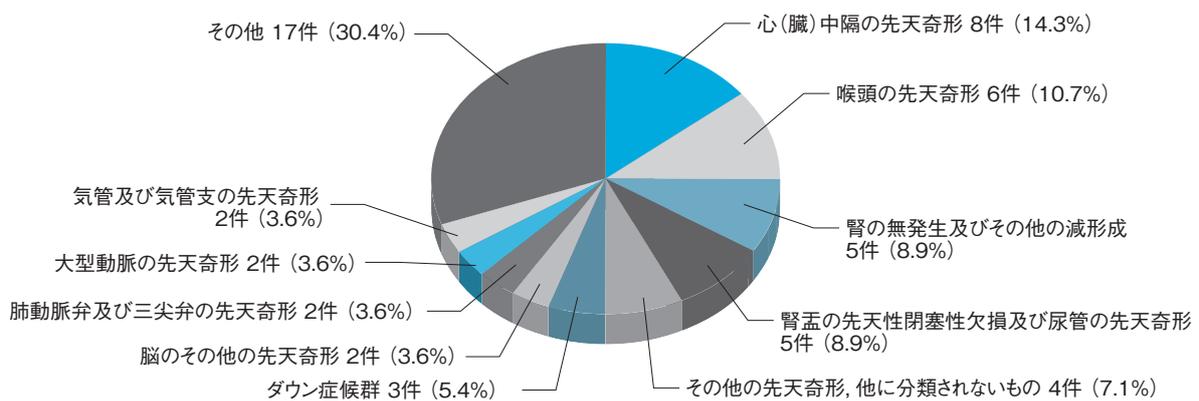
### (1) 呼吸器系の疾患：108件



### (2) 内分泌, 栄養及び代謝疾患：62件



### (3) 先天奇形, 変形及び染色体異常：56件



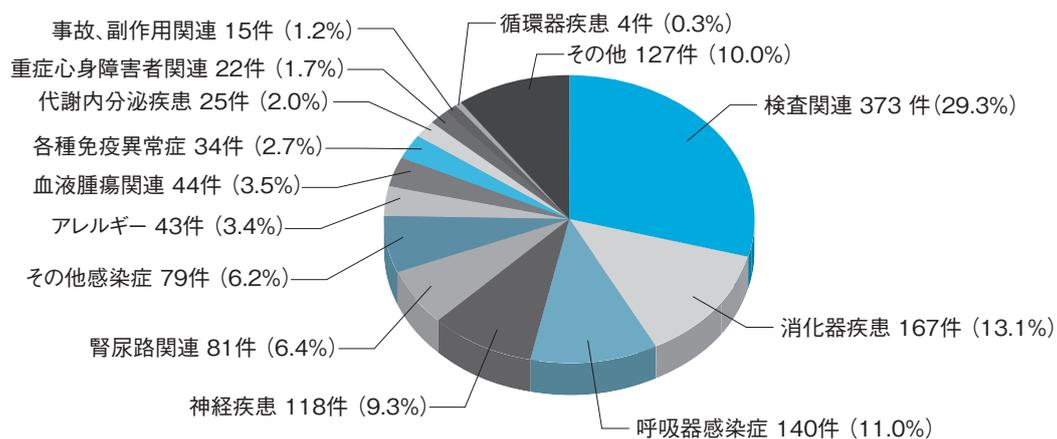
### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	24,877人	年間外来新患者数	1,952人
年間入院患者数	15,073人	年間入院新患者数	1,557人

#### (2) 入院患者疾患別頻度

総数：1,272件



# 小児科（新生児部門）

## 1. 概要

豊橋市民病院新生児医療センターは、東三河地区唯一の総合周産期母子医療センターに指定されている。

2020年の入院数は386例で内266例は院内出生であった。120例の院外出生例においては医師が救急車に同乗して搬送しており、診察依頼があった全ての新生児に対し24時間体制で集中治療を迅速に提供している。一部の外科的治療が必要な例は他施設への搬送を要する例もあるが、その場合も医師が同乗する等、責任をもって搬送にあっている。2020年の死亡例は2例であった。新生児期の医療面のみではなく、患児発達支援や、両親の心のサポートを医師、看護師、理学療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカーが共同して提供している。近隣産科医院への出張を含めた新生児蘇生講習会を定期開催し、地域の周産期医療レベルの向上にも努めている。また本年度より気管気管支鏡検査を積極的に実施し、気道病変の診断・治療に対してより高度な医療を提供できる体制となった。

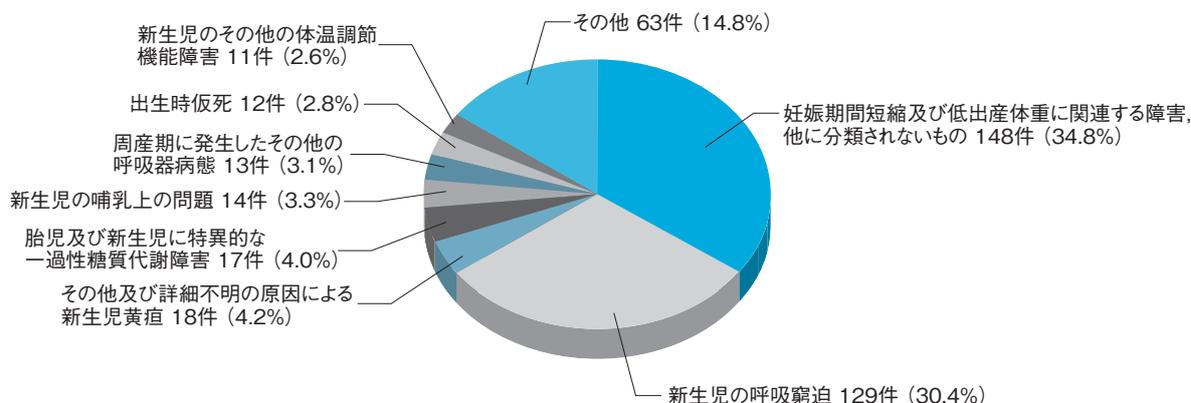
加えて当センターは周産期（新生児）専門医の基幹研修施設に指定されており、現在1名の専門医を育成中である。

（第一部長 村松 幹司）

（文責 第二部長 杉浦 崇浩）

## 2. 新規登録疾患

総件数：425件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害,他に分類されないもの	その他の低出産体重(児)	73	P071b
	その他の早産児	55	P073
新生児の呼吸窮迫	新生児一過性頻呼吸	110	P221
	新生児呼吸窮迫症候群	19	P220
その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸	新生児黄疸, 詳細不明	17	P599
胎児及び新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	その他の新生児低血糖	17	P704
新生児の哺乳上の問題	新生児嘔吐	13	P920
周産期に発生したその他の呼吸器病態	新生児のその他の無呼吸	11	P284
出生時仮死	重度出生時仮死	9	P210
	出生時仮死, 詳細不明	3	P219
新生児のその他の体温調節機能障害	新生児の体温調節機能障害, 詳細不明	11	P819

## 産婦人科

### 1. 概要

周産期部門では、近年の分娩件数の減少と新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う里帰り分娩の制限とあいまって分娩数が減少した。感染症管理センター・保健所と連携し新型コロナ陽性および濃厚接触妊婦の健診や分娩を担当した。

婦人科手術については、当院に2台目となる手術支援ロボット、ダ・ヴィンチXiが導入され一段とロボット手術が増加した。新型コロナウイルス感染症の影響で施設見学者の受け入れは減少したが、当院にはロボット手術の指導者（プロクター）が2名在籍しており、他施設へ指導に出向いた。

薬物療法は卵巣癌において新たなコンパニオン診断・治療薬が適応となり個別化治療が進んだ。子宮筋腫、子宮内膜症をはじめとした良性疾患についてはホルモン製剤の選択肢が増加した。個々の患者のライフスケジュールを考慮した手術術式・実施時期を内分泌療法も組み合わせて、症例により総合生殖医療センターと共同して方針を決定している。

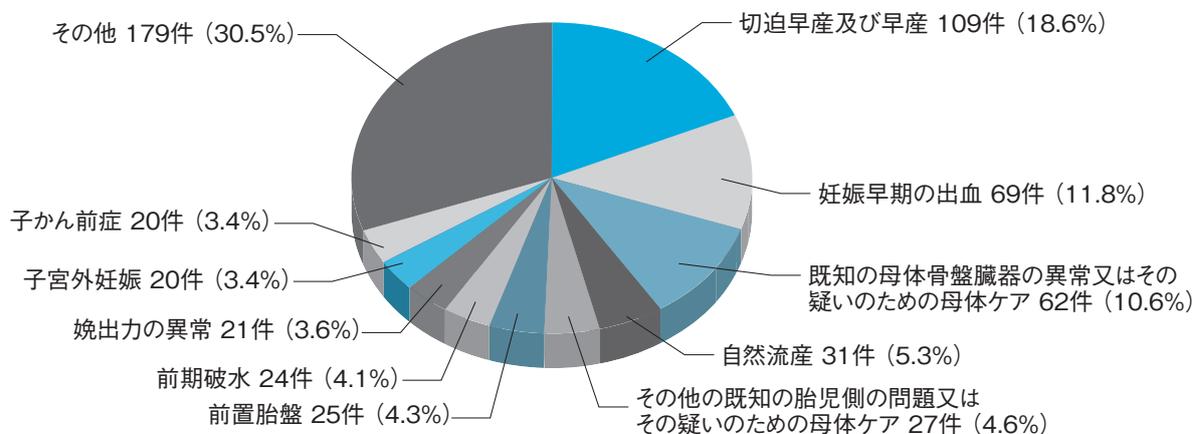
産婦人科（生殖医療含む）医師は2021年4月現在15名、うち産婦人科専攻医4名。周産期、腫瘍、生殖、女性ヘルスケアの産婦人科主要4分野プラス内視鏡について充実した研修体制を提供している

（第二部長 岡田 真由美）

## 2. 新規登録疾患

### (1) 産科（分娩を除く）

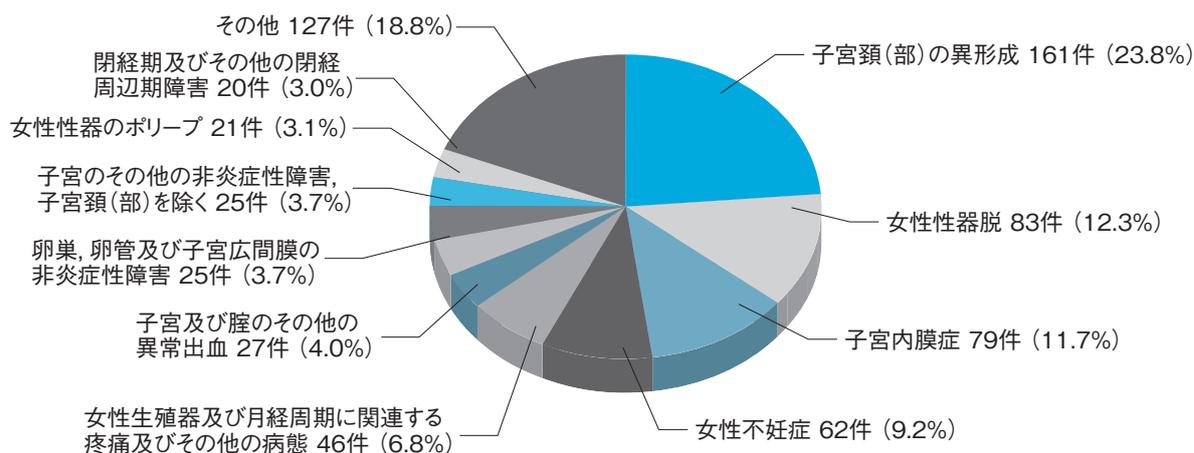
総数：587件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
切迫早産及び早産	切迫早産	106	O600
妊娠早期の出血	切迫流産	65	O200
既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	既往手術による子宮癒痕による母体ケア	54	O342
自然流産	自然流産, 完全流産又は詳細不明の流産, 合併症を伴わないもの	26	O039
その他の既知の胎児側の問題又はその疑いのための母体ケア	子宮内胎児死亡のための母体ケア	11	O364
前置胎盤	出血を伴う前置胎盤	25	O441
前期破水	前期破水, 詳細不明	23	O429
娩出力の異常	その他の微弱陣痛	18	O622
子宮外妊娠	子宮外妊娠, 詳細不明	11	O009
子かん前症	重症子かん前症	11	O141

(2) 婦人科

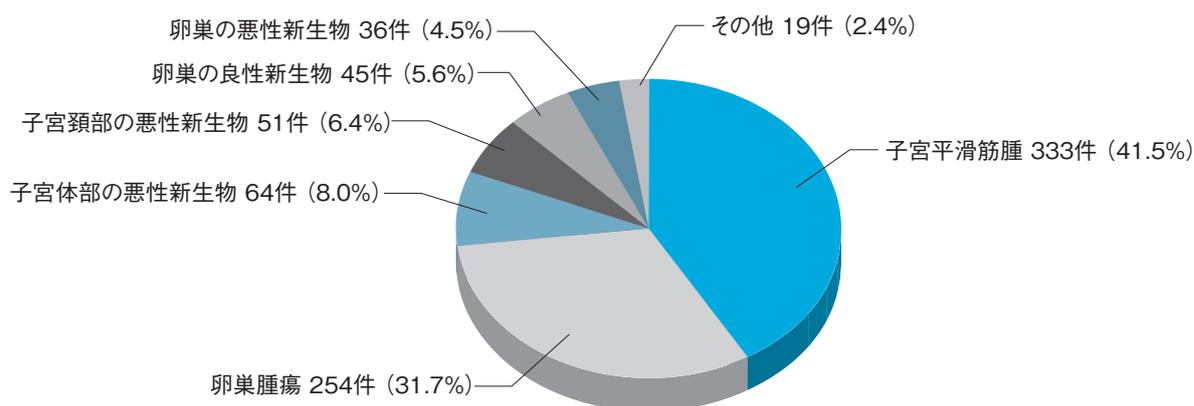
総数：676件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
子宮頸(部)の異形成	子宮頸(部)の異形成, 詳細不明	111	N879
	高度子宮頸(部)の異形成,他に分類されないもの	41	N872
女性性器脱	子宮腔脱, 詳細不明	45	N814
	完全子宮腔脱	16	N813
子宮内膜症	子宮の子宮内膜症	30	N800
	子宮内膜症, 詳細不明	30	N809
女性不妊症	女性不妊症, 詳細不明	62	N979
女性生殖器及び月経周期に関連する疼痛及びその他の病態	月経困難症, 詳細不明	35	N946
子宮及び腔のその他の異常出血	子宮及び腔の異常出血, 詳細不明	27	N939
卵巣, 卵管及び子宮広間膜の非炎症性障害	卵巣, 卵管及び広間膜のその他の非炎症性障害	19	N838
子宮のその他の非炎症性障害, 子宮頸(部)を除く	子宮内膜腺様のう胞性増殖症	12	N850
女性性器のポリープ	子宮頸(部)ポリープ	16	N841
閉経期及びその他の閉経周辺期障害	閉経期及び女性更年期状態	13	N951

### (3) 新生物

総数：802件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
子宮平滑筋腫	子宮平滑筋腫, 部位不明	326	D259
卵巣腫瘍	女性生殖器の性状不詳又は不明の新生物, 卵巣	254	D391
子宮体部の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物, 子宮体部, 部位不明	48	C549
	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	15	C541
子宮頸部の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物, 子宮頸(部), 部位不明	51	C539
卵巣の良性新生物	卵巣の良性新生物	45	D27
卵巣の悪性新生物	卵巣の悪性新生物	36	C56

## 3. 活動報告

### (1) 患者状況

年間外来患者数	38,381人	年間外来新患者数	2,312人
年間入院患者数	16,896人	年間入院新患者数	2,217人

## (2) 実績

分娩統計(2020.1-12)(件)	
正常	369
選択帝王切開	175
緊急帝王切開	133
超緊急帝王切開	5
死産緊急帝王切開	1
鉗子分娩	2
吸引分娩	26
死産	7
自宅分娩	0
車中分娩	1
未受診正常	0
未受診自宅分娩	2
車中分娩搬送	1
未受診VBAC	0
双胎選択帝王切開	17
双胎緊急帝王切開	10
双胎超緊急帝王切開	0
双胎一児IUFD・超緊急帝王切開	0
双胎一児IUFD・正常分娩	0
品胎選択帝王切開	0
計	749
中期中絶	14
中期流産	7
中期子宮破裂SA	1
双胎流産	0
双胎一児IUFD中絶	0
計	22
母体搬送	205

産婦人科悪性腫瘍治療症例数(2020.1-12)(件)	
◎子宮頸癌	計37例
①手術症例	21
I A期	1
I A1期	1
I A2期	1
I B1期	12
I B2期	6
②CCRT(同時化学放射線療法 放射線科と共同治療)	13
II B期	4
III B期	4
IV A期	1
IV B期	4
③放射線療法(主に放射線科で治療)	3
I B1期	1
II A1期	1
IV B期	1
◎子宮体癌手術	計59例
1A期	48
1B期	4
III A期	1
III C期	3
IV B期	3
◎外陰癌手術	計2例
III A期	1
IV B期	1
◎卵巣癌手術	計40例
I A期	11
I B期	1
I C1期	8
I C2期	1
I C3期	1
II B期	2
III A1期	2
III B期	3
III C期	6
IV A期	2
IV B期	3

◎子宮肉腫手術	計2例
1b期	2
◎癌肉腫手術	計1例
4b期	1

#### 化学療法

卵巣癌	78人	のべ454コース
子宮頸癌	49人	のべ203コース
子宮体癌	33人	のべ159コース
腹膜癌	10人	のべ 88コース
卵管癌	5人	のべ 28コース
平滑筋肉腫	3人	のべ 21コース
外陰癌	2人	のべ 5コース
原発不明癌	2人	のべ 10コース
計	182人	に対してのべ968コース施行 (内服抗がん剤は除く)

#### 手術総件数(2020.1-12)(件)

##### 産科

帝王切開術	315
前置胎盤を伴う帝王切開術	13
分娩後子宮全摘術	1
会陰部裂傷縫合・腔壁血腫除去術	7
子宮内反整復術	0
子宮頸管縫縮術	8
その他	3

##### 開腹術(良性)

単純子宮全摘術(腔上部含む)	31
筋腫核出術	8
子宮付属器手術	42
異所性妊娠手術	1
その他	3

##### 開腹術(悪性)

子宮悪性腫瘍手術	30
うち広汎子宮全摘術	10
うち拡大子宮全摘術	3
子宮付属器悪性腫瘍手術	46
その他(試験開腹術含む)	5

##### 経腔的・外陰部手術

腔式子宮全摘術(前後会陰形成術含む)	15
経腔的子宮筋腫核出術	0
円錐切除術(蒸散含む)	69
子宮内膜全面搔把術	17
子宮内容除去術(流産手術)	11
子宮内容除去術(人工妊娠中絶術)	12
胞状奇胎娩出術	2
その他	13

##### 内視鏡手術

子宮鏡手術	3
腹腔鏡(補助)下子宮悪性腫瘍手術	20
うち子宮頸癌	9
うち子宮体癌	11
うち広汎子宮全摘術	3
うち拡大子宮全摘術	4
腹腔鏡(補助)下子宮全摘術(良性)	52
腹腔鏡(補助)下子宮筋腫核出術	25
腹腔鏡(補助)下子宮付属器手術	130
腹腔鏡下異所性妊娠手術	35

腹腔鏡下仙骨腔固定術	8
腹腔鏡下手術(その他)	5
ロボット支援下手術	162
うち良性疾患	119
うち子宮頸癌	6
うち子宮体癌	37
うち広汎子宮全摘	4
うち拡大子宮全摘	1
計	1,299

## 産婦人科（生殖医療）

### 1. 概要

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るった1年であったが、生殖医療に対する当院の治療指針は、何ら変更する必要もなく的確に対応できた。第1に、生殖周産期医療は地域に根ざしたものであるべきという理想を実現すべく、地元東三河に在住または生活拠点を置く患者さんのみを治療対象とする10年来の方針は、地域感染拡大時でも安心して受診してもらえる環境の維持に寄与した。当院は国内有数規模の感染症指定病院でもあり、必要十分で無駄のない感染症対策が行われていたが、日常診療や体外受精説明会でも感染症や感染対策についての患者教育を徹底して行った。第2に、何人の子どもを望み、最後の子どもを西暦何年・何歳で出産するかを目標を明確にし、そこから逆算して実際の治療プランを立てるファミリープランニングという当院の掲げる方式は、感染拡大期には採卵実施後に新鮮胚移植を行わず胚（受精卵）を凍結する全胚凍結も治療選択できるように対応して乗り切った。第3に、「コロナ禍でも、できる取り組みから行おう」という合言葉で、当院不妊症患者に多い子宮内膜症や子宮筋腫などの合併症に対する薬物治療や、感染症重症化で注目された亜鉛欠乏治療（不妊症との関連が注目されている）、そもそも不妊症に対しても健康長寿にも有効な食事、運動、睡眠、心理的ストレスの生活習慣4つのテーマにご夫婦でしっかり取り組んでもらい、難しい不妊症の患者さんたちに素晴らしい結果をもたらすことができた。第4に、当院の表看板でもある体外受精などの生殖補助医療（ART）におけるタイムラプス胚培養も14年目となり、2018、19年に導入した人工知能搭載タイプの新機種が、すべての胚（受精卵）に客観的5段階で評価を与えてくれるようになったので、たとえばこれだけ凍結できれば2人の子どもを持てる可能性は95%以上というように、感染拡大下でも安心感が得られるようになった。

おそらく当院で生殖医療を受ければ、新型コロナウイルス感染症で如何なる状況になっても、的確な指導が受けられ時間を無駄にせず子を持ちたいという強い覚悟を持ち続けられることを実感していただけたと確信する。

（部長 安藤 寿夫）

## 2. 活動報告

### (1) 生殖補助医療

(件)

2020年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	13	12	7	7	2	14	3
2月	13	13	4	6	2	11	2
3月	8	6	2	2	0	7	1
4月	18	13	9	3	1	7	0
5月	8	8	5	1	0	7	2
6月	15	14	5	8	1	8	3
7月	10	8	5	2	1	11	4
8月	11	6	3	2	0	8	3
9月	8	6	4	3	0	13	4
10月	16	12	6	10	4	11	4
11月	17	16	9	9	2	4	0
12月	6	4	4	3	1	11	3
計	143	118	63	56	14	112	29
妊娠率					25.0%		25.9%

単胚移植率100%。多胎は0例。異所性妊娠1例。

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

### (2) 不妊症妊娠例（カッコ内は多胎妊娠例）

区分	件数(件)
体外受精-新鮮胚移植	15(0)
融解胚移植	30(0)
排卵誘発	2(0)
人工授精	1(0)
習慣流産	3(0)
タイミング法・その他	14(0)
計(重複例を除く)	60(0)

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

# 女性内視鏡外科

## 1. 概要

産婦人科における手術治療のうち、主に腹腔鏡下手術やロボット支援下手術に関わる診療を担当している。従来の開腹術と比べ、早期退院、社会復帰が可能であり患者にとって負担が少ない手術法である。2020年度には、約440件の腹腔鏡下手術を行い、ロボット支援下手術は162件施行した。良性疾患だけでなく、悪性腫瘍疾患に対しても積極的に本術式を導入し、子宮体癌や子宮頸癌に対する低侵襲手術を行った。

2020年度には、骨盤臓器脱に対してロボット支援下仙骨腔固定術が保険適応となり、当院でも導入を開始した。通常の腹腔鏡下手術と比較して、より精密に手術が可能となった。

当院は、日本で4か所目のロボット支援下手術認定証発行施設でもあり、全国から多くの医師が手術見学のため来院する。また、東三河唯一の産婦人科内視鏡技術認定医研修施設であり、多くの若手医師が技術認定医を目指して日々修練している。技術認定医の資格を得るには数多くの腹腔鏡下手術の件数やビデオ審査があるが、直近3年間で当院から5人の合格者を輩出している。

現在、腹腔鏡下手術やロボット支援下手術の指導者として全国多岐にわたり、講演や手術技術指導を行っており、今後もさらなる低侵襲化手術の普及に努める。

(部長 梅村 康太)

# 耳鼻いんこう科

## 1. 概要

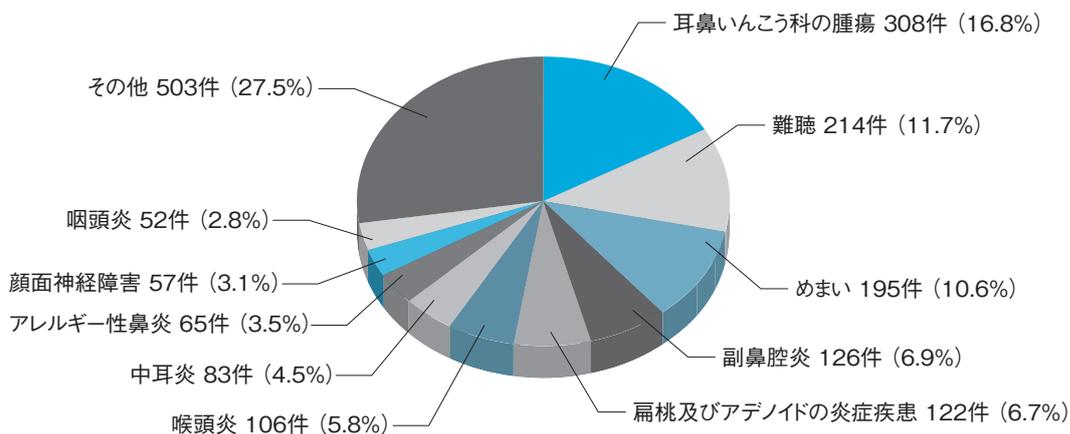
中耳炎、めまい、難聴、顔面神経麻痺に対して投薬治療を行い、改善を認めない場合は当院にて外科的治療を行っている。また、耳鳴り専門外来を設置し、専門的な治療を行っている。

アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症に対して、患者の病態や希望にあった治療（手術療法や投薬治療）を行った。慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群に対して、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を行った。また鼻出血、急性扁桃炎、喉頭蓋炎等の救急疾患については、重症度に合わせて入院治療を行った。咽頭・喉頭・甲状腺・唾液腺等の良性腫瘍に対しては、適応を定めて手術療法を行った。悪性腫瘍に対しては、それぞれの患者の状況に合わせて、根治と機能温存のバランスを取り、手術療法、化学療法、放射線療法の3者を組み合わせて治療を行った。再建を必要とする様な症例も積極的に当院で行った。

(部長 小澤 泰次郎)

## 2. 新規登録疾患

総数：1,831件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
耳鼻いんこう科の腫瘍	内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物, 甲状腺	86	D440
	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, 口唇, 口腔及び咽頭	73	D370
難聴	感音難聴, 詳細不明	110	H905
	難聴, 詳細不明	45	H919
めまい	その他の末梢性めまい	129	H813
	メニエール病	42	H810
副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎, 詳細不明	120	J329
扁桃及びアデノイドの炎症疾患	急性扁桃炎, 詳細不明	40	J039
	扁桃肥大	38	J351
喉頭炎	慢性喉頭炎	106	J370
中耳炎	中耳炎, 詳細不明	40	H669
	非化膿性中耳炎, 詳細不明	34	H659
アレルギー性鼻炎	アレルギー性鼻炎, 詳細不明	64	J304
顔面神経障害	ベル麻痺	57	G510
咽頭炎	急性喉頭咽頭炎	37	J060
	急性咽頭炎, 詳細不明	12	J029

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	24,646人	年間外来新患者数	2,908人
年間入院患者数	8,770人	年間入院新患者数	801人

#### (2) 入院患者の状況

##### ①主な救急疾患（入院加療を要した）

疾患名	件数(件)
急性扁桃炎・扁桃周囲の腫瘍	56
めまい	20
急性喉頭蓋炎・喉頭炎	15
突発性難聴	14
顔面神経麻痺	14
鼻出血	5
計	124

##### ②主な手術療法（手術室使用）

術式	件数(件)
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術	199
内視鏡下副鼻腔手術	63
リンパ節摘出術	56
気管切開術	54
甲状腺腫瘍手術	43
頸部郭清術	36
鼓膜チューブ留置術	32
耳下腺腫瘍手術	24
喉頭微細手術	21
咽頭悪性腫瘍手術	18
顎下腺摘出術	8
喉頭全摘術	5
計	559

# 眼科

## 1. 概要

白内障手術においては、最新機械を導入した。+1.5D加入眼内レンズおよびトーリック眼内レンズ（乱視矯正用眼内レンズ）の使用が増加した。多焦点眼内レンズも使用開始した。

また、日帰り外来白内障手術件数は増加した。今後も、白内障手術については順次、入院手術から外来手術への移行を図る予定である。

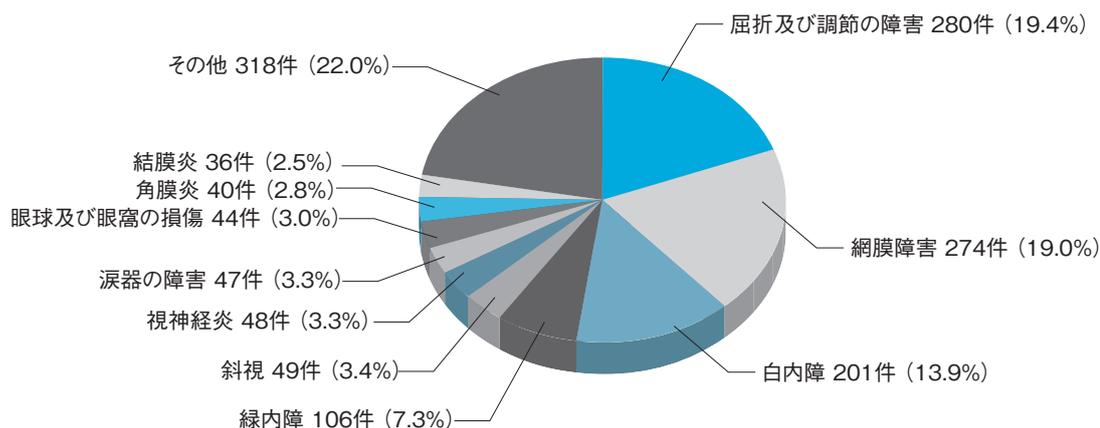
緑内障手術についてはMIGSの適応が拡大し、マイクロフックを用いた線維柱帯切開術の手術件数が増加した。硝子体手術とともに、低侵襲手術化がすすんでいる。

手術室において看護師・臨床工学士と協力してさらなる業務の効率化を検討中である。眼科外来においては、新しいレーザー装置の導入により、従来の網膜光凝固に加え、パターンレーザーが施行可能となった。

（部長 佐川 宏恵）

## 2. 新規登録疾患

総数：1,443件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
屈折及び調節の障害	乱視	272	H522
網膜障害	詳細不明の糖尿病, 眼合併症を伴うもの	142	E143
	黄斑及び後極の変性	66	H353
白内障	老人性白内障, 詳細不明	99	H259
	白内障, 詳細不明	30	H269
緑内障	緑内障, 詳細不明	46	H409
	原発開放隅角緑内障	19	H401
斜視	共同性外斜視	10	H501
	間欠性斜視	10	H503
視神経炎	視神経炎	48	H46
涙器の障害	涙腺のその他の障害	39	H041
眼球及び眼窩の損傷	眼球及び眼窩組織の挫傷	39	S051
角膜炎	角膜炎, 詳細不明	14	H169
結膜炎	結膜炎, 詳細不明	24	H109

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	15,441人	年間外来新患者数	983人
年間入院患者数	2,188人	年間入院新患者数	389人

#### (2) 入院時の疾患内訳

疾患名	件数(件)	疾患名	件数(件)
白内障	221	眼内レンズ脱臼	3
糖尿病網膜症	47	斜視	3
緑内障	41	結膜腫瘍	2
網膜前膜	25	硝子体黄斑牽引症候群	2
網膜剥離	17	眼窩蜂窩織炎	1
視神経症	9	急性網膜壊死	1
黄斑円孔	8	増殖硝子体網膜症	1
硝子体出血・混濁	5	未熟児網膜症	1
角膜穿孔	4	計	391

### (3) 手術・検査数

#### ①外来手術数

術式	件数(件)
硝子体注射・テノン嚢下注射	459
網膜光凝固術(PHC)	101
レーザー後発白内障切開術(YAG)	53
レーザー虹彩切開術(LI)	28
レーザー線維柱帯形成術(LTP/SLT)	5
涙点プラグ挿入	2
霰粒腫摘出術	2
計	650

#### ②外来特殊検査件数

術式	件数(件)
光干渉断層撮影(OCT)	8,502
動的量の視野検査	715
静的量の視野検査	444
蛍光眼底撮影	202
眼鏡処方	130
計	9,993

#### ③手術センター手術数

術式	件数(件)
白内障手術	452
硝子体茎顕微鏡下離断術	105
流出路再建術	22
濾過胞再建術	16
翼状片手術	11
結膜肉芽腫摘除術	7
斜視手術	7
緑内障治療用インプラント挿入術	7
縫着レンズ挿入	5
角膜・強膜異物除去術	3
角膜・強膜縫合術	3
眼瞼下垂症手術	3
眼瞼腫瘍切除術	3
内反症手術	3
前房、虹彩内異物除去術	2
結膜嚢形成手術	1
硝子体注入・吸引術	1
網膜光凝固術	1
計	652

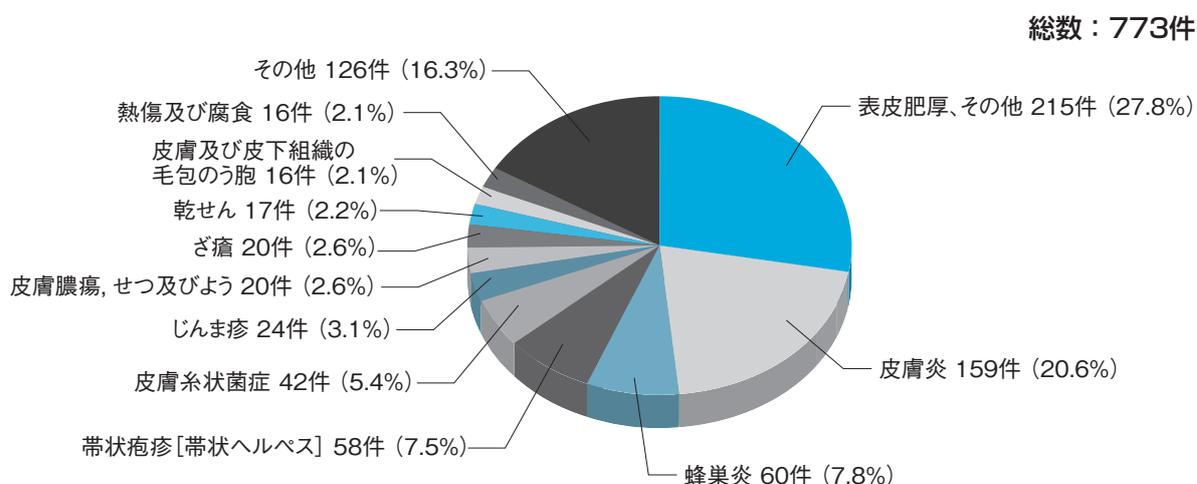
# 皮膚科

## 1. 概要

2020年の皮膚科は山田、藤城、大田、岩田、今井の5名体制であった。2020年は、コロナウイルス感染症が蔓延し、緊急事態宣言が発令された。その影響もあると考えられるが、3～4月頃からは外来、入院患者数ともに減少した。入院患者数は蜂窩織炎や褥瘡感染などの感染症が多かった。また、入院患者数の減少に比例して悪性腫瘍症例も少なかった。重傷熱傷は前年と同じく少なかった印象がある。

(部長 山田 元人)

## 2. 新規登録疾患



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
表皮肥厚、その他	皮膚乾燥症	92	L853
	皮膚の慢性潰瘍, 他に分類されないもの	59	L984
皮膚炎	皮膚炎, 詳細不明	67	L309
	アトピー性皮膚炎, 詳細不明	39	L209
蜂巣炎	蜂巣炎, 詳細不明	30	L039
	(四)肢のその他の部位の蜂巣炎	23	L031
帯状疱疹[帯状ヘルペス]	帯状疱疹, 合併症を伴わないもの	52	B029
皮膚糸状菌症	爪白せん	13	B351
	(陰)股部白せん	12	B356
じんま疹	じんま疹, 詳細不明	21	L509
皮膚膿瘍, せつ及びびよう	皮膚膿瘍, せつ及びびよう, 部位不明	20	L029
ざ瘡	尋常性ざ瘡	20	L700
乾せん	尋常性乾せん	15	L400
皮膚及び皮下組織の毛包のう胞	表皮のう胞	16	L720
熱傷及び腐食	部位不明の熱傷, 程度不明	12	T300

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数 25,064人      年間外来新患者数 2,652人  
年間入院患者数 3,438人      年間入院新患者数 283人

#### (2) 悪性新生物

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	基底細胞癌	54	4	バジェット病	2
2	有棘細胞癌	25	5	その他	41
3	悪性黒色腫	9		計	131

#### (3) 良性腫瘍、熱傷、膠原病

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	良性腫瘍	998	6	全身性エリテマトーデス	5
2	熱傷	71	7	シェーグレン症候群	2
3	血管炎	37	8	混合性結合組織病	1
4	皮膚筋炎	18		計	1,144
5	全身性強皮症	12			

# 泌尿器科

## 1. 概要

2020年、東三河地区における当院への一極集中状況に大きな変化はなく、コロナ禍においても相変わらず忙しい日々を送っている。受診控えが増えるなかでも泌尿器悪性腫瘍に対する低侵襲手術は小切開手術、腹腔鏡手術を中心に相変わらず月単位の手術待機をお願いする状況である。

ロボット支援下手術は、前立腺癌における前立腺全摘術、腎癌に対する腎部分切除術、膀胱癌に対する膀胱全摘術が標準治療になり、当科における日常的な手術の一つとなっている。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤等の新規薬剤を含むがん薬物療法の症例も増加の一途をたどるなど、泌尿器科悪性腫瘍の分野においてよりよい医療を提供する努力を引き続き続けている。

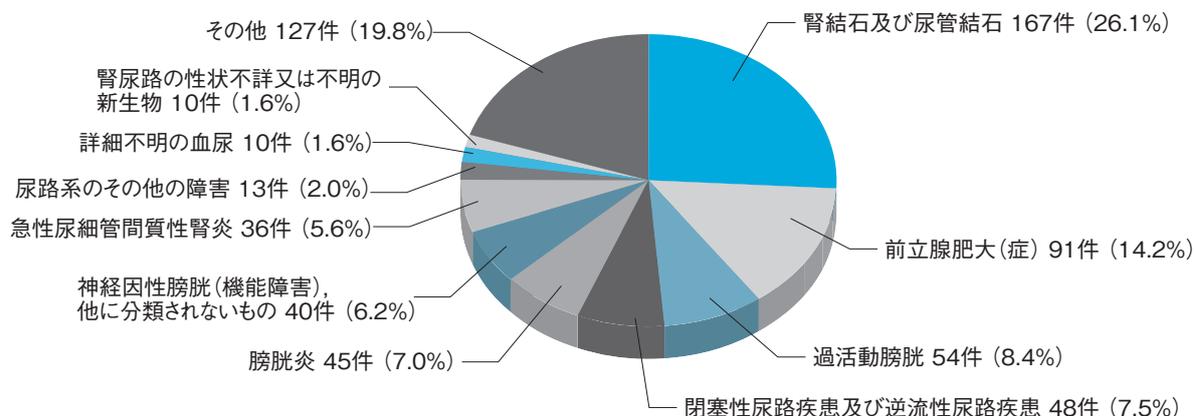
4月から部長不在と常勤医の減少という危機的な状況になってしまったが、それを乗り越えるワンチームが出来上がった一年でもあった。

(部長 寺島 康浩)

## 2. 新規登録疾患

### (1) 悪性新生物以外

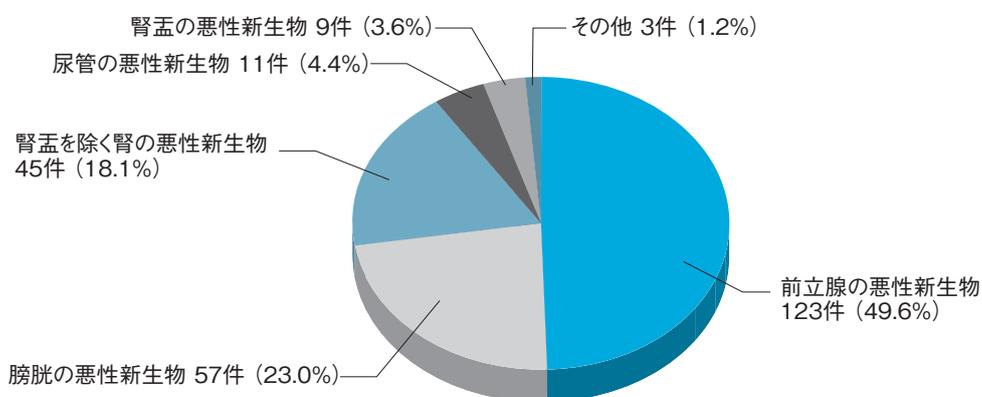
総数：641件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
腎結石及び尿管結石	尿管結石	118	N201
	尿路結石, 詳細不明	27	N209
前立腺肥大(症)	前立腺肥大(症)	91	N40
過活動膀胱	過活動膀胱	54	N328
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	尿管狭窄を伴う水腎症, 他に分類されないもの	27	N131
膀胱炎	急性膀胱炎	19	N300
	膀胱炎, 詳細不明	16	N309
神経因性膀胱(機能障害), 他に分類されないもの	神経因性膀胱(機能障害), 詳細不明	40	N319
急性尿細管間質性腎炎	急性尿細管間質性腎炎	36	N10
尿路系のその他の障害	尿路感染症, 部位不明	8	N390
	緊張性尿失禁	5	N393
詳細不明の血尿	詳細不明の血尿	10	R31
腎尿路の性状不詳又は不明の新生物	腎尿路の性状不詳又は不明の新生物, 腎	9	D410

## (2) 悪性新生物

総数：248件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
前立腺の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	123	C61
膀胱の悪性新生物	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	57	C679
腎盂を除く腎の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	45	C64
尿管の悪性新生物	尿管の悪性新生物	11	C66
腎盂の悪性新生物	腎盂の悪性新生物	9	C65

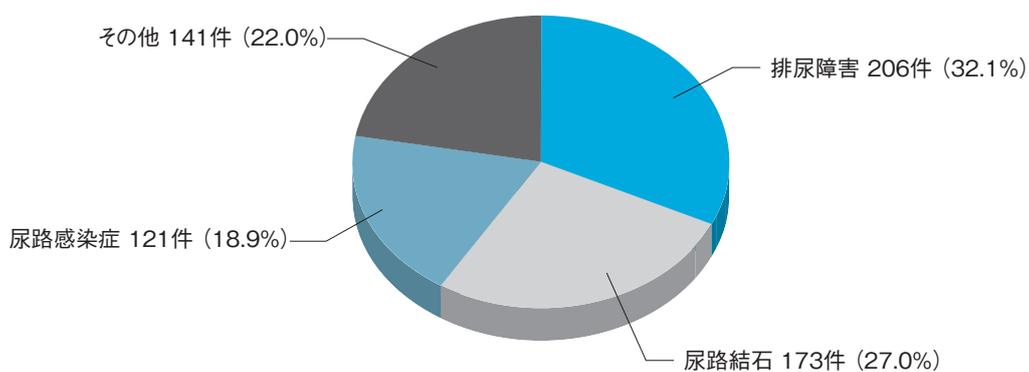
### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	24,725人	年間外来新患者数	1,738人
年間入院患者数	11,224人	年間入院新患者数	1,211人

#### (2) 悪性新生物以外の疾患別頻度

総数：641件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
排尿障害	前立腺肥大(症)	91	N40
	過活動膀胱	54	N328
尿路結石	尿管結石	118	N201
	尿路結石,詳細不明	27	N209
尿路感染症	急性尿細管間質性腎炎	36	N10
	急性膀胱炎	19	N300

# 放射線科

## 1. 概要

2020年1月には石原、高田、馬越、山田、島本の5人であった。7月に馬越の異動、伊藤の赴任があった。専攻医として4月から9月は長井が加わり、10月から佐々木が加わった。2020年12月には石原、高田、山田、島本、伊藤、佐々木の6人で診療している。画像診断は高田、島本、伊藤の3人、放射線治療は石原、山田の2人が担当し、佐々木は両分野を担当している。

2020年の業務実績は、読影が35,719件（CT25,425件、MRI8,395件、アイソトープ805件、PET-CT1,094件）であった。その他、血管造影・IVR156件、甲状腺機能亢進症に対するヨード内療法10件、去勢抵抗性前立腺癌の骨転移に対する塩化ラジウム治療1件、放射線治療の新患505件であった。

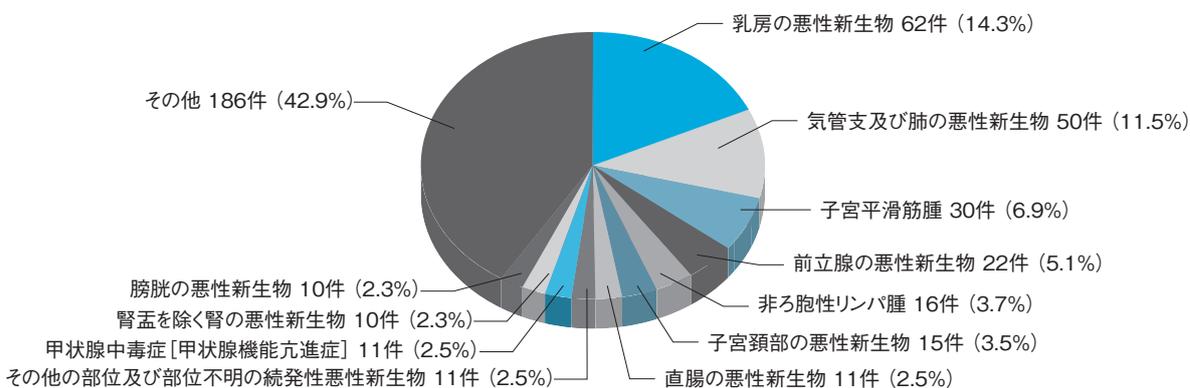
2020年はコロナ禍の1年であり、春の緊急事態宣言中は検査件数の落ち込みが見られた。社会的にテレワークへの移行が推進されており、画像診断においてもテレワークの導入について検討を行った。救急外来で用いるCTの更新に向けて検討を行った。

（第一部長 石原 俊一）

（文責 第二部長 高田 章）

## 2. 新規登録疾患

総数：434件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	25	C509
	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4 分の 1	17	C504
気管支及び肺の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 上葉, 気管支又は肺	24	C341
	気管支及び肺の悪性新生物, 下葉, 気管支又は肺	17	C343
子宮平滑筋腫	子宮平滑筋腫, 部位不明	30	D259
前立腺の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	22	C61
非ろ胞性リンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	16	C833
子宮頸部の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物, 子宮頸(部), 部位不明	15	C539
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	11	C20
その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物	脳及び脳髄膜の続発性悪性新生物	8	C793
	骨及び骨髄の続発性悪性新生物	3	C795
甲状腺中毒症[甲状腺機能亢進症]	びまん性甲状腺腫を伴う甲状腺中毒症	8	E050
	甲状腺中毒症, 詳細不明	2	E059
腎盂を除く腎の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	10	C64
膀胱の悪性新生物	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	10	C679

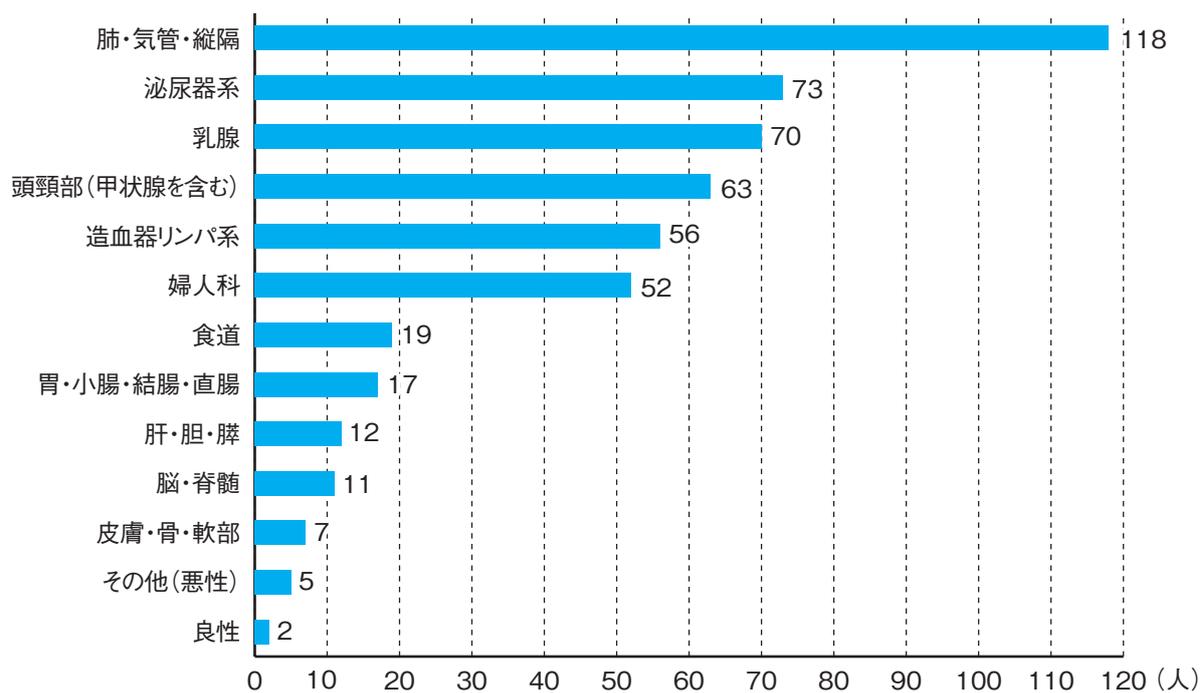
### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	15,473人	年間外来新患者数	764人
年間入院患者数	0人	年間入院新患者数	0人

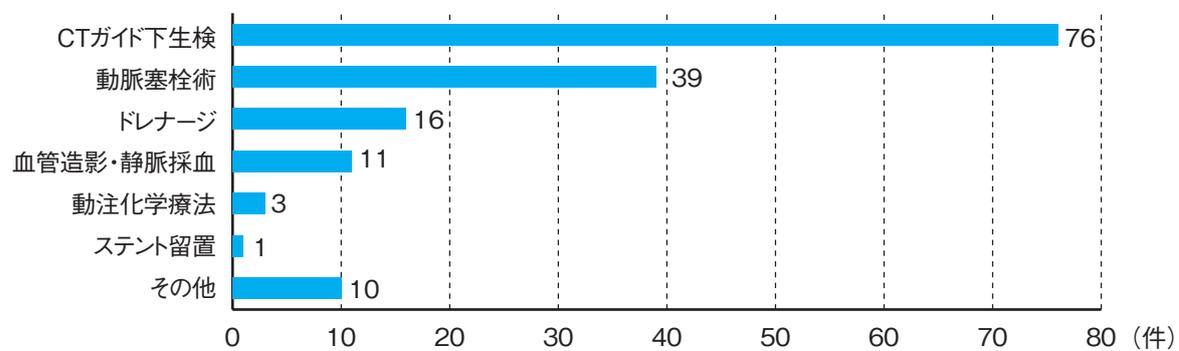
## (2) 放射線治療原発部位別患者数

総患者数：505人



## (3) 血管造影・IVR手技別件数

総件数：156件



# こころのケア科

## 1. 概要

当院こころのケア科は、外来診療は行っておらず、院内での入院患者への対応が主たる業務である。業務の主な内容は、1) 入院中の患者のメンタル面に関連した副科業務 2) 緩和ケアチームの一員として、精神的ケアが必要な患者へのメンタル面でのサポート 3) 認知症チームの一員としての活動、の三点である。最も多いのがせん妄への対応であるが、他にも不眠・抑うつ・不安などに対しても依頼があれば対応している。自殺企図によって入院となった患者への入院中の診察、退院後の通院先の紹介等の対応も行っている。

また、もともと精神疾患のある方が、身体疾患治療のため当院入院となった場合の診察・処方調整・かかりつけ医への報告などの対応も行っている。緩和ケアチームの業務としては、週1回のカンファレンスと回診、それ以外でも依頼があれば随時対応する。認知症チームとしては週1回の回診に同行し、処方や対応の助言を行っている。

当科の活動には、院内院外の各部門部署との連携が必須であり、今後も連絡を密にしてゆきたい。

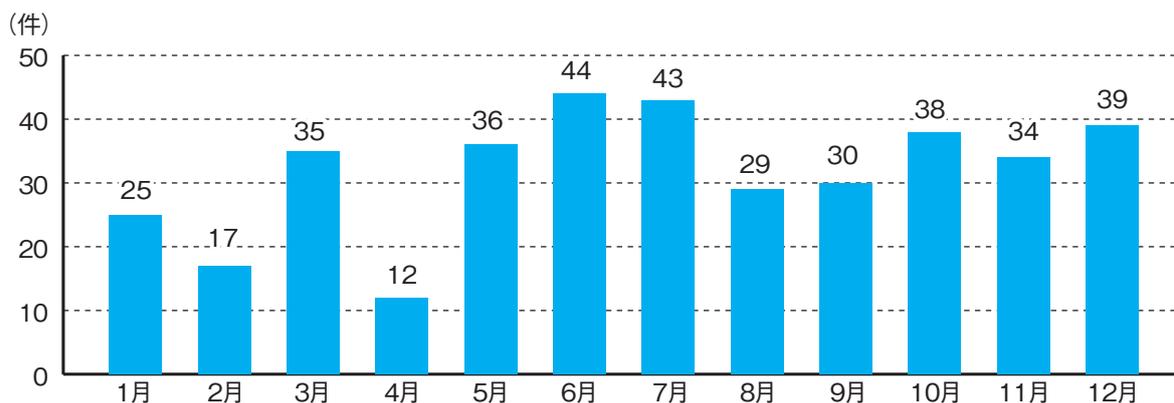
(部長 古水 克明)

## 2. 活動報告

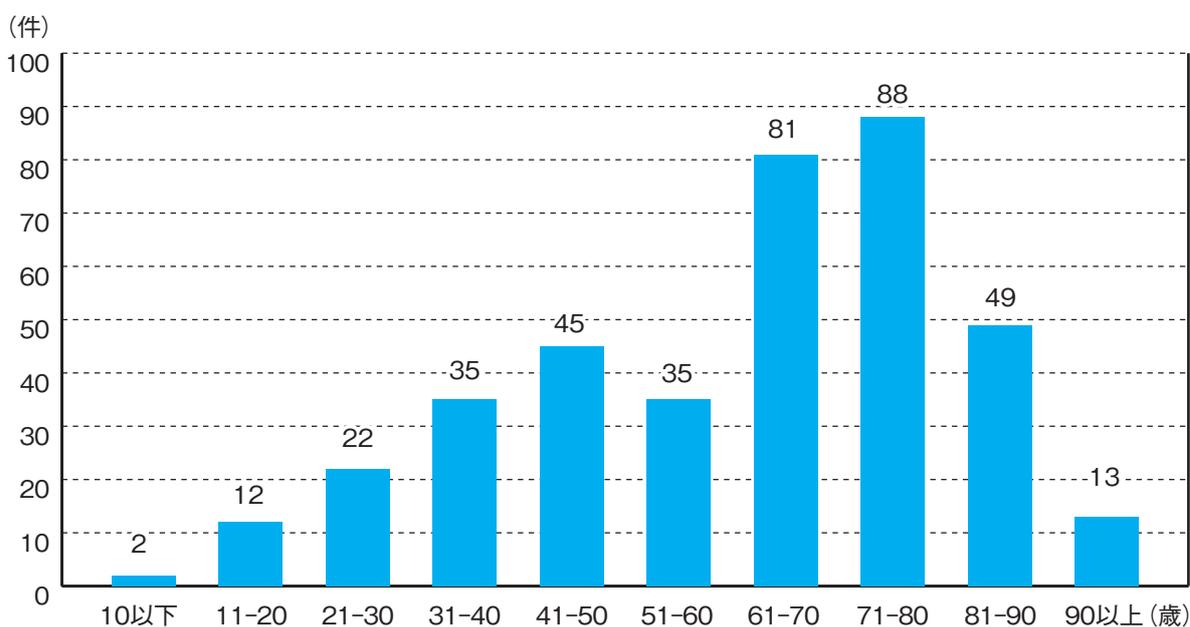
### (1) 患者状況

年間副科対応新患者数      382人

## (2) 月別依頼患者数



## (3) 年齢別依頼数



2020年度に対応した副科診察依頼は総計で382人であった。男女はほぼ同数（男性194人、女性188人）となっている。年齢別では60代以降が多いが、各年齢にわたっており、未成年患者の依頼もある。

診断としてはせん妄（および、せん妄の症状としての不穏）が最も多いが、対応した病名としては、統合失調症などの精神病圏、うつ病・双極性障害など気分障害圏、適応障害・パニック障害・不安障害など神経症圏、認知症・器質性精神障害、また10代の摂食障害など、多岐にわたっている。

## (4) 当科関連企画

第73回豊橋がん診療フォーラム

2020年12月4日開催

特別講演『がん患者の精神症状のケア』

講師 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野

明智龍男 教授

令和2年度 第1回 認知症研修会

2020年8月18日開催

『認知症ケアについて 非薬物的ケアを中心に』

講師 こころのケア科部長 古水克明

# 麻酔科（ペインクリニック）

## 1. 概要

2020年には他院からの赴任も他院へ異動もなかったが、当院研修医からの入局が1名あった。

年間の総手術件数は7,641件であり、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少した。全身麻酔件数は3,820件であった。麻酔科管理症例は2,882件であり、そのうち麻酔科管理の全身麻酔は2,662件であった。全麻件数は若干減ったが、高齢化に伴うハイリスク症例が増え続けており、麻酔難易度は大きく上がった。麻酔科管理の緊急症例は510件と大きく増えた。特に超緊急手術にはFull PPEでの対応が必要であり、担当麻酔科医の負担は非常に大きかった。

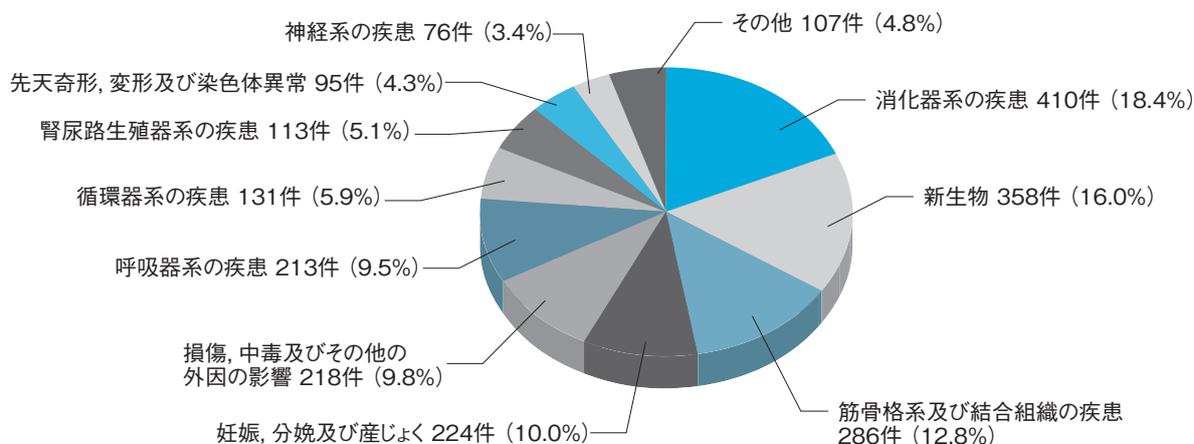
挿管困難対策機器や筋弛緩モニタを更新することで麻酔の安全性を高めることができた。新型コロナウイルス感染症対策による病院体制の度重なる変更により、手術室運営が非常に難しい1年であった。2021年には産休育休取得者が1名いるが、4月から当院研修医から1名と他院から医長1名が入局し、麻酔科麻酔の安全性がさらに高まる予定である。

（第一部長 寺本 友三）

## 2. 新規登録疾患

### (1) 悪性新生物以外

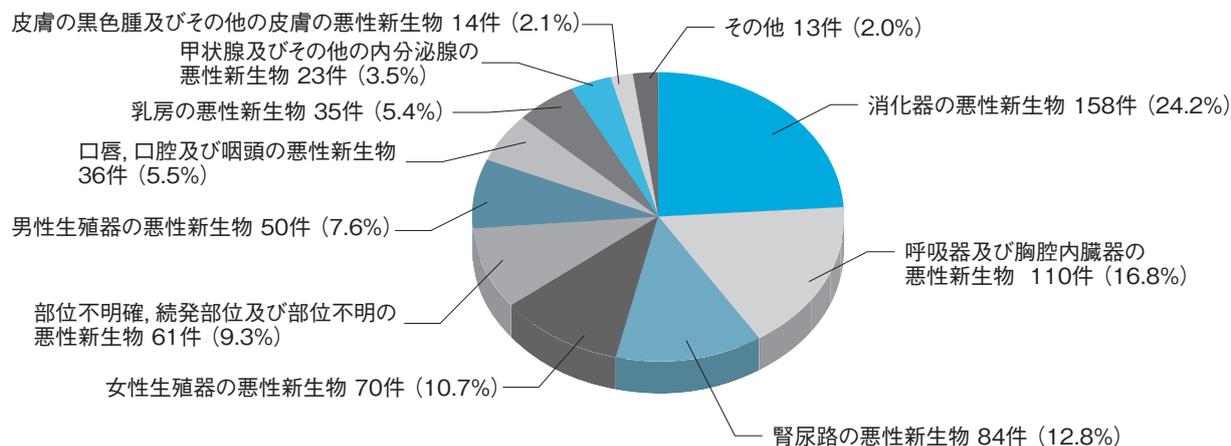
総数：2,231件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
消化器系の疾患	口腔, 唾液腺及び顎の疾患	117	K00-K14
	ヘルニア	75	K40-K46
新生物	性状不詳又は不明の新生物	231	D37-D48
	良性新生物	127	D10-D36
筋骨格系及び結合組織の疾患	脊柱障害	134	M40-M54
	関節障害	127	M00-M25
妊娠, 分娩及び産じょく	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	137	O30-O48
	分娩の合併症	38	O60-O75
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	頭部損傷	35	S00-S09
	腹部, 下背部, 腰椎及び骨盤部の損傷	34	S30-S39
呼吸器系の疾患	上気道のその他の疾患	157	J30-J39
	胸膜のその他の疾患	33	J90-J94
循環器系の疾患	脳血管疾患	71	I60-I69
	動脈, 細動脈及び毛細血管の疾患	33	I70-I79
腎尿路生殖器系の疾患	女性生殖器の非炎症性障害	70	N80-N98
	男性生殖器の疾患	16	N40-N51
先天奇形, 変形及び染色体異常	唇裂及び口蓋裂	30	Q35-Q37
	生殖器の先天奇形	19	Q50-Q56
神経系の疾患	挿間性及び発作性障害	45	G40-G47
	神経系のその他の障害	22	G90-G99

## (2) 悪性新生物

総数：654件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
消化器の悪性新生物	直腸の悪性新生物	30	C20
	結腸の悪性新生物, S状結腸	24	C187
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 上葉, 気管支又は肺	58	C341
	気管支及び肺の悪性新生物, 下葉, 気管支又は肺	33	C343
腎尿路の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	38	C64
	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	23	C679
女性生殖器の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	40	C541
	卵巣の悪性新生物	15	C56
部位不明確, 続発部位及び部位不明の悪性新生物	肝及び肝内胆管の続発性悪性新生物	14	C787
	リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物, 頭部, 顔面及び頸部リンパ節	13	C770
男性生殖器の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	50	C61
口唇, 口腔及び咽頭の悪性新生物	舌のその他及び部位不明の悪性新生物, 舌, 部位不明	5	C029
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4分の1	13	C504
	乳房の悪性新生物, 乳房上内側 4分の1	11	C502
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	甲状腺の悪性新生物	22	C73
皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物	皮膚のその他の悪性新生物, その他及び部位不明の顔面の皮膚	3	C443
	皮膚のその他の悪性新生物, 皮膚の悪性新生物, 部位不明	3	C449

# リハビリテーション科

## 1. 概要

リハビリテーション科の診療は、リハビリテーションセンターと院内各病棟のベッドサイドで行っている。

外来診療は、市内の病院・医院では行っていない小児の運動・言語発達遅滞及び神経難病が主な対象疾患である。また、当院入院中のリハビリを外来で継続する場合もある。

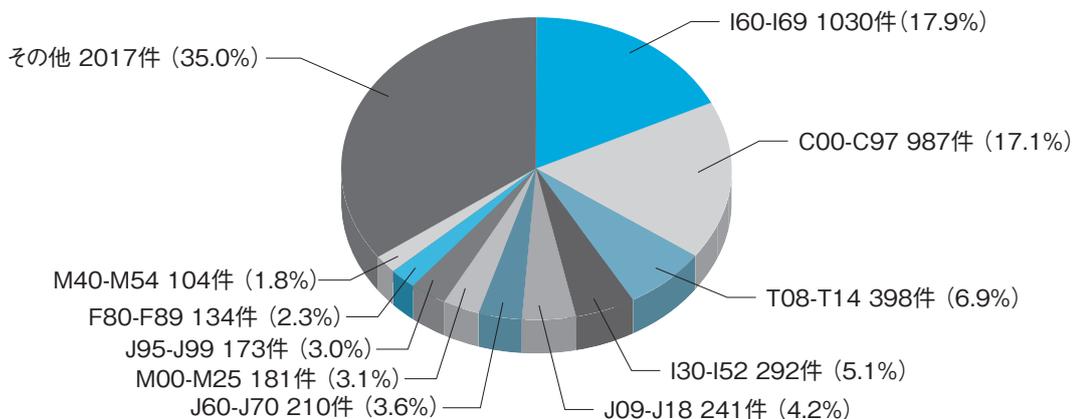
入院診療では、脳卒中、頭部外傷、脳神経・脊髄神経疾患の脳血管リハビリ、骨・関節の外傷や疾患への運動器リハビリ、虚血性心疾患や心不全に対する心大血管リハビリ、肺炎・慢性閉塞性肺疾患等の呼吸器リハビリ、嚥下障害への嚥下リハビリを行っている。また、がん治療の入院患者に行う、がん患者リハビリにも対応している。当院の診療は急性期リハビリが中心であり、地域連携パスを通じて回復期リハビリ病棟を持つ病院に転院できるシステムが整えられている。

2018年から1病棟で行っていた入院患者の日常生活活動の維持・向上を目的としたリハビリを2020年から2病棟に増やし、リハビリ内容の充実を図っている。

(部長 石川 知志)

## 2. 新規登録疾患

総数：5,767件



ICD-10 中間分類項目
I60-I69:脳血管疾患
C00-C97:悪性新生物
T08-T14:部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷
I30-I52:その他の型の心疾患
J09-J18:インフルエンザ及び肺炎
J60-J70:外的因子による肺疾患
M00-M25:関節障害
J95-J99:呼吸器系のその他の疾患
F80-F89:心理的発達の障害
M40-M54:脊柱障害

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	4,643人	年間外来新患者数	32人
年間入院患者数	0人	年間入院新患者数	0人

## 病理診断科

### 1. 概要

病理診断科は生検や手術検体の病理組織診断、術中迅速診断、細胞診検査、病理解剖を行っている。また病理診断科を選択した研修医の実習・教育および臨床各科から依頼された学術報告への協力、院内カンファレンスへの参加も同時に行っている。これらの業務を常勤病理医2名（10月より）と非常勤病理医5名で行った。非常勤病理医は名古屋大学から2名、浜松医科大学から1名、藤田医科大学から1名、愛知医科大学から1名派遣された。

2020年の病理組織検査の依頼件数は11,217件で、そのうち術中迅速診断は546件であった。病理解剖は17件で、定期的にCPCを開催し、臨床各科を交えて、症例の診断・治療、病態・死因についての詳細な検討を行った。CPCは研修医の教育の場としても重要で、研修医が一例以上を担当し、症例の発表・報告を行った。提示症例は貴重例が多く、教育的効果は大きいと考える。さらに剖検診断結果は日本病理学会が刊行している日本病理剖検輯報に掲載され、広く医学に貢献している。

例年実施している浜松医科大学と名古屋大学の6年次生臨床実習は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止された。

（部長 新井 義文）

# 臨床検査科

## 1. 概要

2012年8月より臨床検査科が開設され、検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）算定の許可を受けている。2014年度に日本臨床検査医学会 臨床検査管理医を取得している。急性期医療・高度医療に対応する、精度が高く、かつ信頼性のある臨床検査サービスを検査を利用する関係者に安全に提供し、診療の質の向上に貢献することを目的としている。

臨床検査の精度の維持・向上のため、内部精度管理、外部精度管理の充実を行っている。外部精度管理として日本医師会・愛知県臨床検査技師会の精度管理調査に参加している。

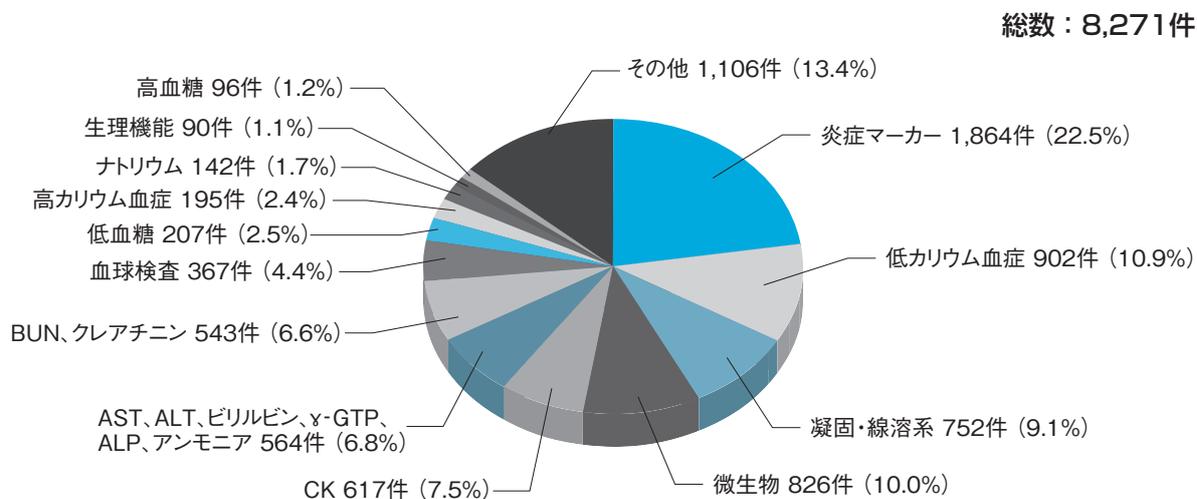
2019年3月15日付で、臨床検査室に特化した、品質と能力に関する国際規格であるISO15189の認定施設となり、国際標準検査管理加算の算定が可能となった。ISO15189の認定は、4年毎に更新審査があり、その前にサーベイランス定期審査がある。2020年2月にISO15189の第1回サーベイランス定期審査があった。

また、パニック値は直ちに臨床側に報告され、迅速で適切な対応に協力している。パニック値報告は増加した。

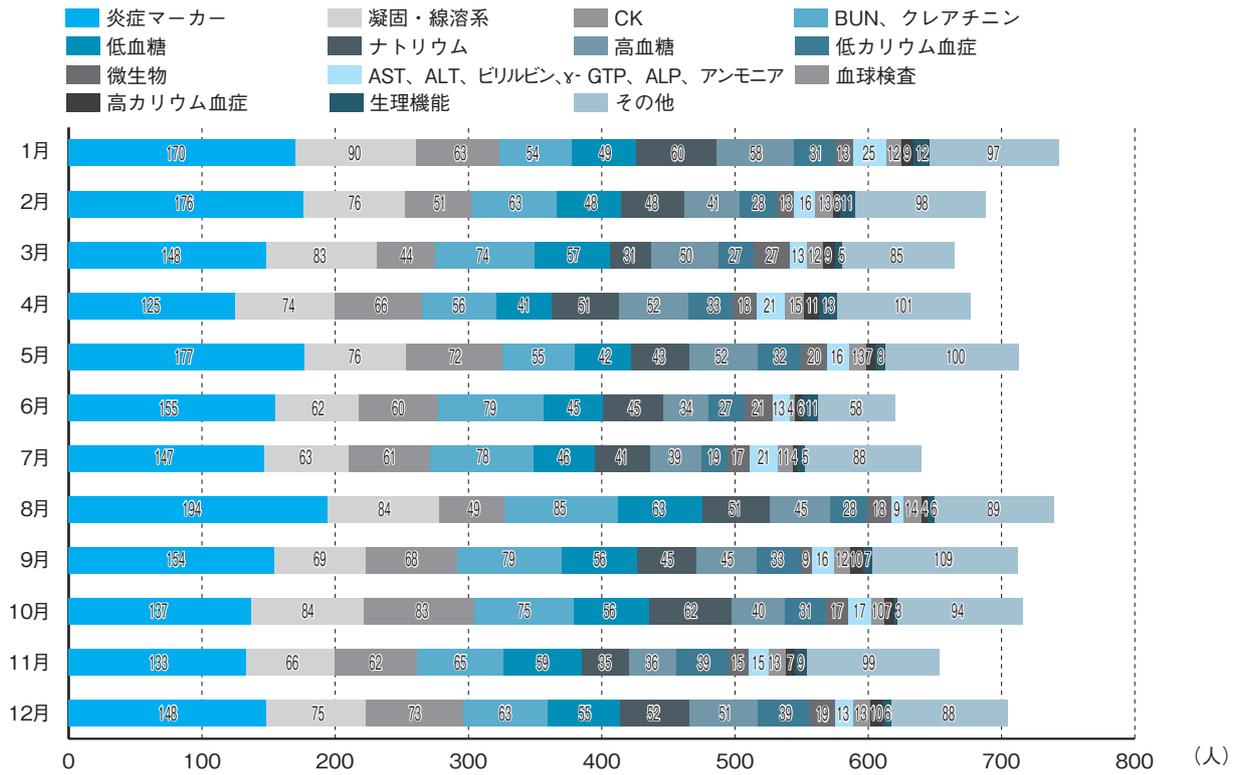
(副部長 出井 里佳)

## 2. 新規登録疾患

### (1) パニック値頻度



## (2) 月別パニック値報告



# 歯科口腔外科

## 1. 概要

当科は地域医療支援病院としての口腔外科の役割を果たすため、密な病診連携の下、豊橋市内外の医科や歯科から多くの紹介をいただきながら、顎口腔領域及び歯科領域の外科治療、ならびに周術期口腔機能管理を行っている。本年も口腔外科的疾患の各分野においてほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

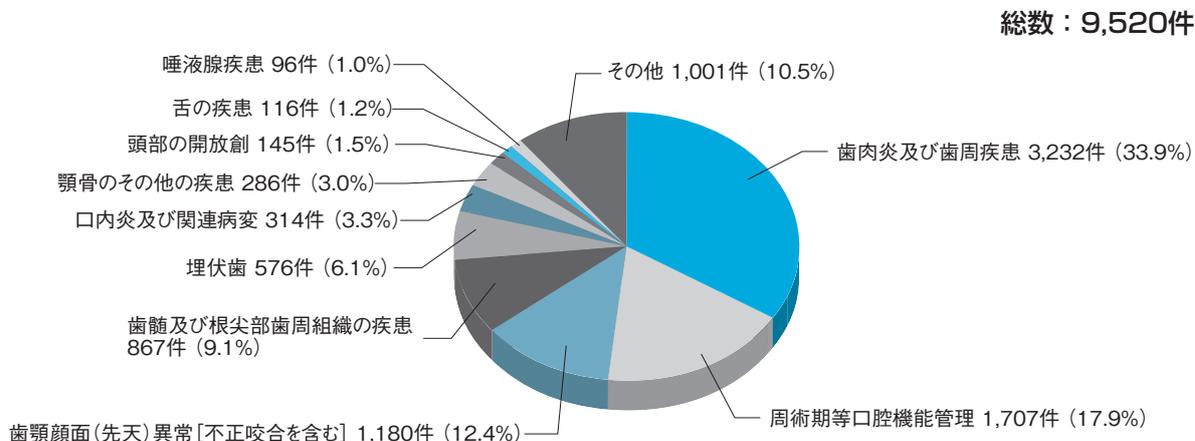
顎顔面外傷においては、早期対応をモットーに関連各科との医療連携により質の高い医療を提供し、早期治療・早期社会復帰を心掛けている。

口腔がん治療ではEBMを重視し、根治と機能温存の両面から手術を中心に他科とのカンファレンスのもと、集学的治療を提供している。さらに個々の患者の状況に合わせQOLの維持・向上を視野に入れた対応を行っている。

歯科的分野においては、以前にも増して院内患者の周術期等口腔機能管理の依頼件数が増加している。診療報酬改定でその適応範囲がさらに拡大されたこともあり、今後もさらなる増加が見込まれると予想される。2020年4月には入退院支援センター内に歯科衛生士による支援業務が加わり、より必要度の高い患者様へのきめ細かな対応ができるよう体制を整備している。周術期における口腔の合併症予防のためにも密でシームレスな医療連携を基本に、今後も進めていく予定である。

(第一部長 嘉悦 淳男)

## 2. 新規登録疾患



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
歯肉炎及び歯周疾患	慢性歯周炎	3223	K053
周術期等口腔機能管理	その他の明示された医学的ケア	1500	Z518
	健康状態改善以外を目的とするその他の処置	207	Z418
歯顎顔面(先天)異常[不正咬合を含む]	歯の位置異常	951	K073
	顎関節障害	212	K076
歯髄及び根尖部歯周組織の疾患	慢性根尖性歯周炎	780	K045
	歯根のう胞	38	K048
埋伏歯	埋伏歯<impacted teeth>	564	K011
	埋伏歯<embedded teeth>	12	K010
口内炎及び関連病変	その他の型の口内炎	264	K121
	口腔粘膜炎(潰瘍性)	40	K123
顎骨のその他の疾患	炎症性顎骨病態	275	K102
頭部の開放創	口唇及び口腔の開放創	114	S015
	頭部のその他の部位の開放創	15	S018
舌の疾患	舌痛	77	K146
	舌炎	22	K140
唾液腺疾患	唾液腺粘液のう胞	56	K116
	唾液の分泌障害	24	K117

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	17,243人	年間外来新患者数	3,068人
年間入院患者数	2,259人	年間入院新患者数	453人

## (2) 外来・入院症例数

### ①外来初診

疾患名	件数(件)
口腔管理	2567
口腔歯の形態異常	1176
一般歯科疾患	591
粘膜疾患	269
外傷	253
良性腫瘍	109
炎症感染症	114
嚢胞	122
顎関節疾患	92
神経疾患	57
唾液腺疾患	40
顎顔面の形態異常	54
悪性腫瘍	30
口腔機能疾患	18
唇顎口蓋裂	12
その他	0
計	5,504

### ②入院

疾患名	件数(件)
口腔歯の形態異常	249
悪性腫瘍	39
嚢胞	38
良性腫瘍	25
唇顎口蓋裂	31
外傷	14
一般歯科疾患	23
顎顔面の形態異常	22
炎症感染症	21
唾液腺疾患	6
粘膜疾患	4
顎関節疾患	1
その他	0
計	473

## 健診科

### 1. 概要

健診科（予防医療センター）は、故瀬川元院長が東三河総合健診センターの後継的役割を果たす目的で整備・拡張された事に始まる。受診者は自治体職員や各種企業と個人等である。年齢が進むにつれ、持病を持つ方も多い。

健診診察は、大橋と鳥居が担当。常勤医不在時は予防医療副センター長内藤による迅速サポートを受けている。午前診察は新しい疾患を見つけ出す事もあるが、主な業務は既往歴、現病歴、治療状況の聴取や受診者自ら選択健診コースの確認と必要時コース変更をすること、内服薬をお薬手帳で確認、安全に検査を受けていただくことである。また、診察中、全身に及ぶ質問を受ける事も多く、わかる範囲で返答、適切な専門医受診を助言している。健診一次検査とその判定は各診療科専門医が担当し、中央臨床検査室と放射線技術局の協力を得ている。二次検査とその判定、必要時の治療と経過観察関連はほぼ全科に及ぶ。

当院健診は、関係各科の忙しい診療の中、その妨げとならぬ範囲で行われ、量より質を重視し、医師を始め実に多くの院内職員協力により成立している。その中で、有意義な健診を受診者に提供すべく予防医療センターは院内のハブ的役割を担っている。各専門医実臨床に立脚した高い精度健診成果の一端として、最近11年間に発見された癌は、胃癌（NET 1例、胃神経鞘腫 1例を含む）80例、大腸癌（NET 2例を含む）57例、前立腺癌39例、肺癌13例、食道癌13例、乳癌14例、腎臓癌（IgG4腎腫瘍 1例を含む）14例、血液悪性腫瘍（ML3例、CLL1例、CML3例、ATL1例）8例、十二指腸癌（乳頭部癌1例、NET1例を含む）5例、子宮癌3例、肝臓癌3例、膀胱癌2例、転移性肝臓癌（上腕平滑筋肉腫1例、GIST 1例）2例、縦隔腫瘍2例、尿管癌1例、胆のう癌 1例、胆管癌1例、膵癌1例、膵癌術後の胃転移1例、後腹膜腫瘍1例、甲状腺癌1例、副腎腫瘍1例、転移性肺腫瘍（軟口蓋悪性腫瘍）1例の計264例である。そのほとんどは早期で発見され、治療予後は良好である。

最後に健診受付と会計業務は受付事務員、健診に関わる団体契約、広報、個人情報データ関連等は医事課と医療情報課による支援を受けている。最終結果判定と説明は医師が実施。当センター看護師が各科との連携・調整やデータ取り寄せ、その確認と健診システム最終登録。受診者の問い合わせや精査・外来予約等の中核的業務を担っている。コロナ禍でも健康を守る一助としての健診業務を粛々と実施している。

（部長 大橋 信治）

# 経営企画室

## 1. 概要

経営企画室は、2019年4月に組織横断的な経営方針の策定や経営改善策を企画、提案し、迅速に実施するため院長直轄の部署として設置された。2年目となる本年は、看護師1名を専従の室長補佐、兼務の管理栄養士を迎え、副院長の室長を筆頭に5名の専従職員と7名の兼務職員で業務を推進した。

[メンバー]	室長	副院長兼務	副室長	専従
	室長補佐	専従、医療情報課長補佐兼務、放射線技術室長補佐兼務		
	主査	専従、中央臨床検査室主査兼務、リハビリテーション技術室主査兼務、栄養管理室主査兼務、薬局主査兼務		
	担当	専従、会計年度任用職員		

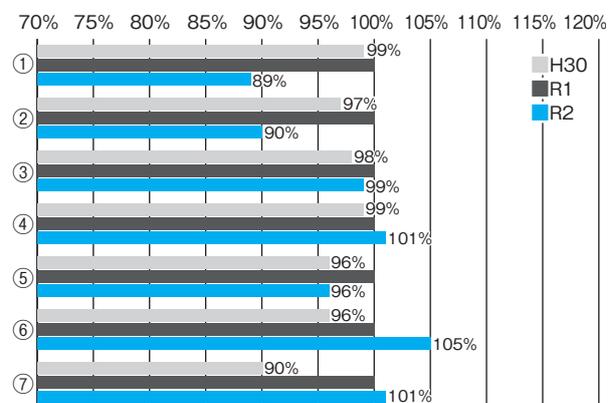
今年度は、第2次豊橋市民病院改革プランの計画期間終了に伴い、令和3年度からの5年間で計画期間とする「第3次豊橋市民病院改革プラン」の策定に加え、DPC特定病院群（大学病院本院に準ずる高度な機能を有すると評価された病院群）の指定継続に向けた取り組みを行った。また、診療科別の分析結果を基に医師等現場スタッフと意見交換を行うことで課題への相互理解や、改善に向けた積極的な協議につなげ、改善提案を行った。次年度以降も更に活動の範囲を拡げ、より効果的な経営改善に取り組んでいきたい。

(室長 成瀬 賢伸)

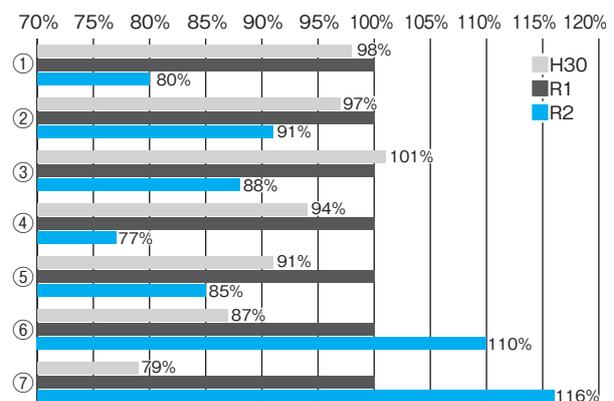
## 2. 活動報告

### (1) 重要経営指標

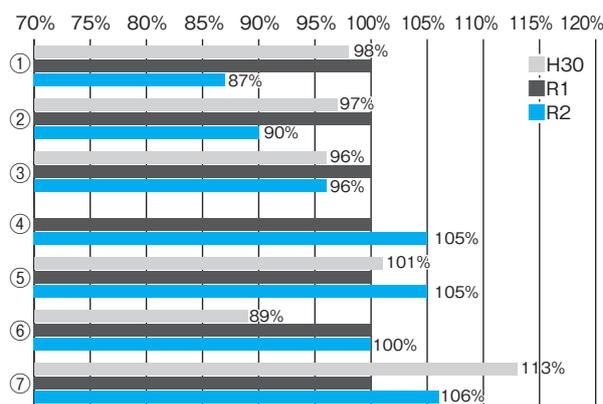
入院指標	H30	R1	R2
①新入院患者数/月(人)	1,718	1,727	1,543
②1日平均入院患者数(人)	690	709	635
③平均在院日数(日)	11.5	11.7	11.6
④DPC期間Ⅱ以内率(%)	66.9	67.7	68.6
⑤パス適用率(%)	42.0	43.5	41.9
⑥入院単価/日(円)	65,912	68,361	71,981
⑦ <sup>⊥</sup> 薬剤(出来高+包括)/日(円)	6,277	6,950	7,022



外来指標	H30	R1	R2
①新患者数/日(人)	183	188	149
②1日平均外来患者数(人)	1,934	2,002	1,817
③ <sup>⊥</sup> 新患者比率(%)	9.5	9.4	8.2
④紹介患者数/日(人)	82.7	87.6	67.8
⑤逆紹介患者数/日(人)	82.9	91.2	77.2
⑥外来単価/日(円)	20,745	23,739	26,225
⑦ <sup>⊥</sup> 投薬・注射/日(円)	10,737	13,527	15,651

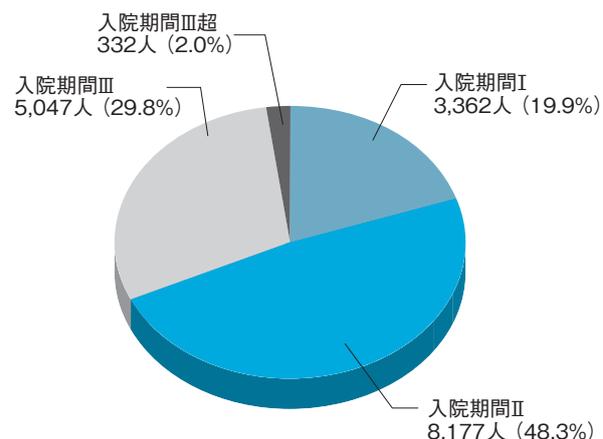


手術・外来治療センター	H30	R1	R2
①手術件数／月(人)	679	697	607
②全麻件数／月(人)	335	344	310
③内視鏡下手術／月(人)	120	125	120
④ダヴィンチ手術／月(人)	14.4	22.3	23.3
⑤外保連手術指数／手術症例	15.0	14.9	15.7
⑥外来治療センター件数(痛)／月(人)	745	840	837
⑦外来治療センター件数(他)／月(人)	152	134	143



## (2) DPC入院期間比率

	H30	R1	R2
DPC症例数(人)※出来高除外	18,865	18,869	16,918
DPC平均在院日数(日)	12.5	12.8	12.9
DPC入院期間Ⅱ以内率(%)	66.9	67.7	68.2
入院期間Ⅰ(人)	3,564	3,660	3,362
入院期間Ⅱ(人)	9,064	9,115	8,177
入院期間Ⅲ(人)	5,847	5,705	5,047
入院期間Ⅲ超(人)	390	389	332
出来高症例(人)	499	582	520



## (3) 定例会議題

回	日付	内容
1	4月2日	①第3次豊橋市民病院改革プラン策定スケジュール ②第2次豊橋市民病院改革プラン改訂版の説明 ③救急医療管理加算のレセプト記載
2	4月30日	①白内障手術の外来移行及び在院日数の短縮 ②クリニカルパスの進捗状況 ③薬剤管理指導料の算定状況 ④特別食加算及び入院栄養食事指導料の算定状況 ⑤看護必要度Ⅱ移行に向けてのベンチマーク評価 ⑥エコー検査機器の管理状況 ⑦令和元年度診療科別重要経営指標 ⑧令和元年度診療科別DPC入院期間比率
3	5月28日	①看護必要度Ⅱ移行に伴う処置入力 of 徹底 ②入退院支援センターでの管理栄養士業務 ③退院時リハビリテーション指導料算定率向上の取組み ④ADL維持向上等体制加算の対象病棟拡大 ⑤早期離床・リハビリテーション加算に向けた取組み
4	6月11日	①令和元年度 第2次豊橋市民病院改革プラン取組状況報告 ②第3次豊橋市民病院改革プランの策定 ③地域医療構想
5	6月18日	①令和元年度 第2次豊橋市民病院改革プラン取組状況報告 ②第3次豊橋市民病院改革プランの策定 ③地域医療構想

回	日 付	内 容
6	6月25日	① 地域医療構想 ② 新型コロナウイルスによる影響 ③ 画像診断管理加算2の施設基準算定に向けて
7	7月30日	① 令和2年度診療科別重要経営指標(4-6月) ② 令和2年度診療科別DPC入院期間比率(4-6月) ③ 入退院支援センター新規配置職種実績(4-6月) ④ 薬剤管理指導料算定状況(平成30-令和2年度)
8	8月27日	① ポータブルエコーの適切な管理 ② 第3次豊橋市民病院改革プラン骨子
9	9月24日	① 看護必要度Ⅱに関する医師及び看護師の入力状況 ② ポータブルエコーの管理及び汎用ファイリングシステム接続状況 ③ 管理栄養士による特別食提案と医師の承認状況 ④ クリニカルパスへの特別食の登録状況 ⑤ 入退院支援センター歯科衛生士の業務状況と現状の課題
10	10月29日	① 令和2年度診療科別重要経営指標(4-9月) ② 令和2年度診療科別DPC入院期間比率(4-9月) ③ ポータブルエコーの画像管理及び救急外来での算定状況 ④ せん妄ハイリスク患者ケア加算の算定に向けて
11	11月26日	① 入退院支援センター管理栄養士及び歯科衛生士の業務状況と現状の課題 ② 人工股関節置換術パスのリハビリ改定による効果の検証 ③ 西病棟6階リハビリ療法士病棟専従化に向けて ④ 紹介状返書管理における課題と現状の取組み
12	12月24日	① 看護必要度Ⅱにおける各項目の相関とA項目平均点の推移 ② 紹介患者の退院時診療情報提供書の作成状況と現状の課題 ③ 本年度の病床稼働状況を鑑みた施設基準届出
13	1月28日	① 診療科分析(一般外科) ② 看護必要度Ⅱにおける各病棟のA項目平均点の推移 ③ 入退院支援センター管理栄養士の業務状況と現状の課題
14	2月25日	① 早期栄養介入管理加算の対象患者 ② 西病棟6階ADL維持向上等体制加算の経過報告と収益効果 ③ 救急医療管理加算の算定件数向上による影響調査
15	3月25日	① 本年度の課題整理 ② 診療科分析(一般外科)の報告結果 ③ DPC特定病院群実績要件の現状

## 医療安全管理室

### 1. 概要

医療安全管理室は、2005年4月に医療安全の推進を図るため、院長直属の専門部署として設置された。現在は、副院長である室長を筆頭に、6名の専従職員と、6名の兼務職員の計13名の組織となっている。

2018年度診療報酬改定において「医療安全対策地域連携加算」が新設され、取り組みを開始した他施設との連携・相互チェックも3年目を迎えた。引き続き他施設での取り組みも参考に、医療安全の推進及び体制整備を行っている。

(室長 河井 通泰)

(文責 副室長 宇田あゆみ)

### 2. 活動報告

2020年度は、医療安全重点目標として、①チェックバック（復唱）を徹底する ②相手にわかりやすい説明をする を掲げた。①については78%、②については93%の部署が実施できていると回答したが、「説明を聞いていなかった」という苦情の報告は相変わらずあった。確認行動の習慣化と、相手の理解度を確認しながらわかりやすい説明を行うことは、今後も継続課題と考える。

「医療安全推進週間」の活動は、コロナ禍ということもあり院内職員を対象とした活動となった。医療安全に関するポスターの公募を行い、計14作品の応募があった。職員による一次審査、幹部職員による二次審査の結果、『一期一会 人には丁寧な逢ってこそ』を最優秀作品に選出し、優秀作品『相手にわかりやすい説明を』と合わせて表彰した。患者にとって安全な医療の提供につなげるためには、職員一人ひとりが自らの行動で示していくことが重要である。

2020年度の主な取り組み

2020.10月～ 深部静脈血栓塞栓症予防リスクアセスメント開始

2021. 2月～ 栄養関連分野コネクタ変更

(1) 医療安全管理たより (24通配信)

配信日	タイトル
4月13日	令和2年度 医療安全重点目標について
4月13日	VPシャント術後患者のMRI検査時の注意
5月7日	輸血セットを正しく使おう
5月8日	脳深部刺激装置等装着者の検査時の注意事項
5月8日	インスリンポンプ・持続グルコース測定器装着者の検査時の注意事項
6月19日	持参薬から入院処方薬へ切り替える際の注意
6月29日	MRI室への磁性体(金属製品)の持ち込みについて
7月29日	「配合剤」には注意をしましょう！
8月3日	CVカテーテル挿入に関する注意
9月23日	DNAR情報入力・確認場所の変更について
10月9日	院内の電源設備・ライフライン講習会の質問にお答えします！
10月20日	手術・検査前の内服中止指示について
10月20日	ベッド移動時のトラブル
11月10日	点滴の投与経路の間違い
11月26日	MRIに潜む危険性・医療放射線研修の質問にお答えします！
12月16日	医療安全推進週間 医療安全に関するポスター入賞者発表
12月21日	MRI検査前に剥がす必要のある貼付薬について
1月13日	アレルギー情報の入力をお忘れなく
1月27日	外来・病棟で施錠管理が必要な薬品
3月1日	筋弛緩薬を使用する際の注意
3月2日	患者間違い多発注意！
3月9日	危険な『倍量処方』はやめましょう！
3月17日	人工呼吸器使用中のチェックリスト改訂と様式追加について
3月19日	外用薬処方入力時の注意

## (2) 院内安全ラウンド (22回実施)

回	日付	訪問病棟
1	5月19日	東西2階・東3階
2	5月26日	西3階・東西5階
3	6月9日	東西6階・東7階
4	6月23日	西7階・東西8階
5	7月14日	東西9階・南病棟
6	7月28日	病棟4階・NMC・手術センター
7	8月18日	救急外来・血液浄化センター
8	8月25日	内科外来・外来1階・外来2階
9	9月8日	放射線技術室・リハビリテーション技術室
10	9月15日	中央臨床検査室・薬局
11	10月20日	東西2階・東3階
12	10月27日	西3階・東西5階
13	11月10日	東西6階・東7階
14	11月17日	西7階・東西8階
15	12月1日	【内部監査】
16	12月8日	東西9階・南病棟
17	12月22日	病棟4階・NMC・手術センター
18	1月14日	救急外来・血液浄化センター
19	1月19日	内科外来・外来1階・外来2階
20	1月26日	放射線技術室・リハビリテーション技術室
21	2月9日	中央臨床検査室・薬局
22	2月16日	【フォローアップ監査】

## (3) 医療安全地域連携相互チェック

日程	チェック対象病院	チェック実施病院
9月18日	豊橋医療センター	豊橋市民病院
10月14日	弥生病院	豊橋市民病院
10月30日	豊橋市民病院	豊橋医療センター
11月27日	長屋病院	豊橋市民病院

# 診療記録管理室

## 1. 概要

診療記録管理室は、カルテの点検、診療記録監査、紙カルテの貸出管理を主な業務としており、カルテの点検では重点的に「入院診療計画書」「入院時記録」「退院時サマリ」の点検を行っている。

診療記録の質の向上を図るため、医師及び研修医の診療記録を対象に当院独自の評価基準項目により2段階で診療記録監査を行っている。令和2年度は監査実施方針を策定し、「入院時記録及び退院時サマりに、アレルギー情報が記載されているか重点的に点検を行う。」とした。監査結果は診療記録管理委員会に報告後、監査対象者に通知している。

紙カルテ貸出管理として、平成8年から平成22年4月分までの紙カルテを管理している。電子カルテに移行後10年経過しても、診療情報提供や症例の研究・調査、診断書作成等の理由により、外来カルテは年1,500件程、入院カルテは年220件程度、貸出の依頼がある。

今年度は、「診療記録Letter」を発行し、診療記録に関する情報の院内周知を精力的に行った。今後も診療記録管理室副室長等とともに、さらなる活動を進めていく。

(室長 岩井 克成)

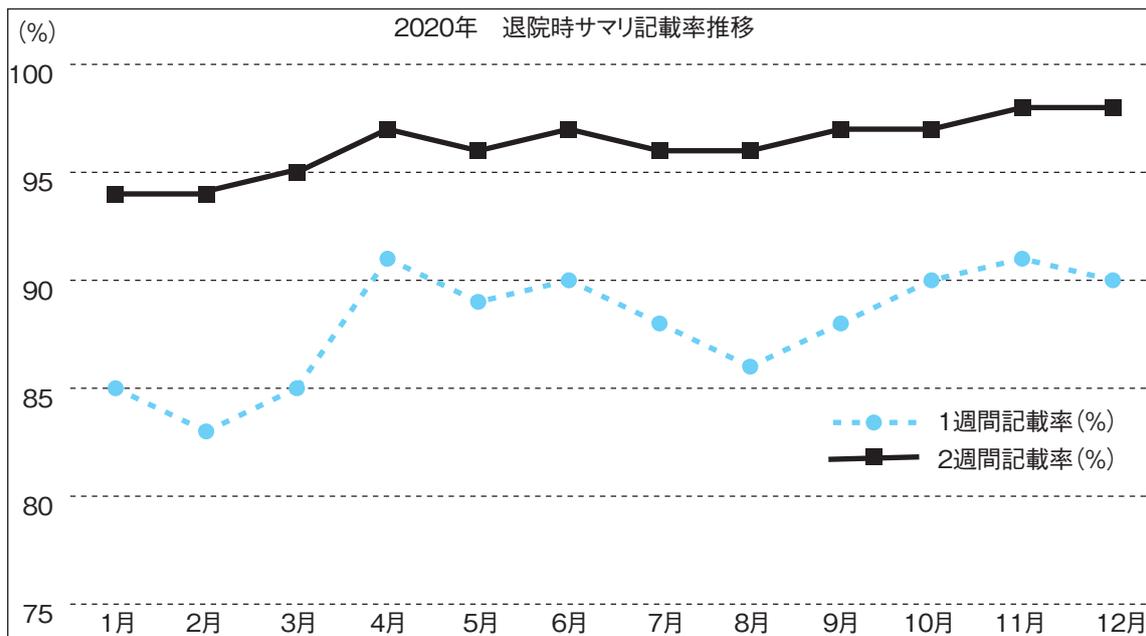
## 2. 活動報告

### (1) 診療記録監査

(件)

		第1回		第2回		第3回	
		医師	研修医	医師	研修医	医師	研修医
平成30年度	一次監査監査対象	46	24	46	24	46	24
	二次監査監査対象	5	3	6	1	0	2
	診療記録管理委員会 <基準点以下報告> 医師:70点 研修医:75点	5	0	5	0	0	2
令和元年度	一次監査監査対象	46	24	46	24	46	24
	二次監査監査対象	4	1	1	0	0	0
	診療記録管理委員会 <基準点以下報告> 医師:70点 研修医:75点	2	1	1	0	0	0
令和2年度	一次監査監査対象	72	20	65	17	/	/
	二次監査監査対象	2	1	3	0		
	診療記録管理委員会 <基準点以下報告> 医師:70点 研修医:75点	2	0	1	0		

(2) 退院時サマリ



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1週間記載率(%)	85	83	85	91	89	90	88	86	88	90	91	90
2週間記載率(%)	94	94	95	97	96	97	96	96	97	97	98	98

# 臨床研究管理室

## 1. 概要

2020年度は室長、顧問、副室長(2名)、事務(5名)の計9名で活動した。主な業務内容は下記の4つである。

- ①臨床研究審査書類の作成補助
- ②臨床研究審査委員会の運営
- ③実施中の臨床研究の進捗管理
- ④申請様式等の管理

2020年度は臨床研究審査申請システムが導入された。申請者・事務局双方の負担軽減により、より安定した臨床研究業務の遂行、より質の高い臨床研究の実施の支援ができると期待されている。

進捗管理については、システムのアラート機能を活用し、年1回の一斉調査に加え、各研究の終了予定日前に研究者に通知を行い、終了報告書の提出もしくは期間延長(変更申請)の手続きを求め、適正な研究管理に努めたい。

また、臨床研究に関する教育の履修に対応したeラーニング教育「ICR臨床研究入門(ICRweb)」について、システム導入を機に、申請者は指定講義を修了することを研究申請の要件とした。継続研修講座等を活用し、研究者等の教育・研修の充実を図っていく。

(室長 河井 通泰)

## 2. 活動報告

### (1) 書類受付実績

(件)

	新規申請			変更申請			特定臨床研究	計
	介入試験	観察研究	指針外	介入試験	観察研究	指針外		
平成30年度	5	61	—	8	6	—	13	93
令和元年度	2	61	5	2	21	—	13	104
令和2年度	2	67	6	7	45	2	14	143

### (2) 審査委員会開催実績

(回)

名称	平成30年度	令和元年度	令和2年度
臨床研究事前審査会	12	13	15
臨床研究審査委員会	6	6	6

### (3) 実施中の臨床研究

(件)

登録前	登録中	登録終了	観察終了	計
12	160	30	6	208

令和3年3月31日時点

# 感染症管理センター

## 1. 概要

感染症管理センターは、医師・看護師・薬剤師・微生物検査技師・事務職員と協同し、患者と医療従事者の双方を医療関連感染から守る活動を行っている院長直属の部門である。抗菌薬適正使用支援チーム（AST）と感染対策チーム（ICT）があり、それぞれ活動を行っている。近年問題となっている薬剤耐性菌（AMR）対策として、ASTが抗菌薬使用状況を定期的に監視し、また血液培養陽性者を早期からモニタリングし広域抗菌薬の適正使用を勧めている。ICTとしては、週1回定期的に院内の巡回ラウンドを行い、院内感染対策事例の把握を行うとともに感染対策防止策の実施状況の把握・指導を行っている。

がん診療連携拠点病院として多くの手術を行っている当院は、手術部位感染（SSI）サーベイランスを実施し発生率の改善に取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は持続しており、感染症病棟を持つ当院の役割は大きく、中等症から重症の陽性患者の受入れをしている。また、発熱患者のCOVID-19を疑い、専用診察室や検体採取場所を設けた。来院患者に対し、COVID-19スクリーニング体制を整えるなど、院内での感染防止対策を実施している。

（センター長 小山 典久）

（文責 伊藤 賀代子）

## 2. 活動報告

### (1) 感染症発生動向調査

#### ①全数報告

(件)

類型	疾患名	2020年度	2019年度	2018年度
二類	結核	44	36	49
三類	コレラ	1	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	2	3	4
	パラチフス	0	0	0
四類	A型肝炎	0	1	2
	つつが虫病	0	1	0
	デング熱	0	1	0
	マラリア	0	0	0
	レジオネラ症	7	8	9
	狂犬病	1	0	0
五類	アメーバ赤痢	0	0	0
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	0	1	3
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	1
	急性脳炎	0	2	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	2	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0
	後天性免疫不全症候群	0	2	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	6	2
	侵襲性髄膜炎感染症	0	1	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	14	11
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る)	2	3	3
	梅毒	3	5	2
	播種性クリプトコックス症	4	3	1
	破傷風	1	1	0
	百日咳	0	14	3
	風しん	0	0	2
	麻しん	0	0	3
	新型コロナウイルス感染症	106	0	-

## ②小児科定点報告

(件)

	疾患名	2020年度	2019年度	2018年度
週報	RSウイルス	7	134	89
	咽頭結膜熱	0	1	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	56	64
	感染性胃腸炎	502	867	903
	水痘	4	3	11
	手足口病	0	43	5
	伝染性紅斑	0	5	2
	突発性発疹	4	5	6
	ヘルパンギーナ	1	13	11
	流行性耳下腺炎	0	1	1

※百日咳は2018年1月1日より全数報告

## ③基幹定点報告

(件)

	疾患名	2020年度	2019年度	2018年度
週報	細菌性髄膜炎	1	3	1
	無菌性髄膜炎	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎	1	2	0
	クラミジア肺炎	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	19	6
月報	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	167	147	133
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0

## ④インフルエンザ定点報告

(件)

	疾患名	2020年度	2019年度	2018年度
週報	インフルエンザ	0	377	1,083

## ⑤インフルエンザによる入院患者報告

(件)

	疾患名	2020年度	2019年度	2018年度
週報	インフルエンザ(入院患者)	0	60	139

## ⑥職員の感染曝露

(件)

	2020年度	2019年度	2018年度
針刺し・切創 (EPI-Net A)	52	67	41
皮膚・粘膜汚染 (EPI-Net B)	8	16	12
院内結核曝露	11	8	7

## ⑦職員健康外来

(件)

	2020年度	2019年度	2018年度
延べ受診者数	50	93	49

※2017年9月末より院内職員の針刺し事故等被災者の受診基準一部変更

# シミュレーション研修センター

## 1. 概要

2016年10月に開設されたシミュレーション研修センターの2020年度年間利用実績は、スキルスラボ299件、セミナー室944件であった。目的別としては医師対象の主なものはカンファレンス115件、ICLS7件、CVC5件があった。看護師やコメディカル対象の主なものとして、看護師補助者研修6件、NCPR6件、BLS&AED8件等が行われた。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定されていた多くの研修会が開催中止となってしまった。しかしながら、セミナー室はインターネット、プロジェクター、スクリーンが完備されていることから、オンラインでの会議やセミナーの会場としての活用も見込まれる。

今後も、医師のみならず看護師やその他の医療従事者の勉強する場として、より一層の運営の改善と設備の充実を目指したい。

(センター長 富田 崇仁)

# 卒後臨床研修センター

## 1. 概要

2020年度は臨床研修制度の見直しがあったため、新たなガイドラインに沿った研修を開始した。

- ①卒後臨床研修医用オンライン臨床教育評価システム（EPOC2）の利用開始。
- ②担当した患者の病歴要約として「研修サマリー」の記載。
- ③内科・外科・小児科にて、一般外来研修の開始。

採用関係では、毎年5月に開催されている東海北陸地区臨床研修病院合同説明会が中止となったため、レジナビFairオンラインへの参加や、レジナビやマイナビレジデントなどの情報検索サイトの活用に加え、InstagramやTwitterなどのSNSへ積極的に投稿を行い、全国に向け情報発信した。また、7月には院内病院説明会を開催し、医学生との直接交流を行った。

2021年度は小児科・産婦人科プログラムの開始と臨床研修評価の受審、歯科臨床研修制度の変更に伴う研修プログラムの修正などが予定されている。

(センター長 小山 典久)

## 2.活動報告

### (1) 定期委員会

令和2年7月～令和3年3月	研修管理委員会	*全3回
令和2年5月～令和3年2月	研修委員会	*全3回
令和2年5月～令和2年12月	研修医ミーティング	*全4回

### (2) 行事

令和2年4月1日～9日	初期臨床研修医オリエンテーション
令和2年4月～令和2年9月	救急医学講座 *全21講座
令和2年7月11日	医学生向け 病院説明会(院内) *参加者 45人
令和2年8月9日、10日、22日	令和3年度採用初期臨床研修医採用試験 *受験者数 医科 39人 歯科 5人 *マッチング数 医科 19人 (フルマッチ) 歯科 1人 (フルマッチ)
令和2年9月25日	指導医ミーティング開催 *参加指導医数 22人
令和2年11月9日	レジナビフェアWeb説明会参加
令和3年1月20日、29日	基本的臨床能力評価試験 *受験者数 1年次15名、2年次17名
令和3年3月26日	平成31年卒初期臨床研修修了 *進路 院内 医科 12人、歯科 1人 院外 医科 6人

# 専門医研修センター

## 1. 概要

2017年度に後期臨床研修センターが発足し、各種申請等の準備を行い、2018年度に新専門医制度の開始に合わせて専門医研修センターに発展した。当院は基本19領域のうち、内科、外科、小児科、産婦人科の4領域で基幹施設として認定を受けており、その他領域では連携施設となっている。様々な病院と連携することで、高次機能病院での稀な症例をはじめ、地域病院での高齢者医療等の症例も学ぶことができ、多彩で偏りのない充実した研修が可能となっている。

当センターは、新専門医制度での専門研修がスムーズに進むように基幹の各4領域と連携を取りながら、指導者による多職種評価や内科では「J-OSLER（専攻医登録評価システム）」、外科では「NCD登録・日本外科学会研修実績管理システム」、小児科では「小児科専門医臨床研修手帳」、産婦人科では「産婦人科研修管理システム」などの評価ツールにおいて、専攻医の進捗状況を把握し専門医取得の手助けをしていく。

また、日本専門医機構認定共通講習を開催し、院内開催の医療倫理・感染対策・医療安全の必修講習でも受講証明書を発行可能とした。

(センター長 河井 通泰)

## 2. 活動報告

### (1) 定期委員会

令和2年4月～令和3年3月

内科専門研修プログラム管理委員会	全2回
外科専門研修プログラム管理委員会	全1回
小児科研修医（専攻医）プログラム管理委員会	全2回
産婦人科研修プログラム管理委員会	全1回

### (2) 行事

令和2年11月4日～11月16日

令和2年11月23日

令和3年度4月採用専攻医(専門研修プログラム)募集

令和3年度採用専攻医採用試験

基幹4領域	受験者数	採用者数
内科	4	4
外科	5	5
小児科	1	1
産婦人科	3	3

令和2年11月21日

JMECC 開催 受講者数6人

豊橋市民病院が基幹施設となる専門領域

領域	連携施設	募集人数	プログラム
内科	愛知厚生連渥美病院 豊橋医療センター 岡崎市民病院 刈谷豊田総合病院 名古屋大学医学部附属病院 新城市民病院(特別連携)	12人	豊橋市民病院内科専門研修プログラム
外科	JA静岡厚生連遠州病院 中東遠総合医療センター JA静岡厚生連静岡厚生病院 静岡済生会総合病院 愛知厚生連安城更生病院 名古屋大学医学部附属病院 愛知医科大学病院	6人	豊橋市民病院外科専門研修プログラム
小児科	名古屋市立大学病院 あいち小児保健医療総合センター 豊川市民病院 蒲郡市民病院 愛知厚生連渥美病院 【関連施設】 豊橋医療センター 新城市民病院 豊橋市こども発達センター 豊橋市保健所保健センター 豊橋市休日夜間急病診療所	5人	豊橋市民病院小児科研修医(専攻医)プログラム
産婦人科	名古屋第二赤十字病院 名古屋記念病院 刈谷豊田総合病院 豊田厚生病院 名古屋掖済会病院 津島市民病院	4人	豊橋市民病院産婦人科研修プログラム

# 救急外来センター

## 1. 概要

当院救命救急センターは、東三河の1次から3次までのあらゆる救急患者に対応している。病院からはドクターカーを出動させ、心肺停止や、高エネルギー外傷に対して病院前から積極的治療を展開している。またヘリポートを併設しているため、東三河全域より、ドクターヘリで重症救急患者を受け入れているのが特徴である。

救急外来センターでは、医学生、研修医、地域の救急救命士等に対して毎朝勉強会を行い、また月例のICLSコース（突然の心停止に対して直ちに行う処置）を開催しており、院内医療スタッフ、地域救急隊員とともに、質の向上を目指している。

2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながらも重症救急患者の受け入れを続け、厚生労働省が行う救命救急センターの充実度評価において、「重篤な患者」は1,448名/年で愛知県24センター中7位、総合点は65点満点中54点で同じく7位の実績であった。

（センター長 平松 和洋）

## 2. 活動報告

### (1) 年齢区分別救急外来受診患者数

診療科	15歳未満		15歳以上65歳未満		65歳以上		計
	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	
総合内科	8	0.6%	852	58.9%	587	40.6%	1,447
呼吸器内科	2	0.2%	334	30.3%	767	69.5%	1,103
消化器内科	7	0.3%	1,207	43.2%	1,580	56.5%	2,794
循環器内科	0	0.0%	327	28.0%	842	72.0%	1,169
腎臓内科	0	0.0%	51	21.1%	191	78.9%	242
糖尿病・内分泌内科	0	0.0%	91	41.9%	126	58.1%	217
脳神経内科	3	0.2%	554	38.1%	897	61.7%	1,454
血液・腫瘍内科	0	0.0%	61	20.9%	231	79.1%	292
一般外科	46	4.7%	435	44.9%	488	50.4%	969
小児外科	12	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	12
肛門外科	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
呼吸器外科	0	0.0%	86	50.3%	85	49.7%	171
心臓外科・血管外科	0	0.0%	15	23.1%	50	76.9%	65
移植外科	0	0.0%	14	73.7%	5	26.3%	19
整形外科	313	12.2%	1,273	49.8%	970	37.9%	2,556
リウマチ科	0	0.0%	2	15.4%	11	84.6%	13
形成外科	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	2
脳神経外科	479	28.8%	475	28.6%	707	42.6%	1,661
小児科	1,812	96.0%	76	4.0%	0	0.0%	1,888
産婦人科	10	1.1%	812	91.6%	64	7.2%	886
耳鼻いんこう科	142	11.9%	591	49.7%	456	38.4%	1,189
眼科	56	18.7%	183	61.0%	61	20.3%	300
皮膚科	165	14.8%	611	54.9%	336	30.2%	1,112
泌尿器科	27	2.2%	551	44.5%	659	53.3%	1,237
歯科口腔外科	79	30.3%	122	46.7%	60	23.0%	261
こころのケア科	0	0.0%	81	52.6%	73	47.4%	154
アレルギー内科	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	1
計	3,161	14.9%	8,807	41.5%	9,246	43.6%	21,214

## (2) 救急救命センター「重篤な患者数」実績

病態	患者数(人)
病院外心停止	240
重症急性冠症候群	110
重症大動脈疾患	35
重症脳血管障害	189
重症外傷	402
指肢切断	12
重症熱傷	1
重症急性中毒	12
重症消化管出血	186
敗血症	113
敗血症のうち、敗血症性ショック	52
重症体温異常(熱中症、偶発性低体温)	30
特殊感染症(壊死性筋膜炎、破傷風等)	10
重症呼吸不全	36
重症急性心不全	31
重症意識障害	16
重篤な急性腎不全	20
その他の重症病態	1
合計	1,448

(2020.1 ~ 12)

# 救急入院センター

## 1. 概要

救急入院センターは2013年度より設置され、センター長 富田 崇仁（循環器内科兼任）、副センター長 中島 基晶（麻酔科兼任）、青葉 太郎（一般外科兼任）で運営し、現在に至っている。当センターはICUに隣接し、ICU適応以外の夜間・休日の救急入院患者の受け皿として機能している。基本的に各科主治医が患者の診療を行い、センターメンバーは主に本センターの管理・運営を主体として活動している。実働病床は2013年以来、継続して12床で運営してきている。2020年4月～2021年3月までの各月の推移は以下の表のごとくである。病床利用率は、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、昨年度より減少し、42.6%であった。今年度も引き続き入院数増加に努めている。特定救命救急病床加算算定件数においては、2019年度には1,206件であったのに対し、2020年度は1,866件と大幅に増加した。

例年どおり本センターの当直体制はセンターのメンバーだけでなく、各科部長にも委託して行い、夜間入院患者の救急処置に当たってきたが、2020年度は特に大きな問題なく経過した。

（センター長 富田 崇仁）

## 2. 活動報告

### (1) 年齢別入院患者数

診療科 区分	内科		外科		心臓血管・呼吸器外科		脳神経外科		その他		計	
	延患者数 (人)	構成比 (%)										
80歳以上	274	20.8	151	28.7	43	11.7	208	18.3	64	13.6	740	19.4
70～79歳	425	32.3	158	30.0	185	50.3	346	30.4	87	18.4	1,201	31.4
60～69歳	218	16.6	100	19.0	70	19.0	196	17.2	91	19.3	675	17.7
50～59歳	163	12.4	65	12.3	38	10.3	178	15.7	66	14.0	510	13.3
40～49歳	121	9.2	30	5.7	28	7.6	106	9.3	44	9.3	329	8.6
30～39歳	96	7.3	14	2.7	3	0.8	39	3.4	63	13.3	215	5.6
20～29歳	18	1.4	3	0.6	0	0.0	10	0.9	12	2.5	43	1.1
10～19歳	2	0.2	6	1.1	1	0.3	28	2.5	22	4.7	59	1.5
0～9歳	0	0.0	0	0.0	0	0.0	26	2.3	23	4.9	49	1.3
計	1,317	100	527	100	368	100	1,137	100	472	100	3,821	100

## (2) 病床利用率

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
営業日数 A	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
病床数 B	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
日数×病床数 C(A×B)	360	372	360	372	372	360	372	360	372	372	336	372	4,380

救急ベッド (12床)

	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日 あたり
2017 年度	在室人数 D	272	257	219	266	244	242	220	232	242	271	214	237	2,916	8.0
	利用率 D/C	75.6%	69.1%	60.8%	71.5%	65.6%	67.2%	59.1%	64.4%	65.1%	72.8%	63.7%	63.7%	66.6%	-
	特定入院料算定 件数 E	112	100	75	109	107	98	93	78	81	89	71	80	1,093	3.0
	特定入院料算定 率 E/D	41.2%	38.9%	34.2%	41.0%	43.9%	40.5%	42.3%	33.6%	33.5%	32.8%	33.2%	33.8%	37.5%	-
2018 年度	在室人数 D	150	152	176	214	183	181	235	196	227	248	192	226	2,380	6.5
	利用率 D/C	41.7%	40.9%	48.9%	57.5%	49.2%	50.3%	63.2%	54.4%	61.0%	66.7%	57.1%	60.8%	54.3%	-
	特定入院料算定 件数 E	68	82	98	127	103	98	116	100	121	143	103	108	1,267	3.5
	特定入院料算定 率 E/D	45.3%	53.9%	55.7%	59.3%	56.3%	54.1%	49.4%	51.0%	53.3%	57.7%	53.6%	47.8%	53.2%	-
2019 年度	在室人数 D	175	196	180	202	220	209	167	214	200	250	190	155	2,358	6.5
	利用率 D/C	48.6%	52.7%	50.0%	54.3%	59.1%	58.1%	44.9%	59.4%	53.8%	67.2%	56.5%	41.7%	53.8%	-
	特定入院料算定 件数 E	89	113	85	97	127	83	63	82	117	137	101	112	1,206	3.3
	特定入院料算定 率 E/D	50.9%	57.7%	47.2%	48.0%	57.7%	39.7%	37.7%	38.3%	58.5%	54.8%	53.2%	72.3%	51.1%	-
2020 年度	在室人数 D	125	138	137	136	140	174	191	166	190	176	127	166	1,866	5.1
	利用率 D/C	34.7%	37.1%	38.1%	36.6%	37.6%	48.3%	51.3%	46.1%	51.1%	47.3%	37.8%	44.6%	42.6%	-
	特定入院料算定 件数 E	84	95	69	83	91	84	103	108	117	85	71	62	1,052	2.9
	特定入院料算定 率 E/D	67.2%	68.8%	50.4%	61.0%	65.0%	48.3%	53.9%	65.1%	61.6%	48.3%	55.9%	37.3%	56.4%	-

# 集中治療センター

## 1. 概要

当院は、東三河地域の急性期病院として位置付けられている。その中でも、集中治療センターは最重症患者を診ることのできる設備を有しており、地域における「最後の砦」といっても過言ではない場所であると考えている。医師を中心とした多職種間での集中したカンファレンスを積極的に行い、患者様の早期回復や離床を目指し日々の診療に勤めていく所存である。

(センター長 中山 雅人)

## 2. 活動報告

### (1) 入院患者の主病名分類

大分類	件
感染症および寄生虫症 (A00-B99)	68
新生物 (C00-D48)	423
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構障害 (D50-D89)	15
内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	18
精神および行動の障害 (F00-F99)	0
神経系の疾患 (G00-G99)	62
眼および付属器の疾患 (H00-H59)	0
耳および付属器の疾患 (H60-H95)	0
循環器系の疾患 (I00-I99)	564
呼吸器系の疾患 (J00-J99)	67
消化器系の疾患 (K00-K93)	123
皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	1
筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	79
腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	13
妊娠、分娩および産褥 (O00-O99)	3
周産期に発生した病態 (P00-P96)	0
先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	6
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	35
損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	101
傷病および死亡の原因 (V01-Y98)	0
健康状態に影響をおよぼす要因および保険サービスの利用 (Z00-Z99)	0
計	1,578

## 総合周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

### 1. 概要

東三河唯一の総合周産期母子医療センターとして新生児部門と連携し妊娠中の母体・児の診断・管理・治療を行っている。本年は新型コロナウイルス感染拡大予防のため里帰り分娩の制限を行った。出生数の減少もあり分娩数は顕著に減少した。新型コロナウイルスの感染拡大以降、院内では全身麻酔の手術は全例術前に新型コロナウイルス感染症のスクリーニング検査を行っているが、超緊急帝王切開ではこの検査を事前に行うことができないため新型コロナウイルス感染防御を行った上で手術を行わざるを得ない。シミュレーションを行い30分以内に児を娩出できるよう努めている。東三河地域では新型コロナウイルス感染妊婦の対応を行っているのは当院のみとなっており、感染確認および濃厚接触妊婦の対応を行った。

母体搬送は分娩数の減少にもかかわらず、205件を維持し全例応需を原則としている。

当院ではハイリスク妊婦が集中しているため妊娠初期より助産師が主導するバースセンター分娩の対象となるローリスク妊婦は非常に少ない。医師主導の健診の後36週以降リスクが低いと判断された妊婦に対し助産師が積極的にかかわる“セミバース”分娩として妊婦のバースプランを尊重した分娩に対応している。

産後ケアプランは豊橋市外の妊婦も対象となり、分娩後の家族のケアが受けられない妊婦やハイリスク分娩のため、新生児医療センターに入院した児が自宅に退院する前の育児習得を目的として利用者が増加した。

（センター長 岡田 真由美）

## 総合周産期母子医療センター（新生児部門）

### 1. 概要

新生児医療センターは、NICU12床を擁し、東三河唯一の総合周産期母子医療センター（新生児部門）に指定され、新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。

当院は、地域中核災害拠点病院に指定されており、産婦人科とともに広域災害訓練に参加するなど、周産期における災害対策にも取り組んでいる。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重要な役割と考え、周産期医療に携わる医師、助産師、救急隊員等を対象に新生児蘇生法講習会や周産期センター報告会・講演会を開催している。

（センター長 村松 幹司）

# 総合生殖医療センター

## 1. 概要

2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るった1年であったが、生殖医療の理想を求め続けて発展してきた当センターの歴史が正しかったことが実感できる1年であった。

当院で体外受精などの生殖補助医療（ART）がスタートしたのは1996年6月であり、2020年は23年目を迎えた。2007年12月タイムラプスインキュベーター（TLI）の世界初全例導入後も様々な最新医療機器と共にHigh Quality ARTに取り組んできた。2018年には、胚画像情報を中心に74項目の特性を人工知能（AI）的に分析して良好胚選択を行う最新型TLIを導入、2019年には2台目も配備が完了してAI-ARTに完全移行できた。

その一方で、地域の患者さんのみを治療対象、夫婦単位での初診とART説明会参加の徹底、単胚移植、出産・育児の開始まで一貫して管理、そのための病的状態の是正など理想を目指した取り組みを2020年も実践してきた。

“先進的で唯一無二の生殖医療を東三河に”を合言葉に、健全な家族形成を地域での医療で完結するという生殖周産期医療の理想を旗印として、生まれてくる子どものことを第一に考えた基本軸のしっかりした医療を実践すべく、難しいケースにも的確に対応できるよう日々研鑽を重ねている。

（センター長 安藤 寿夫）

# リハビリテーションセンター

## 1. 概要

リハビリテーションセンターは診療部門、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚療法部門で構成され、脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、心大血管疾患、がん患者へのリハビリに対応している。また、これら疾患別リハビリに加え、入院患者の日常生活活動の維持・向上を目的としたリハビリも行っている。診療部門では、診察、リハビリ処方を行う。理学療法部門では、日常生活上の基本的動作能力回復目的の運動療法及び呼吸器・循環器疾患や術後の機能回復を目指した運動療法を行う。また筋電図、筋力測定、心肺運動負荷試験等の身体機能を評価する。作業療法部門では、生活における動作の獲得、家事動作や職業への復帰目的の訓練・援助、上肢の機能および高次脳機能の評価、訓練を行う。言語聴覚療法部門では、脳血管疾患や脳の外傷、あるいは発声器官の障害により生じた失語症や構音障害の患者、言語発達の遅れや口唇口蓋裂の小児に対する言語訓練を行う。また、摂食・嚥下障害の機能回復目的の訓練・指導も行っている。

(センター長 石川 知志)

## 2. 活動報告

### (1) 利用状況

区分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
延患者数(人)	99,473	110,992	107,073
1日平均(人)	409.4	462.5	438.8
外来開院日数	243日	240日	244日

※病院事業収支及び活動状況（報告）

# 血液浄化センター

## 1. 概要

当センターの診療内容は、一般的な透析業務（末期腎不全の透析導入、入院患者の維持透析、急性腎不全の血液浄化）のみではない。血漿交換・免疫吸着等も病態に応じて行っている。最近では、腎不全以外の膠原病・HUS/TTP・ギランバレー症候群・炎症性腸疾患等で、院内の多くの科から血液浄化の依頼が増えている。

当然、腎臓内科医だけでは業務を遂行できず、移植外科からも多大な支援を受けている。また、臨床工学技士や看護師（血液浄化センターのみならず、外来やICUをはじめとする病棟も）等の医療従事者の協力なくしては、当センターの運営が成り立たない事は言うまでもない。

入院透析患者は外来維持透析患者に比し、膨大な医療資源を費やすことから、現状では受け入れに限界があることは認めざるを得ないが、基幹病院としてその責務を果たすべく、今後もスタッフ一同最善を尽くす所存である。

（センター長 山川 大志）

# 予防医療センター

## 1. 概要

予防医療センターでは、主に消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、眼科、口腔外科など各科専門医のもと、一般的な人間ドック（二日ドック、日帰りドック）を精度高く行い、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病やがんなどの悪性腫瘍早期発見・早期介入に努めている。脳ドック、女性ドック（乳がん、子宮がん）、肺がん検診は、それぞれ脳神経外科、一般外科、産婦人科、呼吸器内科・放射線科の専門医と連携して行っている。さらに、PET-CT検診が放射線科専門医の協力を得て開始され、がん早期発見環境がより整備された。

また、就職、進学、海外留学・海外出張、免許取得、施設入所時などの健康診断、被爆者健診、企業の定期健康診断、有機溶剤等健康診断、当院職員の院内健診など様々な健康診断を各科と連携しながら行っている。

さらに、予防医療として、インフルエンザワクチン、B型肝炎ワクチン、破傷風ワクチンをはじめとする各種ワクチンの接種を実施している。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大により4月に緊急事態宣言が発令され、ゴールデンウィークまで健診業務を一時中止とした。その後も感染防止対策の徹底、3密を回避するため受診者数制限を余儀なくされ、毎年開催の「健康教室」も延期となった。

(センター長 大橋 信治)

## 2. 活動報告

### (1) コース別受診者数

コース名	受診者数(人)
二日ドック	54
日帰り人間ドック	2,129
脳ドック	224
肺がん検診	9
胃がん検診	29
女性の健康ドック	19
P E T - C T 検診	21
個人健康診断	527
予防接種	399
全国健康保険協会生活習慣病予防健診 (旧 政府管掌生活習慣病予防健診)	1,455
原爆被爆者健診	38
企業団体健診(注1)	850

注1： 企業団体契約、その他を含む

## (2) 受診対象者の内訳

### ①二日ドック

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	54	7	3	0
胸部X線	54	2	2	0
胃部X線	5	0	0	0
胃カメラ	48	5	4	3
腹部エコー	54	1	1	0
安静時心電図	54	7	6	1
負荷心電図	41	2	2	1
便潜血	52	5	2	2

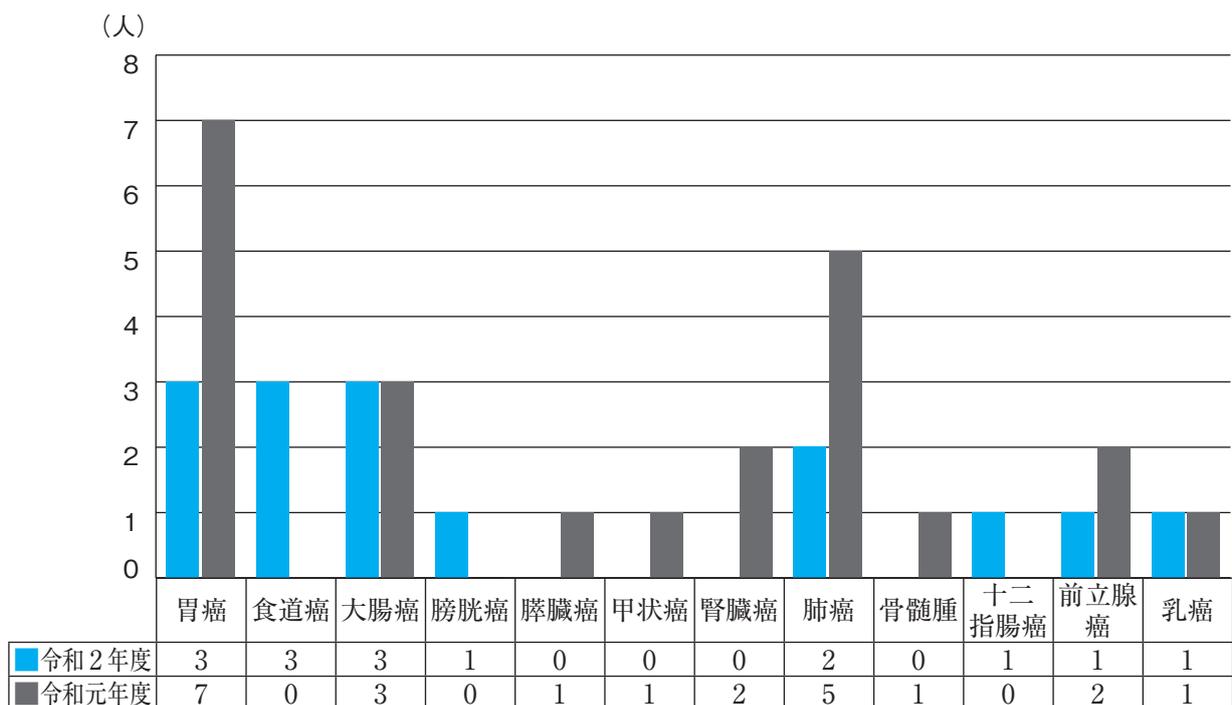
### ②日帰りドック

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	2,126	307	136	9
胸部X線	2,123	54	29	1
胃部X線	1,297	160	78	20
胃カメラ	751	36	20	14
腹部エコー	1,969	82	41	1
安静時心電図	2,129	69	35	3
便潜血	2,085	100	53	19

### ③生活習慣病予防健診

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	77	12	6	0
胸部X線	1,415	43	26	1
胃部X線	1,095	136	72	13
胃カメラ	207	13	10	4
腹部エコー	63	1	1	0
安静時心電図	1,421	47	13	1
便潜血	1,398	76	26	11

### (3) 悪性新生物発見数



### (4) メタボリック判定実施者

(人)

区分	令和2年度	令和元年度
①基準該当	708	833
②予備軍該当	525	666
③非該当	2,363	4,299

# 輸血・細胞治療センター

## 1. 概要

輸血・細胞治療センターでは、年6回の輸血療法委員会の開催、年2回の輸血療法院内監査の実施を行い、院内の輸血療法が安全かつ適切に運用されるよう管理している。

2020年は、輸血療法実施規約および輸血療法同意書の改定を行った。またHBV、HCV、HIVの輸血後感染症検査に関する対応について日本輸血・細胞治療学会の方針に従い、輸血前検体保管が全例で必須となった。

2021年は、迅速フィブリノゲン測定機器の導入を行う。フィブリノゲン値はクリオプレシピテート投与のタイミングを決定するのに非常に重要である。今回の機器導入で報告時間が短縮されることにより、クリオプレシピテートの適正使用につながると考える。またI&A（輸血機能評価認定制度）更新のための準備を行う。

今後も院内の輸血療法が安全かつ適正に行われるよう管理していく。

（センター長 倉橋 信悟）

## 2.活動報告

### (1) 定期委員会

輸血療法委員会開催（2か月毎予定） \*6回実施

### (2) 輸血療法院内監査

輸血療法院内監査実施 \*2回実施

臨時 輸血療法院内監査実施 \*1回実施

### (3) センター業務実績

#### ①輸血関連検査件数

検査項目	総件数(件)	前年比
血液型	18,100	0.84
不規則抗体スクリーニング	12,752	0.83
交差適合試験	5,916	0.97

#### ②血液製剤使用状況

製剤種	総単位数(単位)	前年比
赤血球液(RBC)	11,695	0.96
新鮮凍結血漿(FFP)	4,204	1.07
濃厚血小板(PC)	19,600	0.92

③アルブミン（ALB）製剤使用状況

製剤種	総本数(本数)	前年比
ALB 25% 50mL	2,104	1.16
ALB 5% 250mL	1,285	0.93

\* ALB使用単位数：14,121単位

\* ALB/RBC=1.04 管理料 I 算定基準：2未満

④製剤廃棄率

製剤種	廃棄率(%)	前年比
赤血球液(RBC)	0.42	4.16
新鮮凍結血漿(FFP)	0.46	0.15
濃厚血小板(PC)	0.25	0.90

⑤副作用集計報告

製剤種	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球(RBC)	61	44
新鮮凍結血漿(FFP)	86	22
濃厚血小板(PC)	86	39

# ゲノム診療センター

## 1. 概要

臨床検査部門、病理診断科、患者総合支援センターを中心に院内のがん遺伝子パネル検査体制を構築し、2020年は2件の検査を提出した。

2020年はがんゲノム医療推進のために遺伝性腫瘍カウンセリング加算が新規に保険収載された。一定の基準を満たす患者に対するHBOC（遺伝性乳癌卵巣癌症候群）確定のためのBRCA1/2遺伝子検査やがん既発症者に対する対側乳房や、卵巣・卵管予防切除が保険適応となった。BRCA1/2遺伝子検査は2020年12月に膵臓癌、前立腺癌も適応拡大となり今後検査対象患者の増加が見込まれる。

網羅的に多数の遺伝子を調べるがん遺伝子パネル検査やコンパニオン診断としての遺伝子診断をきっかけとして遺伝性腫瘍の可能性が示唆されることがある。

2020年はHBOC関連での姉妹のカウンセリングや他院で確定診断された娘のシングルサイト検査に対応した。リンチ症候群に関しても遺伝子検査やカウンセリング（自費）を行った。専門医が少ないため検査前のカウンセリングの全例対応はできていないが、検査に迷われる方、不安の強い症例については個別に対応している。検査後のカウンセリングや家族の確定診断についてもできる限り対応している。周産期分野における母体血を用いた出生前遺伝学的検査（NIPT：non-invasive prenatal genetic testing）は2020年、40件の検査を行った。本検査については学会よりの指針改定が凍結しているため旧来の基準で検査を継続している。

（センター長 岡田 真由美）

## 外来治療センター

### 1. 概要

2020年度の年間利用者の延べ数は、11,756人（うち癌治療10,049人）で、2019年度の10,649人（同10,065人）と、新型コロナウイルス感染症の影響下でも減少は見られない。癌に関する治療数は変わらない一方で、癌以外の治療数は増加している。1日の平均利用者数も、2019年度も2020年度もほぼ同程度となった。

扱うレジメン数は増加しており、外来治療センターで扱うレジメン数は2020年度には368と、増加している（2019年度は299）。使用しなくなったレジメンの削除を、各科に依頼しているが、扱う治療の複雑性は増している。新規レジメンは治療時間が従来より長時間にわたるものが多いので、治療センターは混雑している。これに対応すべく、2020年度には、外来治療センターはサテライト（4床）を開設して32床に増床した。

増加する患者数・扱うレジメン数に対応する人員は、看護師12名/日、薬剤師8～9名/日である。以上の体制で、治療レジメンに応じたスケジュールの組み立て、など各スタッフの努力により、安全に治療を遂行している。

（センター長 藤井 正宏）

## 2. 活動報告

### (1) 治療実績 月別集計表

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	
平均年齢(歳)		65.7	65.9	66.1	65.6	65.8	65.6	66.1	64.5	65.5	65.7	66.2	66.2		65.7	
男(人)		538	472	545	575	524	508	536	462	496	538	456	586	6,236	519.7	
女(人)		469	413	456	479	442	466	493	463	469	428	442	500	5,520	460	
がんに関する治療(人)	内科	377	362	394	447	383	394	409	357	387	401	357	414	4,682	390.2	
	外科	300	219	274	259	262	242	259	243	255	260	234	293	3,100	258.3	
	泌尿器科	65	61	64	66	78	77	78	61	49	51	47	67	764	63.7	
	耳鼻いんこう科	52	48	51	42	30	42	45	45	44	38	41	56	534	44.5	
	婦人科	60	57	64	79	70	67	74	74	74	70	74	83	846	70.5	
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	その他	9	3	11	14	5	11	16	7	12	11	11	13	123	10.3	
	計	863	750	858	907	828	833	881	787	821	831	764	926	10,049	837.4	
	初回	64	78	71	87	67	72	70	74	66	63	69	85	866	72.2	
	乳腺	136	72	101	85	88	84	99	101	95	104	94	115	1,174	97.8	
	大腸	134	119	134	141	125	99	124	101	113	121	108	131	1,450	120.8	
	血液	105	119	130	149	114	122	138	129	130	128	114	122	1,500	125.0	
	肺	160	126	145	163	150	149	163	110	121	135	121	150	1,693	141.1	
	胆膵	80	84	86	99	87	102	90	80	92	96	86	103	1,085	90.4	
	胃	47	42	57	51	56	60	47	60	66	61	53	66	666	55.5	
	前立腺	13	9	12	20	13	11	11	8	6	11	7	8	129	10.8	
	その他	188	179	193	199	195	206	209	198	198	175	181	231	2,352	196.0	
	がん以外の治療(人)	内科	45	45	45	56	47	51	57	53	49	60	43	63	614	51.2
		整形外科	2	1	2	1	2	1	1	0	2	1	2	1	16	1.3
リウマチ科		94	86	91	87	85	86	85	82	91	70	85	90	1,032	86.0	
皮膚科		2	2	4	2	3	3	4	3	2	4	2	4	35	2.9	
その他		1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	2	2	10	0.8	
計			135	143	147	138	141	148	138	144	135	134	160	1,707	142.3	
合計(人)		1,007	885	1,001	1,054	966	974	1,029	925	965	966	898	1,086	11,756	979.7	
1日平均(人)		47.9	49.1	45.5	50.2	48.3	48.7	46.8	48.7	48.3	50.8	49.9	47.2	581.4	48.5	

# 手術センター

## 1. 概要

手術センターは、一人一人の患者さんに最良の手術が行われるよう各診療科および麻酔科の医師・臨床工学技士・病棟及び手術センターの看護師が連携を図っている。当センターは、地域や患者のニーズに応えるべく以下の特徴及び設備を整えている。

また、超緊急枠を設け、全科の超緊急手術に対応できるようにしている。

- ① 高度先進医療の施行
  - a 内視鏡下手術：腹腔鏡、胸腔鏡、膀胱鏡、関節鏡、耳鼻科内視鏡、神経内視鏡
  - b ロボット支援下手術：一般外科、婦人科、泌尿器科、呼吸器外科
  - c 大動脈瘤に対するステント留置術
  - d O-arm透視下に行う脊椎等の整形外科手術
  - e 不妊症に対する産婦人科生殖手術
  - f 移植手術：腎移植、副甲状腺移植
  - g 顕微鏡下手術：脳神経外科、耳鼻いんこう科、眼科、整形外科
  - h ナビゲーション支援下手術：脳神経外科、耳鼻いんこう科、整形外科
  - i 脳死臓器提供手術
- ② 総合周産期母子医療センターの要望に応じ、手術決定後30分以内に胎児娩出を行う超緊急手術に対応
- ③ 心臓病、肺疾患、肝疾患、腎疾患等重い合併症を有するハイリスク患者手術に対応
- ④ 研修機関病院として、研修医、医学生、看護学生、救命救急士等の見学や実習
- ⑤ 手術診療科 18 (内科、一般外科、小児外科、呼吸器外科、心臓外科・血管外科、移植外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、産婦人科 (生殖医療)、耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科)
- ⑥ 手術室 16 (バイオクリーン・ルーム1室、採卵室1室、ハイブリッド手術室1室、ダヴィンチ手術室1室、内視鏡手術室1室)
- ⑦ 空気清浄度
  - a クラス100 (1室)：整形外科で使用
  - b クラス1000 (1室)：呼吸器外科、心臓外科・血管外科で使用
  - c クラス10000 (14室)
- ⑧ スタッフ 看護師54名 (2交代制で、夜勤者2名、待機2名、遅番2名体制)

また、2020年10月より手術支援ロボットシステム (ダヴィンチ) を1台増設し、2台体制となった。2020年度の主な実績としては、ロボット支援下手術を計181例、ハイブリッド手術を15例施行した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で全体の手術実施数は減少した。

(センター長 雄山 博文)

## 2. 活動報告

### (1) 手術件数

疾患名	件数(件)
一般外科	1,437
呼吸器外科	167
心臓血管外科	90
小児外科	108
移植外科	62
整形外科	1,494
リウマチ科	28
形成外科	5
脳神経外科	403
産婦人科	1,095
耳鼻いんこう科	473
皮膚科	97
泌尿器科	599
眼科	438
歯科口腔外科	389
生殖医療	285
内科	108
小児科	5
計	7,283

疾患名	件数(件)
全身麻酔	3,723
静脈麻酔	175
腰椎麻酔	1,220
局所麻酔	1,700
伝達麻酔	174
無麻酔	271
その他	28
計	7,291
(うち緊急手術)	1,165
割合	15.98%

### (2) 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

疾患名	件数(件)
一般外科	536
うち、ロボット支援下直腸悪性腫瘍手術	10
うち、ロボット支援下胃悪性腫瘍手術	12
呼吸器外科	140
うち、ロボット支援下肺悪性腫瘍手術	11
小児外科	54
整形外科	103
リウマチ科	0
産婦人科	475
うち、腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術(先進医療)	0
うち、腹腔鏡下広汎子宮頸部摘出術(先進医療)	0
うち、ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	43
うち、ロボット支援下腔式子宮全摘出手術	102
泌尿器科	128
うち、ロボット支援下前立腺悪性腫瘍手術	62
うち、ロボット支援下腎悪性腫瘍手術	17
うち、ロボット支援下膀胱悪性腫瘍手術	1
その他	6
計	1,442

# 口唇口蓋裂センター

## 1. 概要

当センターは口唇口蓋裂を含む口腔の先天性疾患、顎発育異常等に対する治療を担当している。豊橋市内外から多くの患者の紹介を頂いており、院内の産婦人科、小児科からの紹介も多い。

口唇口蓋裂は長期の治療期間を要するため、出生してから成人するまでそれぞれの成長発育段階における様々な病態に合わせた治療を行っている。当センターでは出生直後より小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科をはじめ関連他科の協力を仰ぎながら治療を行っている。また院内はもとより、市中の医科歯科関連の医療施設と密接に連携を保ちながら、円滑に治療が進むよう当センターが中核となってその対応を行っている。一次症例だけでなく、他院で治療を受けた二次症例でも積極的に対応しており、外来初診症例数や入院症例数は、ともにほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

(センター長 嘉悦 淳男)

## 2. 活動報告

### ①外来初診症例数

疾患名	件数(件)
唇(顎)裂	2
口蓋裂	4
唇顎口蓋裂	5
その他の唇顎口蓋裂	1
計	12

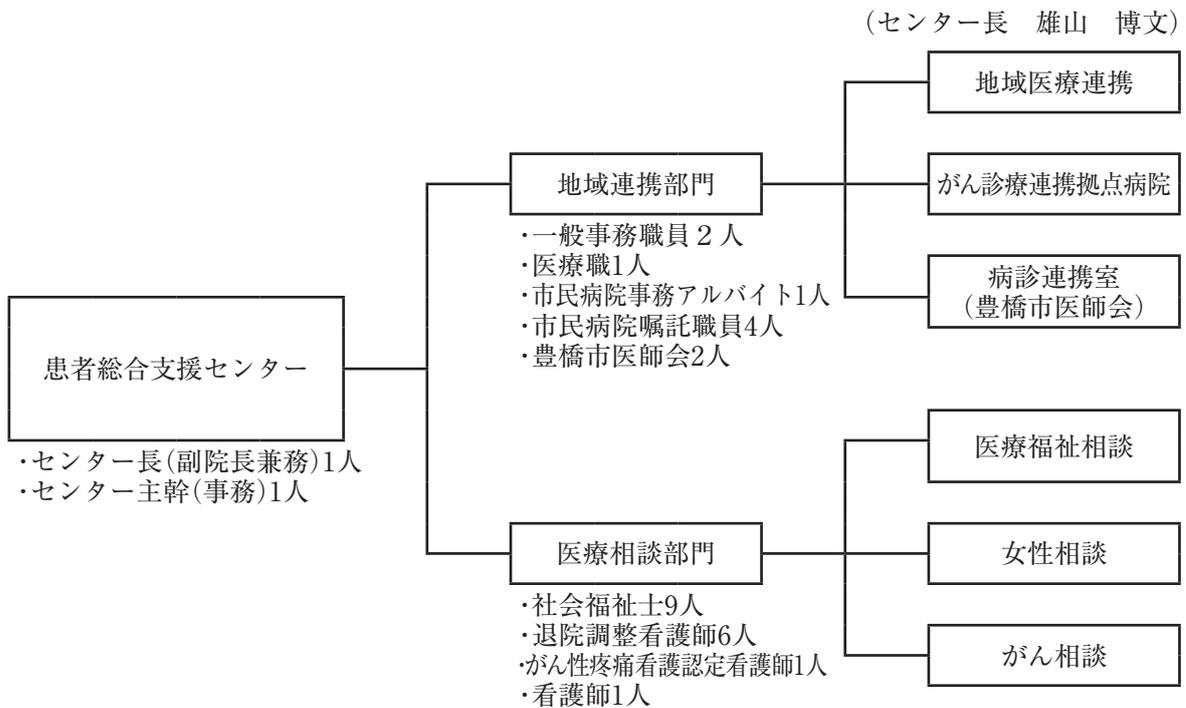
### ②入院症例数

疾患名	件数(件)
唇(顎)裂	2
口蓋裂	2
唇顎口蓋裂	27
その他の唇顎口蓋裂	0
計	31

# 患者総合支援センター

## 1. 概要

2010年4月1日、副院長をセンター長として開設した当センターは、患者に対して効率的で質のよい医療を提供するため、地域の医療機関や介護事業者との相互連携を図る「地域連携部門」と、医療を通じて発生する種々の問題に対して、患者に安心して治療に当たってもらえるよう支援を行う「医療相談部門」で構成されている。



## 2. 活動報告

### (1) 地域連携部門

#### ①地域医療支援委員会

委員 29人 (院外 17人、院内 12人)

第1回 令和2年 5月26日開催 (書面会議)

第2回 令和2年 8月13日開催

第3回 令和2年11月12日開催

第4回 令和3年 2月18日開催

#### ②地域連携登録医登録者数

512人 (令和3年3月末現在)

#### ③豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

委員 8人 (豊橋市医師会 2人、豊橋市民病院 6人)

事務局 4人 (豊橋市医師会 1人、豊橋市民病院 3人)

#### (ア)病診連携協議会

第86回病診連携協議会 令和2年 5月29日開催

(イ)MCRフォーラム

第46回MCRフォーラム 令和2年 10月14日開催

「呼吸器外科における現状と将来展望」 参加人数 35人

(ウ)病院・転床施設連携懇談会

第24回病院・転床施設連携懇談会 中止 (\* 関係施設へ資料配布)

令和元年度の転床入院実績報告

④紹介・逆紹介実績

(ア)紹介・逆紹介率

紹介率	逆紹介率
78.0%	88.8%

(イ)病診連携室取扱実績

内訳			件数(件)	
病診連携室経由の受診予約数	医 科	市 内	8,778	
		市 外	3,015	
	歯 科	市 内	1,211	
		市 外	200	
	保 健 所 保 健 セ ン タ ー			238
	そ の 他			58
	キ ャ ン セ ル			△429
	計			13,701
時 間 外 ( 再 掲 )			704	
病診連携室経由の転院先状況	申 込 数		2,316	
	内 訳	有 床 診 療 所	5	
		病 院	1,639	
		キ ャ ン セ ル	664	
		転 院 予 約 中	8	

## (2) 医療相談部門

①医療相談件数 38,671件 \*入退院支援センターの実績件数も含む。

病気やケガ等で生活上の課題を抱えた患者が安心して医療が受けられるよう、経済的なこと、在宅での療養や介護、転院先の選定などについて、地域の医療・福祉・介護等の関係機関と連携して、社会福祉士や看護師が支援を行っている。

②がん相談件数 1,329件

地域がん診療連携拠点病院指定を受けている当院は、がん相談支援センターを設置し、国のがん専門相談員研修を修了した相談員ががんに関する情報提供や、療養生活、就労、がんゲノム、セカンドオピニオン等に関する相談支援を行っている。

③女性相談件数 16件

女性特有の悩みや受診先について女性看護師が対応している。

# 入退院支援センター

## 1. 概要

入退院支援センターでは、患者さんが安心して入院生活を送り、退院後も地域で安心して生活するための支援を行っている。入院支援では、昨年度より管理栄養士と歯科衛生士を迎え、入院前からの栄養評価や指導、歯科口腔ケアのスクリーニングを行い、かかりつけ歯科医師との連携を図っている。退院支援では、MSW（医療相談員）と退院調整看護師が各病棟を担当し、医療的な課題と社会的な側面に対して柔軟に介入し、患者が住み慣れた地域に戻れるよう支援している。

入院支援、退院支援の業務は以下のとおりである。

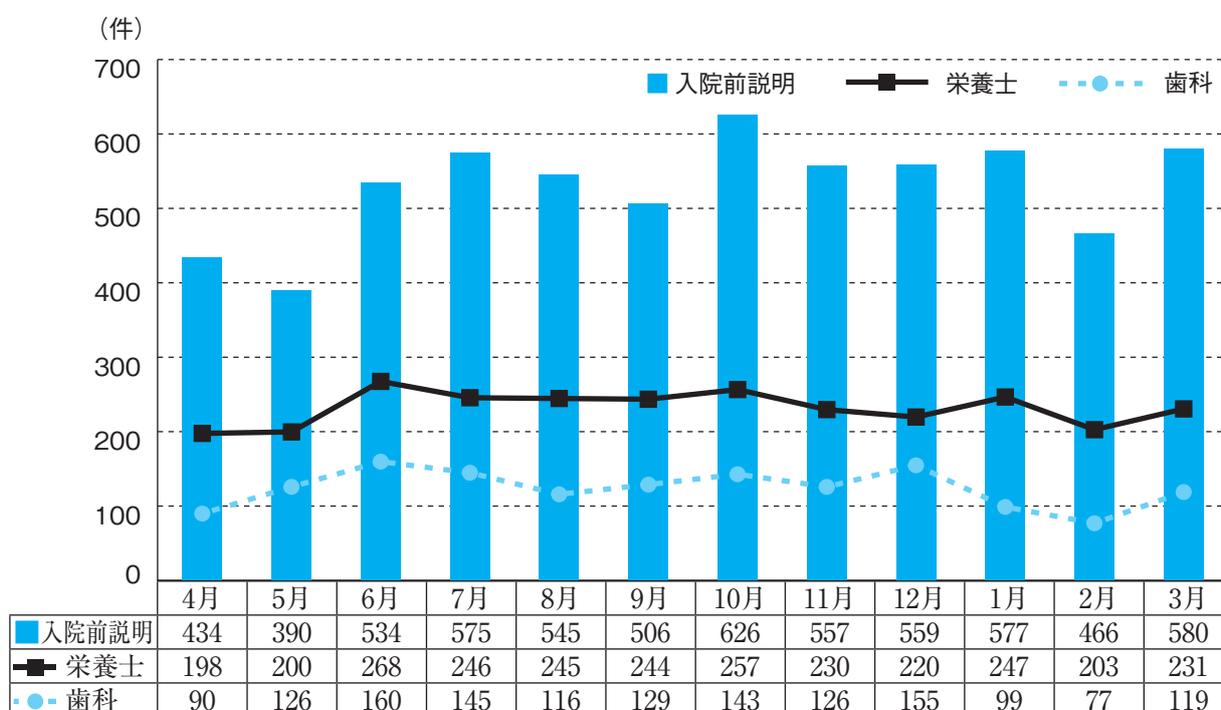
- ①入院や手術に対して抱えている不安を少しでも軽減し、安心して入院・手術が受けられるように援助する。
- ②リスクのある患者をスクリーニングして安全に手術が受けられるようにする。
- ③退院困難要因のある入院患者に早期から介入し、その人らしい暮らしに戻れるように支援する。
- ④院内外多職種との連携を図り、速やかな退院支援を展開する
- ⑤退院前訪問、退院後訪問の実施、訪問看護ステーションとの連携を図る

（センター長 間瀬 有奈）

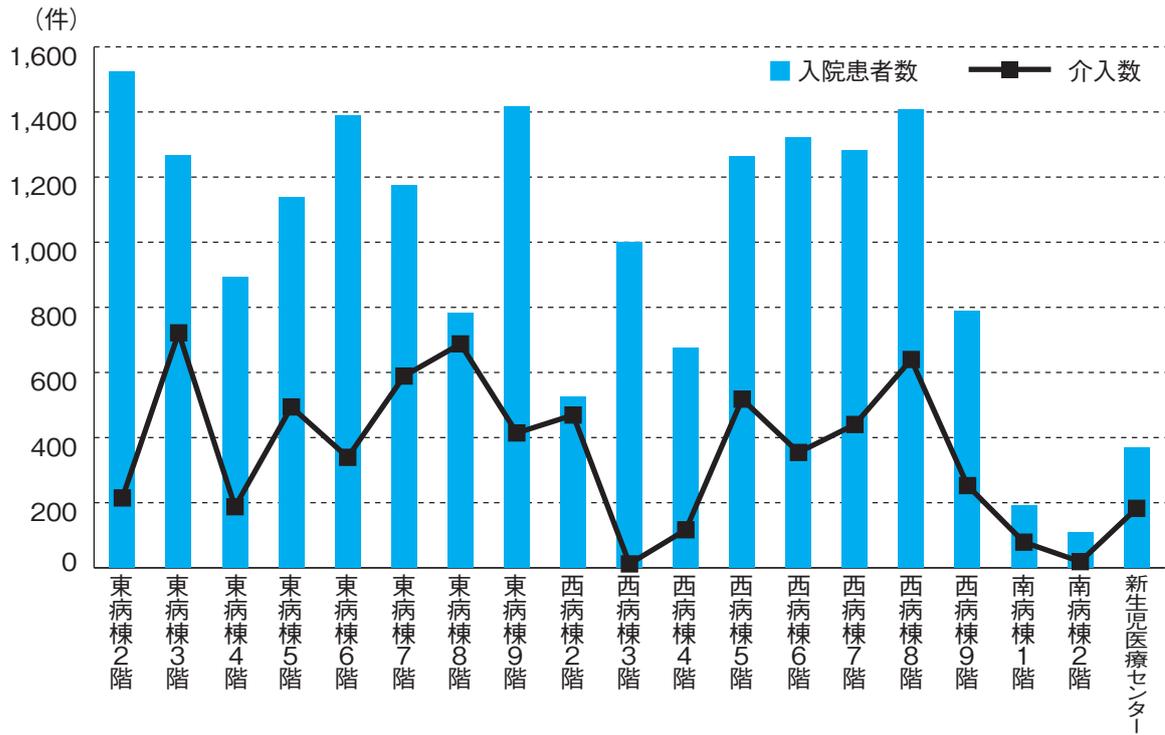
（文責 副センター長 伊藤 恵子）

## 2. 活動報告

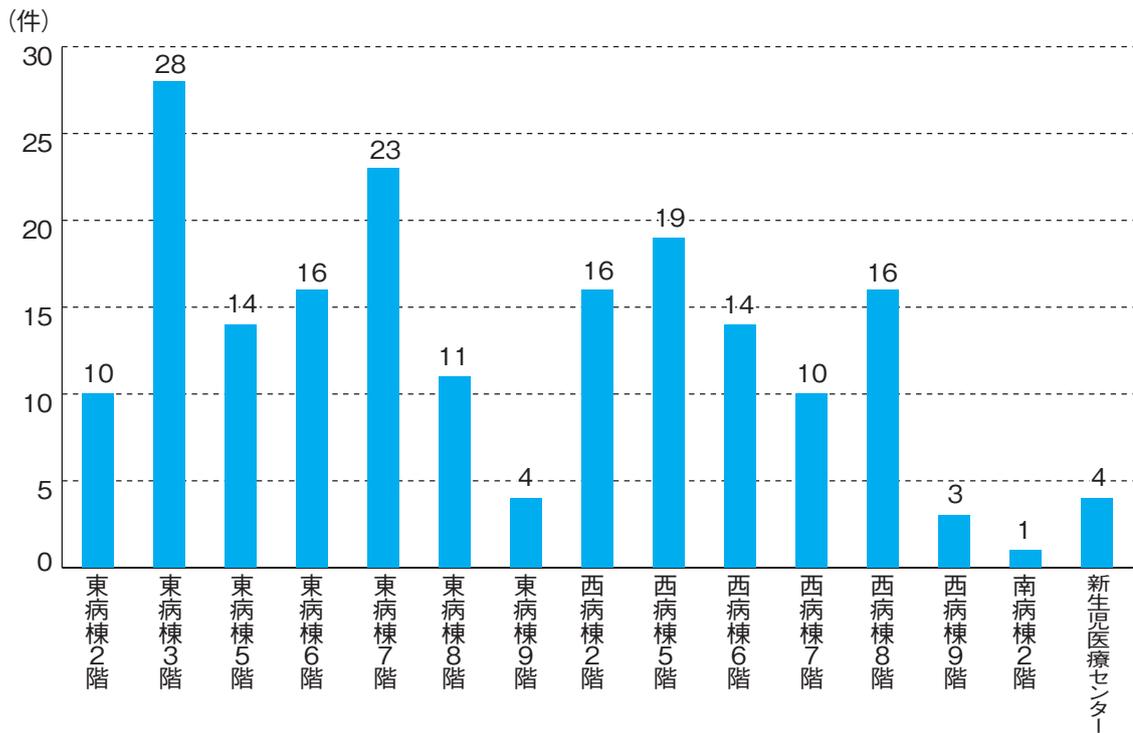
### （1）入院支援実績



## (2) 介入実績



## (3) 退院前カンファレンス実績



# 一次脳卒中センター

## 1. 概要

地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療救急医が患者搬入後、可及的速やかに診療（rt-PA静注療法含む）を開始できる施設が地域医療に必要とされるため、一般社団法人日本脳卒中学会のPSC（Primary Stroke Center）として申請を行い、認定された。

これは、2016年に日本脳卒中学会と日本循環器学会が共同で作成した「脳卒中と循環器病克服5カ年計画」において充実した医療体制の構築を目的として、一定の施設要件を満たした医療機関を認定するものである。

毎週月曜日夕方、多職種による症例カンファレンスを行っている。毎週2-3例を取り上げて診断・治療・今後の方針等について検討している。

（センター長 岩井 克成）

## 診療技術局

診療技術局には、放射線技術室、中央臨床検査室、リハビリテーション技術室、臨床工学室、栄養管理室の5部門（7職種）で、医療関係の国家資格を有した約180名および事務職員によって構成されている。病院事業（診療・経営の質の向上）への貢献はもちろんのこと、医療技術職のステータスの向上と職種の垣根を越え、共通の方針、計画、施策の立案などにより、より効率的な運営に努めている。病院の方針の浸透と現場の意見からのボトムアップ、医療技術職の横断的意思疎通の促進がさらなる活性化につながると考えている。COVID-19検査を積極的に取り入れ、病院玄関での発熱トリアージ業務も従事した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、局内の集合的な研修会を取りやめた。また、毎年開催していた「高校生職場見学会」についても中止した。

代わりにこれまで様々な企画を実施してきた「診療技術局企画委員会」の内規・細則を作成し、運用内容や構成などを委員で話し合いまとめた。

東三河地域における当院の役割は、様々な勉強会や研修会を積極的に開催し、地域医療に貢献することである。また、コメディカルの医療レベルが現在の医療レベルに直結することと考え、業務を遂行したいと考えている。

（局長 山口 育男）

# 放射線技術室

## 1. 概要

この1年は、やはりコロナ禍の影響を強く受けた年であった。当院での外来予約診療の制限や手術の制限等で放射線技術室にも検査数が前年度同月80%まで減少した月があった。また、救命救急外来でのコロナ疑い患者の対応にも当初は混乱があり職員の安全を確保しながら与えられた検査を確実に実施しなくてはならず慎重な対応が必要となった。また、減少した検査数を取り戻すために新たな検査項目を提案する職員や毎週時間外にまでかかるTV室での検査を今まで使われていない時間枠に分散する提案もあり、さらには、4月からMRI検査を主体とする物忘れ脳ドックがあらたに募集開始される。この厳しいコロナ禍であっても、頼もしく感じられた一面であった。また、今年度はCT装置を更新し、三河地区では初めての320列高性能CT装置を救命救急に配置することにより、今後の救急医療にも役立てていければと考えている。

(室長 坂口 哲基)

### 「在籍技師が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
第1種放射線取扱主任者	原子力安全技術センター・文部科学省	医学物理士	医学物理士認定機構
放射線管理士	日本放射線技師会	放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門放射線技師認定機構
放射線機器管理士	日本放射線技師会	放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構
医療情報技師	日本医療情報学会	核医学専門技師	日本核医学専門技師認定機構
医療画像情報精度管理士	日本診療放射線技師会	核医学専門技術者	日本核医学技術学会
診療情報管理士	四病院団体協議会	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
医療安全管理者	日本病院会	乳腺甲状腺超音波診断委員会認定技師	日本乳腺甲状腺超音波診断会議
臨床実習指導教員	日本診療放射線技師会	乳房超音波	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
X線作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省	超音波検査士(健診)	日本超音波医学会
γ線透過写真撮影作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省	超音波検査士(体表臓器)	日本超音波医学会
X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構	超音波検査士(消化器)	日本超音波医学会
血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構	医療被ばく相談員	日本放射線技師会
日本磁気共鳴専門技師	日本磁気共鳴専門技師者認定機構	小腸カプセル内視鏡読影支援技師	日本カプセル内視鏡学会
救急撮影認定技師	日本救急撮影技師認定機構		

## 2. 活動報告

### (1) 放射線技術室実績

(件)

区分		令和2年度	令和元年度
一般撮影	頭部	2,833	4,268
	胸部	69,269	74,305
	腹部	12,209	13,490
	四肢	42,265	46,862
	椎体	16,803	19,032
	計	143,379	157,957
	骨塩量測定	2,208	2,260
	ポータブル	26,321	27,664

エコー室	単純	12,079	13,274
	造影	160	146
	計	12,239	13,420

CT	単純	28,754	27,311
	造影	17,806	18,657
	計	46,560	45,968

MRI	単純	10,042	10,397
	造影	5,623	5,408
	計	15,665	15,805

血管撮影	心臓	769	794
	頭頸部	266	265
	胸部	129	106
	腹部	210	194
	四肢	60	57
	計	1,434	1,416

TV	UGI(胃)	2,669	2,953
	CG(大腸)	93	198
	透視下内視鏡	1,269	1,300
	透視下検査・治療	2,274	2,239
	計	6,305	6,690

RI	核医学SPECT	558	548
	核医学静態	127	160
	核医学動態	40	52
	核医学全身	379	699
	PET/CT	1,082	1,183
	計	2,186	2,642

放射線治療	体外照射	12,610	12,053
	定位照射	427	325
	腔内照射	92	53
	IMRT	3,148	1,641
	全身照射	40	38
	計	16,317	14,110

(2) 令和2年度 豊橋市民病院放射線技術研修会

	演題名	演者名	年月日
第1回	核医学画像の画質評価	市川 肇	令和3年2月5日

## 中央臨床検査室

### 1. 概要

2019年3月に「ISO15189：臨床検査における国際規格」を取得し2年が経過した。「ISO 15189」におけるPDCAサイクルの円滑な運用が、中央臨床検査室での質の高い検査結果を提供できることと考えている。その結果、2019年度精度管理調査（3団体）において、優秀な成績を残すことができた。

業務件数は、3.2%減少（2019年度比）であり、ほとんどの部門において減少であった。これは、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う患者数の減少が原因と考えられた。

COVID-19検査については、いち早く準備し、5月に迅速型PCR検査装置を導入した。9月末に多検体処理可能なPCR検査装置を追加し、12月には抗原定量検査を導入し24時間対応とした。また、12月初旬から開設された「発熱外来」において、検体採取業務に従事し、陽性患者のスクリーニングに寄与した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、検査室内の集会的な勉強会を取りやめた。また、学会中止等などにより自己研鑽の場が減少した。しかし、年度後半になるとWEB開催が主流ではあるが、これまで時間の制約などにより参加できなかった技師が研修会参加した報告を多く受けた。移動・参加からWEBによる履修に変わりつつあることを実感した。

新型コロナウイルス感染症対応の1年であった。迅速性が求められるCOVID-19検査を院内導入すること、臨床の希望に即した運用などで病院運営に寄与できたと自負している。

（室長 山口 育男）

#### 「在籍技師が取得している主な認定資格」

認定資格名称	認定団体及び学会	認定資格名称	認定団体及び学会
認定血液検査技師	日本検査血液学会	超音波検査士(体表臓器領域)	日本超音波医学会
骨髄検査技師	日本検査血液学会	認定心電検査技師	日本心電学会
認定サイトメトリ-技術者	日本サイトメトリ-技術者認定協議会	ソノグラファー	日本リウマチ学会
認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	専門技師(脳波分野)	日本臨床神経生理学会
感染制御認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	体外受精コーディネーター	日本不妊カウンセリング学会
認定輸血検査技師	認定輸血検査技師制度協議会	認定臨床エンブリオロジスト	日本臨床エンブリオロジスト学会
認定病理検査技師	日本臨床衛生検査技師会	生殖補助医療胚培養士	日本卵子学会
細胞検査士	日本臨床細胞学会	糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構
超音波検査士(循環器領域)	日本超音波医学会	栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会
超音波検査士(健診領域)	日本超音波医学会	遺伝子分析科学認定士	日本臨床検査医学会
超音波検査士(消化器領域)	日本超音波医学会	緊急臨床検査士	日本臨床検査医学会
超音波検査士(血管領域)	日本超音波医学会	認定認知症領域検査技師	日本臨床衛生検査技師会

## 2. 活動報告

### (1) 検査実施件数

(件)

区 分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
院内検査実施件数	5,675,045	5,864,465	5,655,630
委託検査件数	117,980	124,482	117,680
検査判断料件数	413,593	428,770	422,646
輸血管理料1	2,984	2,889	2,584
外来迅速検体検査加算件数	262,950	271,492	265,918
病理診断管理加算	13,485	15,096	15,681
検体検査管理料加算 I 件数	107,884	112,467	112,017
入院時初回加算件数	12,495	13,291	13,066
時間外緊急院内検査加算件数	9,614	11,463	12,417
採血加算件数	105,521	111,175	107,495

### (2) 検査判断料件数

(件)

区 分		令和2年度	令和元年度	平成30年度
尿・糞便等検査判断料	外来	20,187	19,029	18,339
	入院	4,726	3,567	3,560
血液学の検査判断料	外来	96,734	100,174	98,935
	入院	16,622	18,194	18,026
生化学の検査(I)判断料	外来	96,972	100,074	98,680
	入院	16,622	18,261	18,151
生化学の検査(II)判断料	外来	26,257	26,286	25,242
	入院	5,629	5,235	4,623
免疫学の検査判断料	外来	73,222	76,635	75,616
	入院	15,714	17,215	16,912
微生物学の検査判断料	外来	11,577	11,623	11,428
	入院	7,216	7,758	7,779
病理学の検査判断料	外来	2,356	2,176	2,179
	入院	42	31	36
呼吸機能検査等判断料	外来	3,567	4,273	4,161
	入院	553	664	772
脳波検査判断料	外来	1,040	1,046	983
	入院	797	1,043	1,267
神経・筋検査判断料	外来	391	406	369
	入院	173	225	183
組織診断料	外来	5,062	5,948	6,132
	入院	4,442	4,855	4,905
細胞診断料	外来	2,635	2,880	3,032
	入院	1,286	1,172	1,336

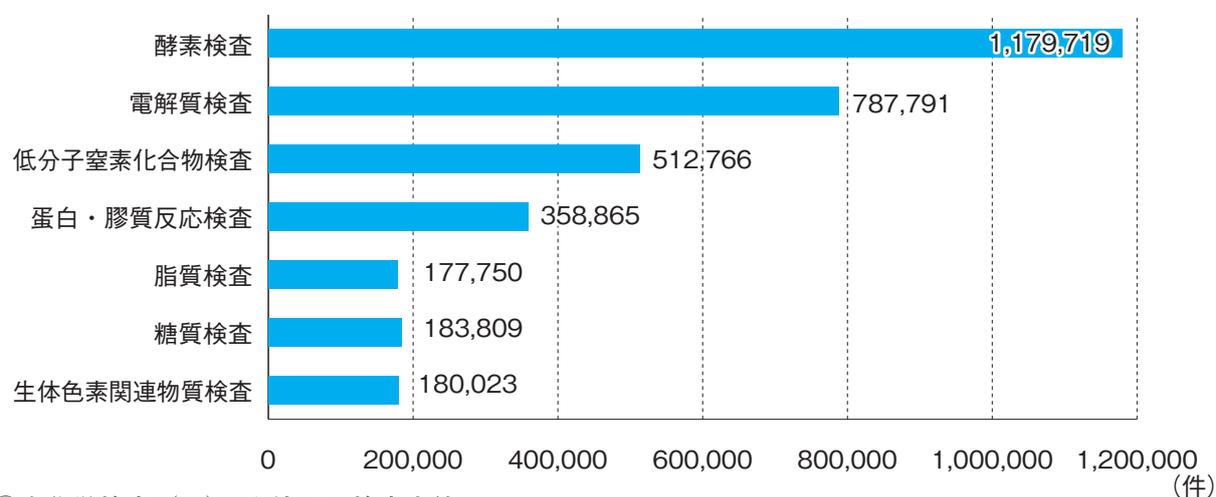
### (3) 部門別実績

(件)

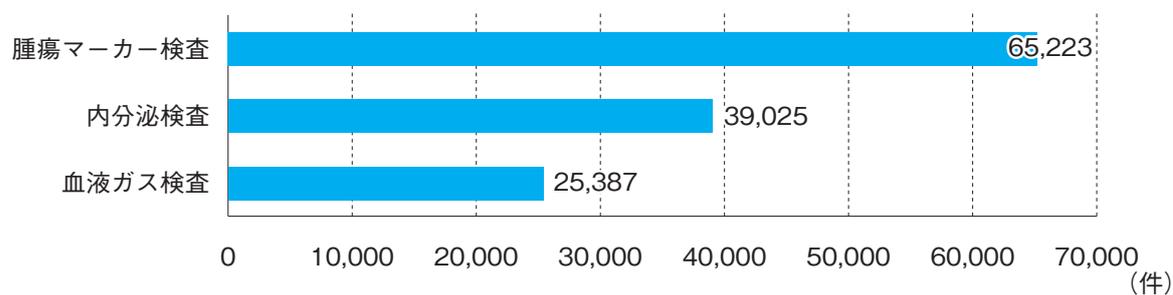
区 分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
尿・糞便等検査	115,028	114,758	112,794
血液学的検査	943,951	964,170	934,102
生化学的検査	3,996,756	4,134,904	3,973,743
免疫学的検査	394,268	401,115	392,705
微生物学的検査	88,586	95,932	92,766
輸血関連検査	55,904	65,761	60,188
生理機能学的検査	57,306	63,443	63,881
病理学的検査	22,503	23,565	24,599
生殖医療学的検査	743	817	852

### (4) 生物化学分析検査

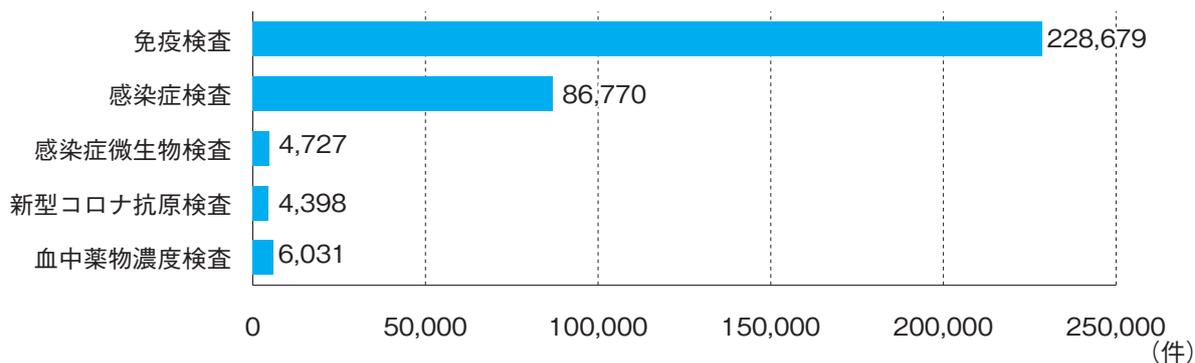
#### ① 生化学検査（Ⅰ）検査実績



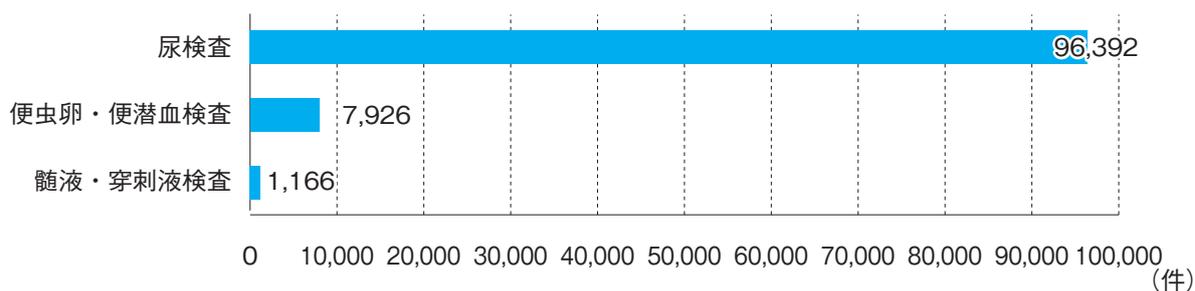
#### ② 生化学検査（Ⅱ）・血液ガス検査実績



③免疫学的・薬物検査実績



④一般検査 検査実績



⑤患者検査説明業務実績

(件)

区分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
患者検査説明業務	818	914	963

患者説明業務とは、蓄尿、糖負荷検査（OGTT）、生理検査などの検査方法を患者に対して説明する業務である。

●説明検査項目

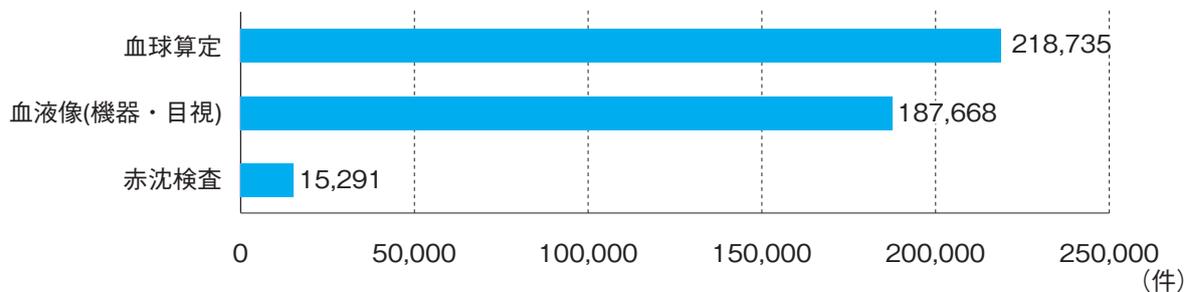
尿検査など：蓄尿・酸性蓄尿・糖負荷検査OGTT・クレアチニンクリアランス・早朝尿

生理検査：超音波検査・ホルター心電図・トレッドミル・24時間血圧測定・負荷サーモグラフィー・

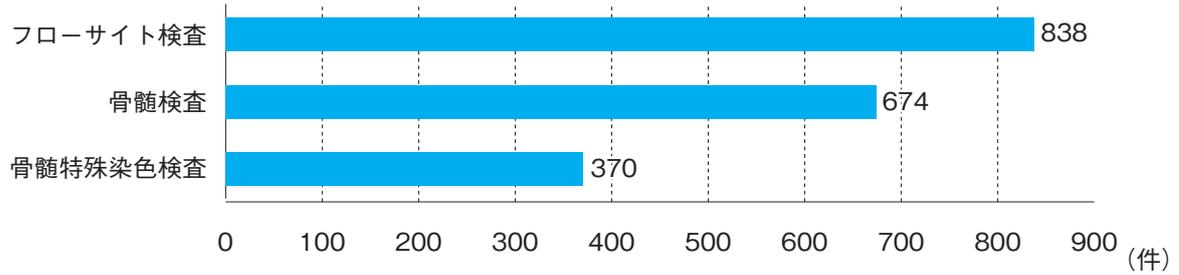
吸入誘発試験・脳波・聴性脳幹反応・終夜睡眠ポリグラフィー

⑥血液学的検査実績

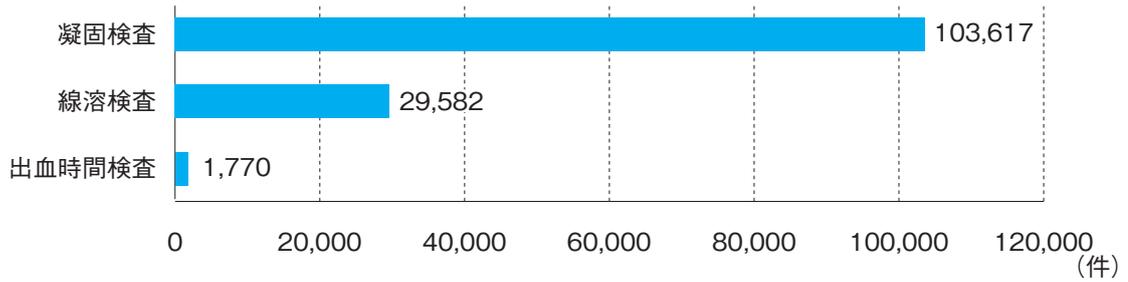
(ア)血液検査



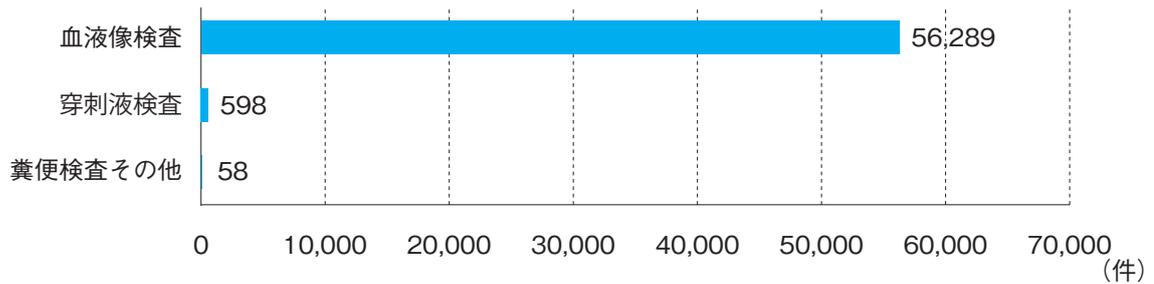
(イ)骨髄検査



(ウ)凝固・線溶検査



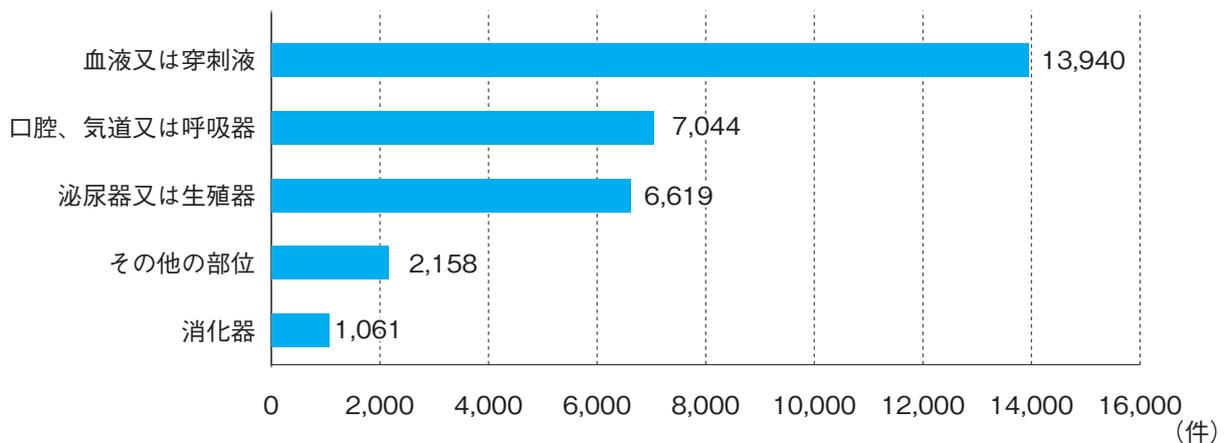
⑦顕微鏡検査実績



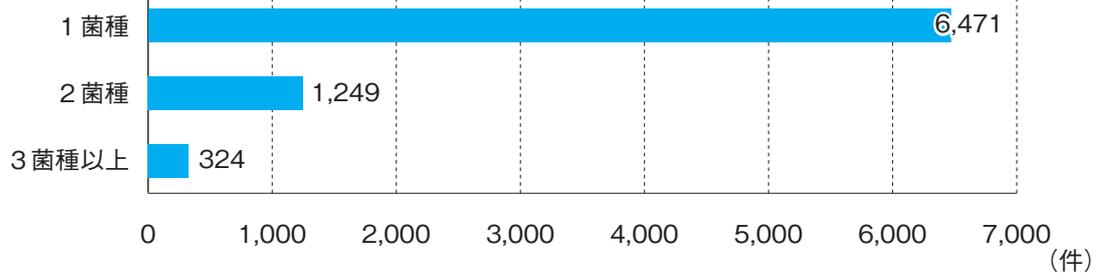
(5) 微生物・感染制御検査

①一般細菌

(ア)培養同定検査実績

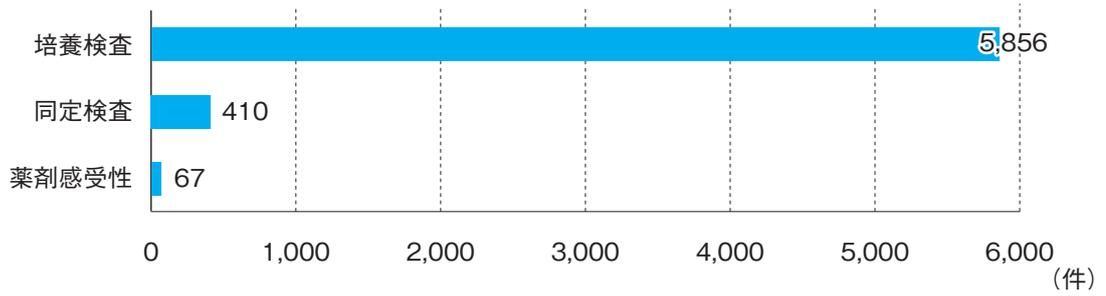


(イ)薬剤感受性検査実績

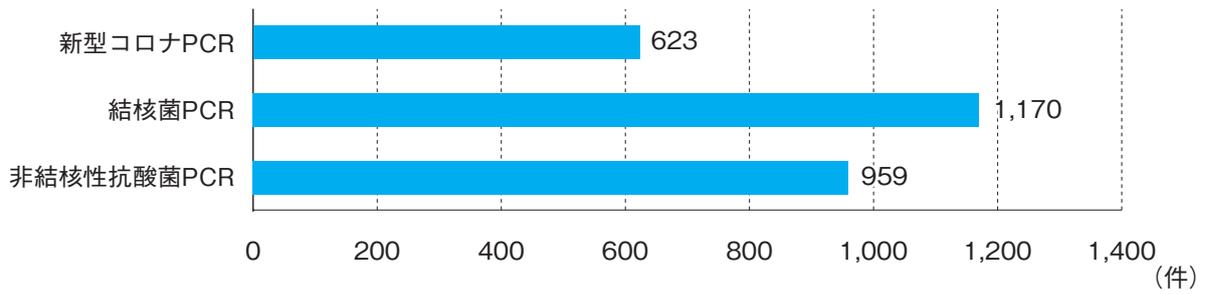


②抗酸菌

(ア)培養同定検査実績

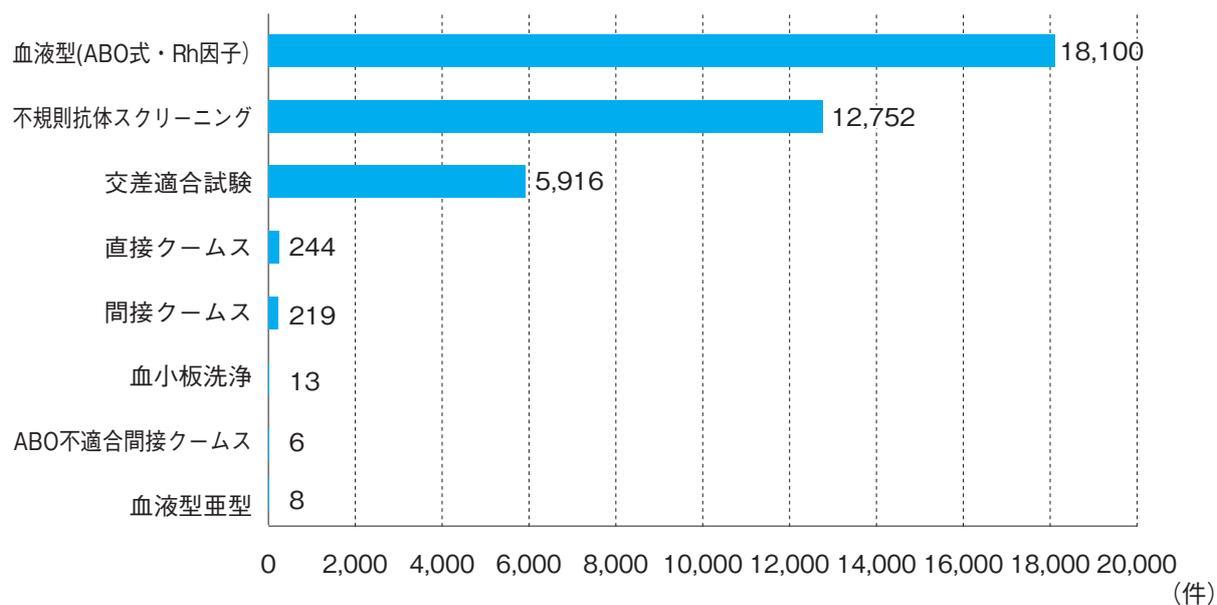


(イ)遺伝子検査 (PCR) 実績

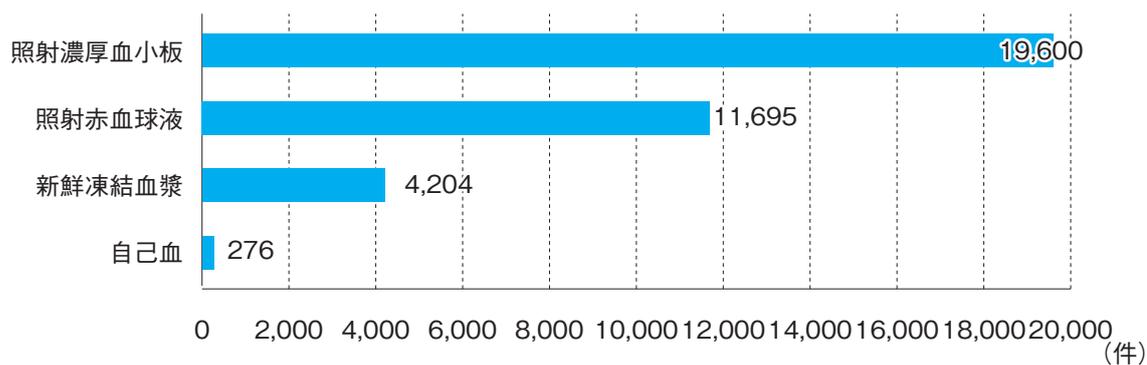


## (6) 輸血移植・救命救急検査

### ① 輸血関連検査実績



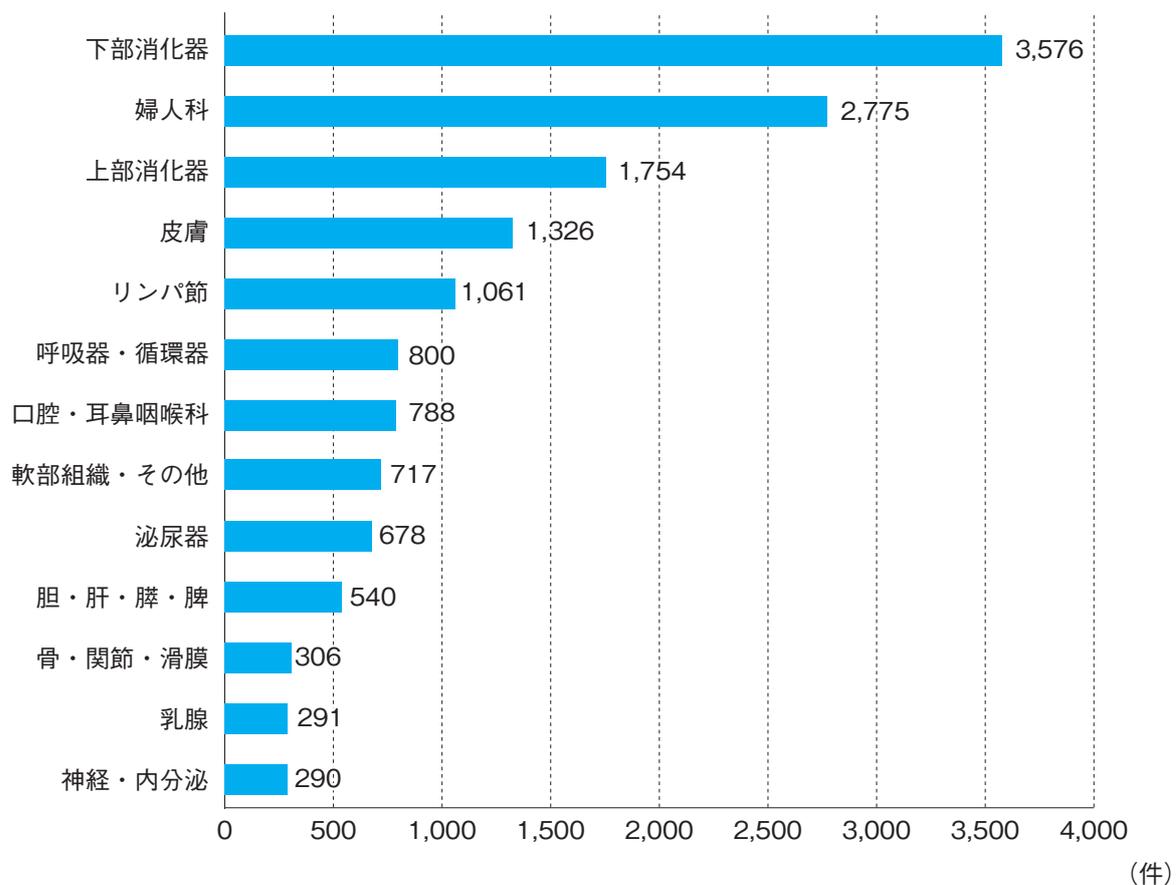
### ② 血液製剤使用状況



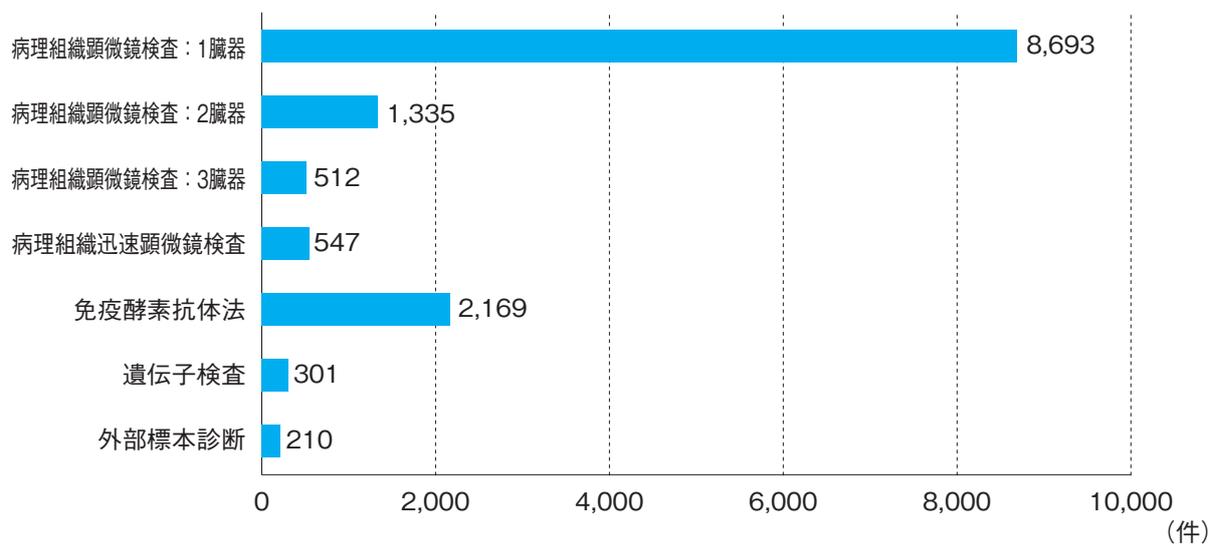
## (7) 病理・細胞形態検査

### ① 病理学的・細胞診検査実績

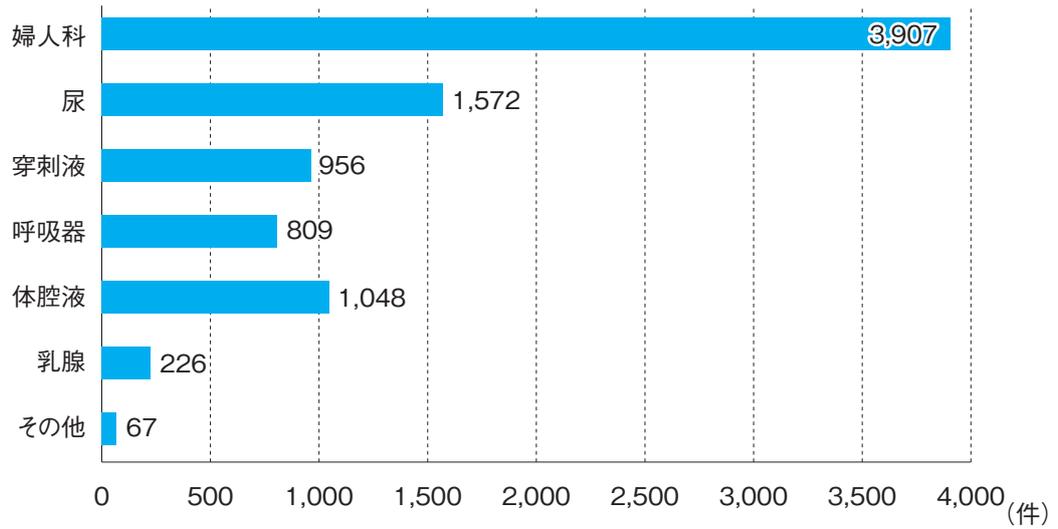
#### (ア) 病理組織検査材料別件数



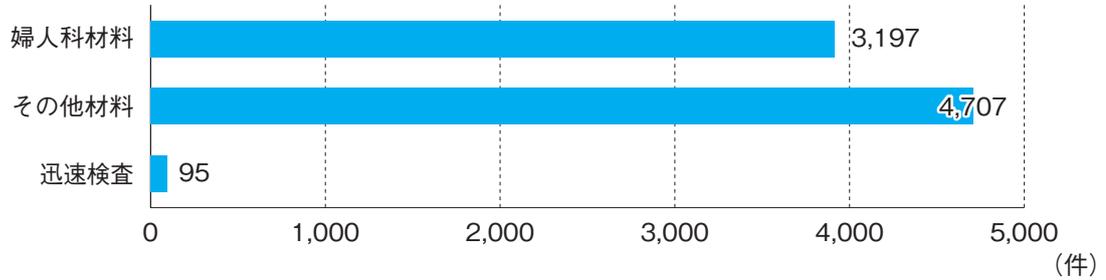
#### (イ) 病理組織検査件数



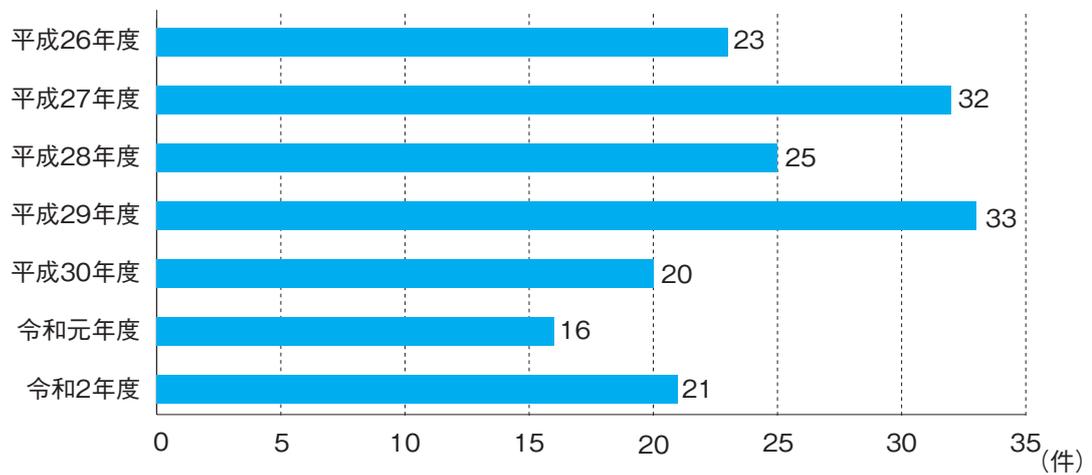
(ウ)細胞診検査材料別件数



(エ)細胞診検査件数



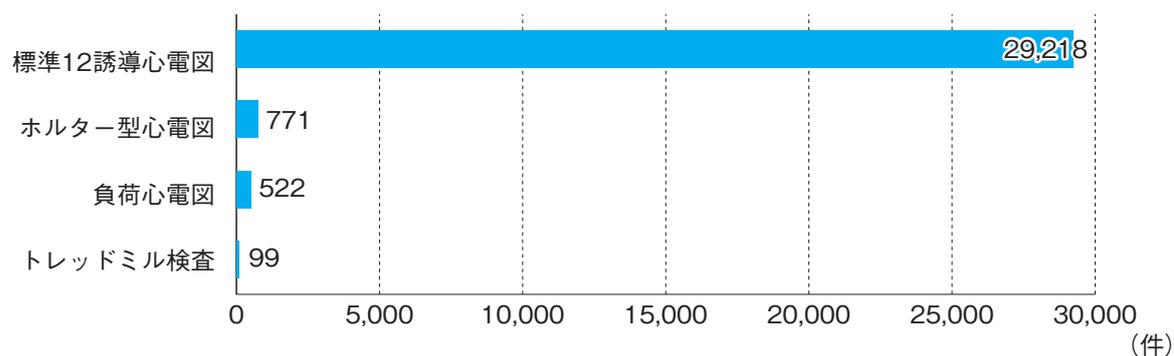
②病理解剖件数



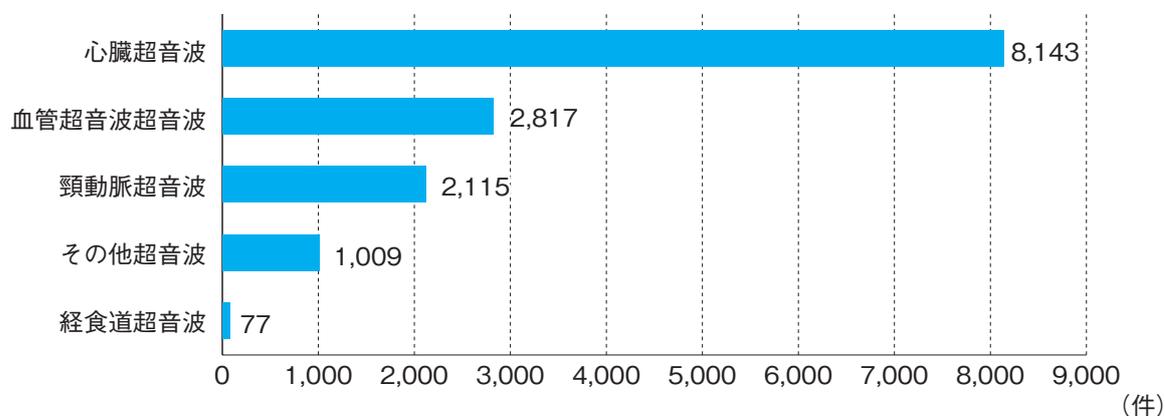
## (8) 生理機能・生殖医療検査

### ①生理機能・画像検査 検査実績

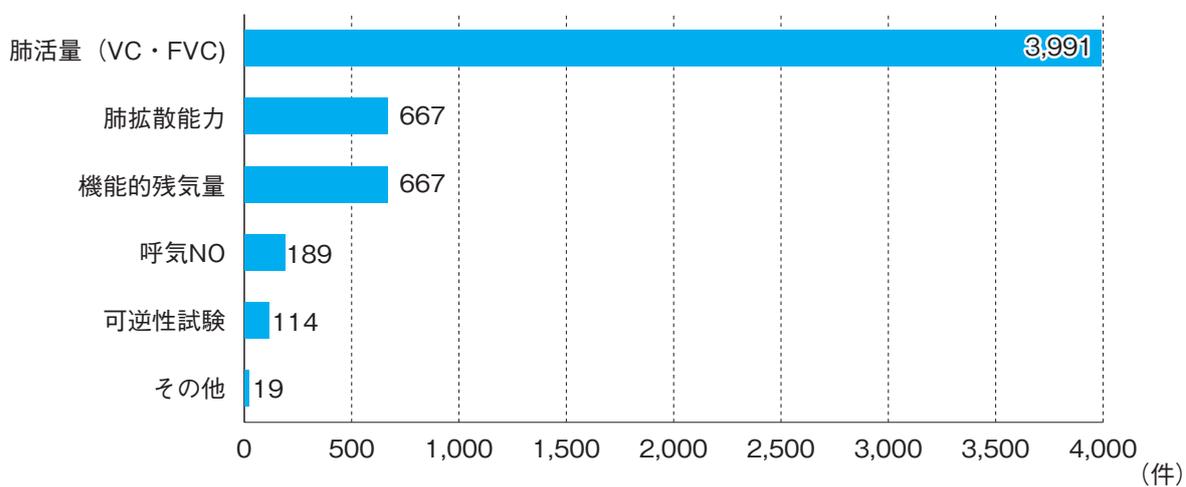
#### (ア)心電図検査実績



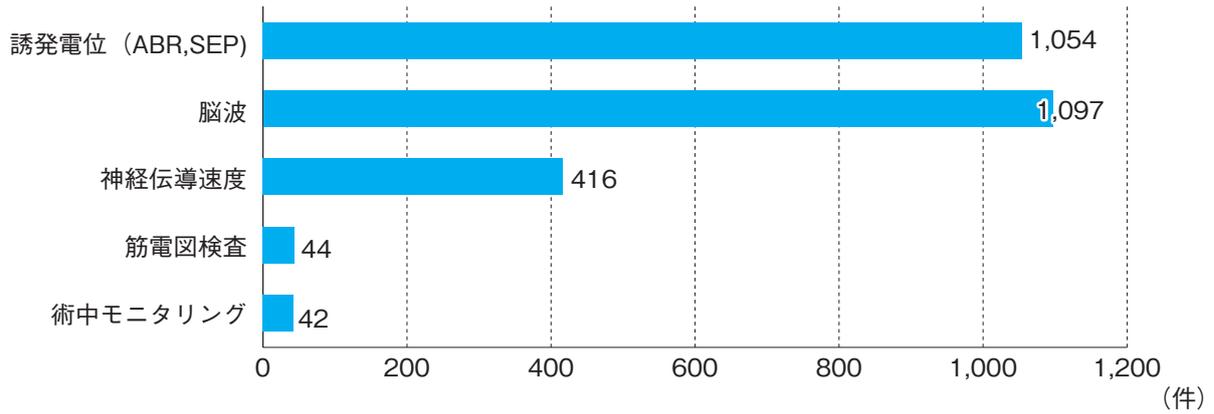
#### (イ)超音波検査実績



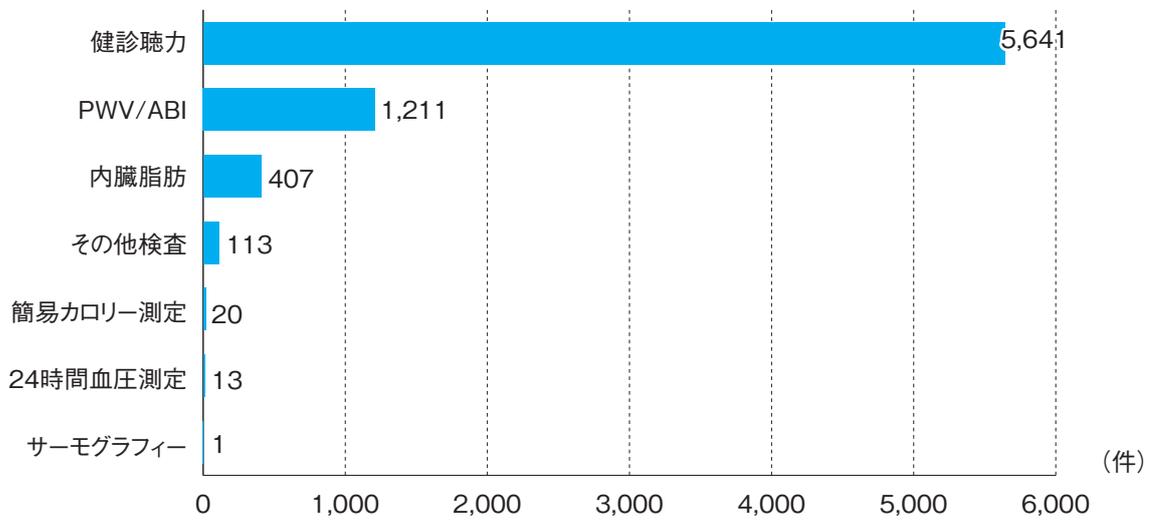
#### (ウ)肺機能検査実績



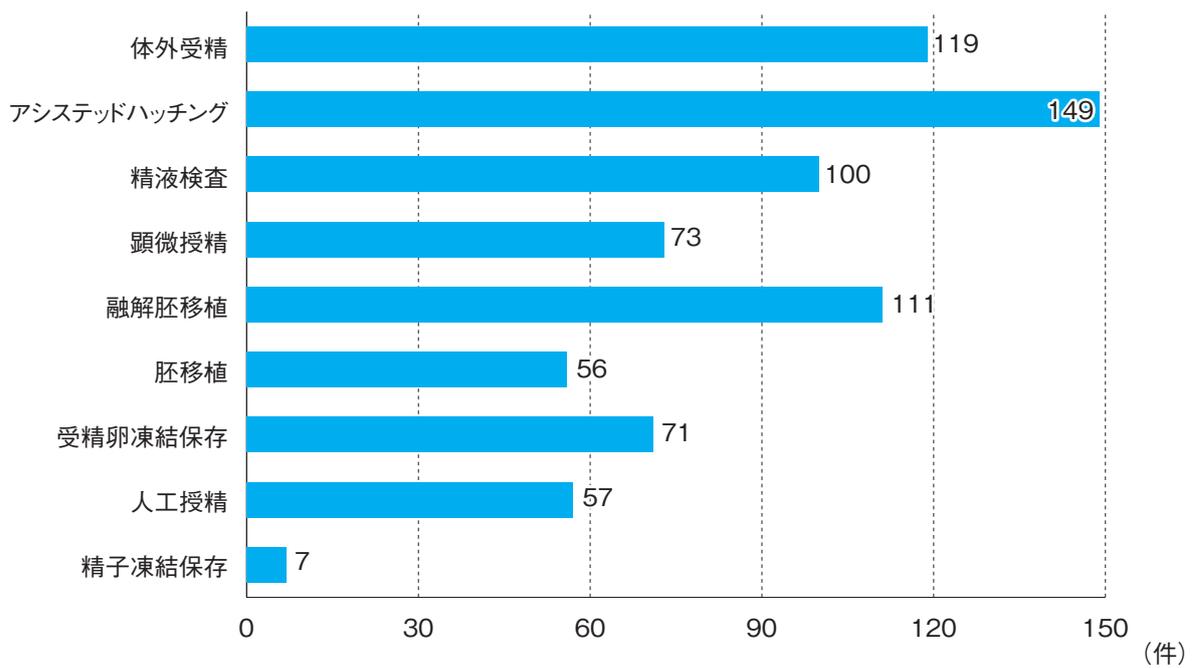
(エ)脳・神経検査実績



(オ)その他検査実績



②生殖医療関連検査実績



# リハビリテーション技術室

## 1. 概要

リハビリテーション技術室は理学療法部門、作業療法部門、言語療法部門より構成される。運動器・脳血管・呼吸・心大血管・がん患者を対象に総合的にリハビリテーションが実施できるよう施設基準を有している。2018年3月からはADL維持向上等体制加算を取得し、2020年3月から病棟を増やし東病棟5階と西病棟6階の2病棟で療法士による病棟専従化を行っている。早期リハビリテーションとして2019年5月からチームの一員として特定集中治療室での早期離床・リハビリテーション加算に関する業務の一端を担っている。さらに栄養、呼吸、褥瘡、認知症、排尿ケア、嚥下等のチーム医療にも積極的に参加している。

1987年より開始した地域病院間のリハビリテーション連絡会は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属する施設で構成され、各機能別施設における専門分野からの情報提供や症例検討を行っている。病診や病病連携一体のシステムは、29施設を数え、リハビリテーション分野からの市民サービスの充実に図っている。

2020年度は新型コロナウイルス感染症蔓延化の影響と産育休所得者増加による実職員減少影響を受け実施患者数は減少しているが、コロナウイルス陽性患者に対する理学療法を積極的に行っており、感染症対応病院におけるリハビリテーション機能を果たしている。

(室長 森嶋 直人)

## 2. 活動報告

### (1) 外来入院別単位数

延べ患者件数は117,289件、その内訳として理学療法72,526件、作業療法27,699件、言語療法17,064件であった。

(件)

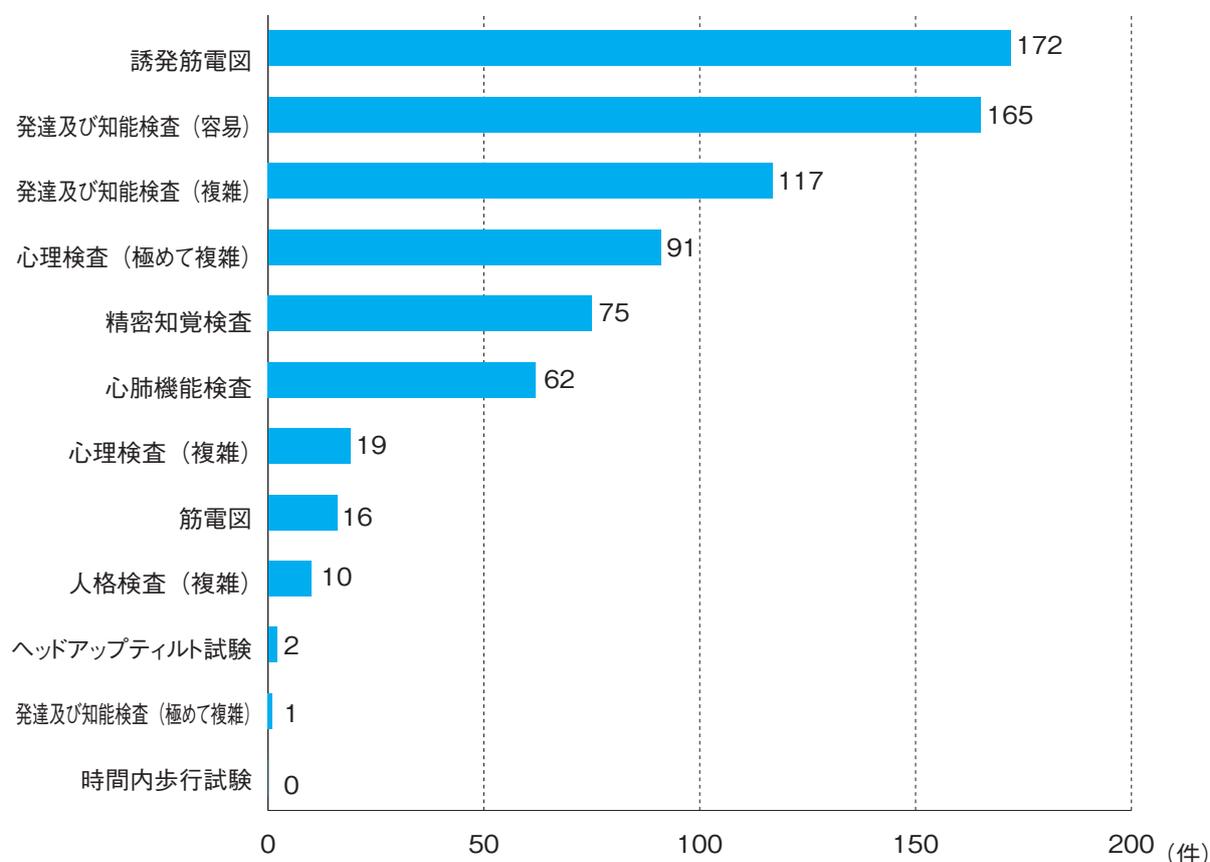
内 容	入外	令和2年度	令和元年度	平成30年度
理学療法	入院	67,635	72,703	72,822
	外来	4,891	7,158	5,685
作業療法	入院	25,690	25,956	29,424
	外来	2,009	3,407	3,364
言語療法	入院	15,464	17,145	17,578
	外来	1,600	2,660	3,419
合計	入院	108,789	11,5804	11,9824
	外来	8,500	13,225	12,468
計		117,289	129,029	132,292

## (2) 疾患別件数

大分類疾患		代表的小分類疾患	
①脳疾患	1,119件	ア)脳梗塞	520件
		イ)脳出血	187件
		ウ)くも膜下出血	77件
		エ)小脳出血・小脳梗塞	16件
		オ)頭部外傷	86件
		カ)パーキンソン病	3件
		キ)その他	230件
②脳性麻痺	11件		
③発達障害	134件		
④脊髄疾患	46件	ア)脊髄損傷	15件
		イ)脊髄症	31件
⑤神経疾患	256件	ア)顔面神経麻痺	75件
		イ)多発神経炎	31件
		ウ)変性疾患	79件
		ウ)その他	71件
⑥先天性異常	10件		
⑦骨疾患	541件	ア)上肢骨折	18件
		イ)下肢骨折	288件
		ウ)脊椎骨折	62件
		エ)脊椎症	58件
		オ)脊柱靭帯骨化	5件
		カ)無腐性壊死	8件
		キ)椎間板疾患	41件
		ク)その他	61件
⑧関節疾患	201件	ア)変形性関節症	113件
		イ)膝内障	43件
		ウ)肩関節疾患	3件
		エ)筋腱断裂	0件
		オ)その他	42件
⑨関節リウマチ	22件		
⑩切断	15件		
⑪手の外傷	72件		
⑫筋疾患	23件		
⑬循環器疾患	472件	ア)心筋梗塞	72件
		イ)心不全	292件
		ウ)狭心症	16件
		エ)その他循環器疾患	92件
⑭呼吸器疾患	754件	ア)肺炎	241件
		イ)誤嚥性肺炎	210件
		ウ)間質性肺炎	94件
		エ)COPD	36件
		オ)その他呼吸器疾患	173件

⑮腫瘍	987件	ア)頭頸部	48件
		イ)甲状腺	3件
		ウ)食道	28件
		エ)胃	43件
		オ)大腸	92件
		カ)肝臓	34件
		キ)胆道系	20件
		ク)膵臓	48件
		ケ)肺	222件
		コ)骨	11件
		サ)乳腺	37件
		シ)婦人科	28件
		ス)泌尿器	27件
		セ)脳腫瘍	85件
		ソ)小児腫瘍	0件
タ)造血器	227件		
チ)その他の腫瘍	34件		
⑯その他	1,104件	ア)廃用症候群・運動器不安定症	4件
		イ)その他	1,100件

### (3) リハビリテーションセンター内検査実施件数



## 臨床工学室

### 1. 概要

臨床工学室は病院理念と基本方針に基づき、市民の財産である院内の医療機器を安全且つ良好な状態で臨床提供を行い、公共性と経済性を考慮し効率的な運用を行っている。

生命維持管理装置を用いた手術、治療支援並びにそれに付帯する一切の医療安全業務に携ることが使命である。人員は正規職員21名、パート職員3名、事務職員1名で、医療機器安全管理グループ、血液浄化センターグループ、生命維持装置管理グループの3グループ体制としている。

医療機器管理グループでは、医療機器安全管理責任者の下に医療機器の保守管理計画、研修計画及び研修実施記録管理、更新・増設・廃棄業務支援を行っている。地域医療連携においては主治医を中心に、在宅で医療機器を使用する患者・家族への操作指導や退院後のフォローも行っている。多職種間の密な連携協力や計画的な研修・カンファレンスを行いながら、患者の安全・安心を第一に考えた医療技術の提供と診療支援に努めている。

血液浄化センターグループでは、一般的な血液透析から特殊血液浄化全般までを臨床工学技士と看護師で協働して対応している。基幹病院として、近隣病院より手術目的で紹介される患者の受け入れや、より重篤な透析患者の入院透析を中心に対応している。

生命維持管理装置といった高度医療機器の多くは手術センターで主に使用されている。そのため生命維持装置管理グループは、2017年から手術センターに常駐の臨床工学技士として配置し、医師のサポート、医療機器の適正使用に貢献している。

手術支援ロボット・ダヴィンチについては、2013年10月に泌尿器科領域から開始し、その後、外科、婦人科、呼吸器外科領域に適応が拡大された。2019年4月からは手術支援ロボット・ダヴィンチ専用の手術室が増設、2020年からは手術支援ロボット・ダヴィンチの2台体制となり、コロナ禍の影響もあったが臨床工学技士の年間立ち合い件数は、2019年度の268件から2020年度280件と増加し、先進医療に貢献している。

(室長 山口 育男)

(文責 室長補佐 後藤 成利)

#### 「在籍技士が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
臨床ME専門認定士	日本生体医工学会	透析技術認定士	日本透析医学会 4学会透析療法合同専門 委員会認定資格
体外循環技術認定士	日本人工臓器学会 日本体外循環医学会 日本心臓血管外科学会他	呼吸療法認定士	日本呼吸器学会 日本麻酔科学会 日本胸部外科学会
第1種ME技術者	日本生体医工学会	特定高圧ガス取扱主任者	高圧ガス保安協会
第2種ME技術者	日本生体医工学会	第一種衛生管理者免許	厚生労働大臣指定安全 衛生技術試験協会
院内移植コーディネータ	愛知県 愛知腎臓財団	医療安全認定コーチ： MCCS	国際医療リスクマネー ジメント学会
認定集中治療関連 臨床工学技士	日本臨床工学技士会	認定血液浄化 臨床工学技士	日本臨床工学技士会
埋め込み型心臓デバイス 技士	日本不整脈心電学会		

## 2. 活動報告

### (1) 治療手術業務件数 緊急血液浄化・血液成分分離・末梢血幹細胞採数

※HD、HDF、HF、ECUM、PEは血液浄化センターでの施行症例を除く

(件または回)

区分 内訳	令和2年度	令和元年度	平成30年度
血液浄化療法			
症例件数合計	57	96	88
血液浄化回数合計	367	242	219
HD件数	4	62	51
HD回数	194	155	85
HDF件数	2	7	1
HDF回数	2	9	3
HF件数	0	0	0
HF回数	0	0	0
ECUM件数	20	7	11
ECUM回数	33	13	23
CHD件数	0	0	0
CHD回数	0	0	0
小児CHD件数	0	0	0
小児CHD回数	0	0	0
CHDF件数	15	12	10
CHDF回数	55	43	17
CHF件数	0	1	1
CHF回数	0	1	1
PE件数	14	4	3
PE回数	79	12	11
小児PE件数	1	3	0
小児PE回数	3	9	3
CPE件数	0	0	0
CPE回数	0	0	0
DFPP件数	4	1	4
DFPP回数	31	3	22
免疫吸着件数	3	0	0
免疫吸着回数	16	0	0
LDL吸着件数	0	1	0
LDL吸着回数	0	5	0
薬物吸着件数	1	0	0
薬物吸着回数	1	0	0
ET吸着件数	0	0	0

ET吸着回数	0	0	0
L-CAP件数	1	5	3
L-CAP回数	6	36	23
G-CAP件数	1	2	4
G-CAP回数	10	13	31
末梢血幹細胞採取・骨髄移植関連			
症例件数合計	18	18	15
施行回数合計	22	26	20
PBSC成人件数	12	13	12
PBSC成人回数	15	19	16
PBSC小児件数	0	1	1
PBSC小児回数	0	2	1
健常人 ドナーPBSC件数	2	1	1
健常人 ドナーPBSC回数	3	2	2
健常人 ドナーリンパ球採取件数	2	1	0
健常人 ドナーリンパ球採取回数	2	1	0
骨髄濃縮件数	2	2	2
骨髄濃縮回数	2	2	2
顆粒球採取件数	0	0	0
顆粒球採取回数	0	0	0
白血球採取件数	0	0	0
白血球採取回数	0	0	0
その他			
腹水濾過濃縮再静注業務症例数	28	29	20
腹水濾過濃縮再静注業務回数	67	95	53

## (2) 人工心肺、補助循環、手術支援業務件数

(件)

区分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
人工心肺装置業務(開心術)			
成人人工心肺症例数	28	32	27
Off Pump CABG 手術立会い症例数	2	1	1
小児人工心肺症例数	0	0	0
計	30	33	28
補助人工心肺装置管理業務			
PCPS症例数	16	8	6
ECMO症例数	0	0	0
計	16	8	6
手術支援業務			
自己血回収装置操作			
心臓血管外科	4	5	8
整形外科	8	4	8
計	12	9	16
Navigation手術支援			
脳神経外科	86	77	76
耳鼻いんこう科	13	8	9
計	99	85	85
daVinci手術支援			
泌尿器科daVinci症例数 (前立腺全摘除)	62	62	61
泌尿器科daVinci症例数 (腎部分切除)	17	22	8
泌尿器科daVinci症例数 (膀胱全摘除)	1	11	7
婦人科daVinci症例数 (子宮全摘出)	145	136	64
婦人科daVinci症例数 (仙骨膿固定術)	23	-	-
外科daVinci症例数 (胃切除)	12	16	19
外科daVinci症例数 (大腸切除)	10	19	16
呼吸器外科daVinci症例数 (肺切除)	9	2	-
呼吸器外科daVinci症例数 (縦隔腫瘍切除)	2	-	-
計	281	268	175

内視鏡手術等支援				
婦人科	246	265	538	
呼吸器外科	154	157		
一般外科	499	447		
泌尿器科	90	106		
小児外科	48	27		-
整形外科	59	49		-
脳神経外科	6			
計	1102	1051	538	
眼科手術補助(装置セッティング)				
白内障手術装置(インフィニティ)	317	579	622	
硝子体手術装置(コンステレーション)	83	180		
計	400	759	622	
臓器移植支援				
生体腎移植術腎還流	6	4	4	
献腎移植術腎還流	2	1	2	
計	8	5	6	
ステントグラフト挿入術支援				
心臓血管外科 EVER	15	14	-	
計	15	14	-	

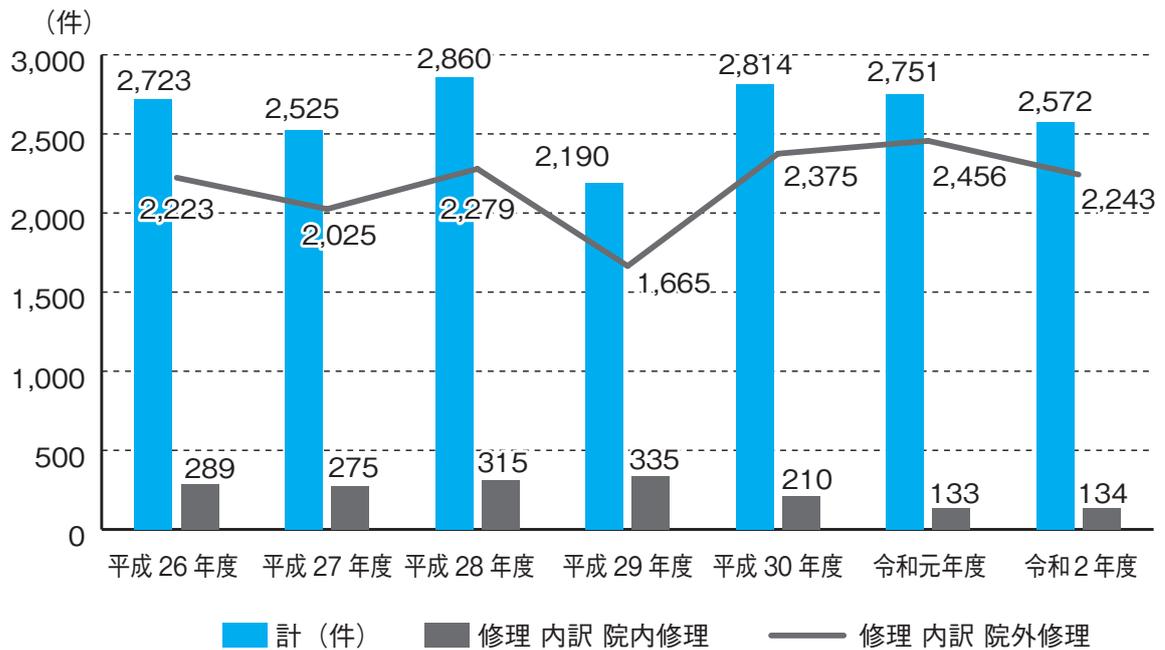
### (3) 医療機器管理、修理件数

(件)

区分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
循環器device対応支援			
PM・CRT・ICD 新規植込 立会い	26	39	23
PM・CRT・ICD 電池交換 立会い	10	12	8
PM・CRT・ICD リード交換等 立会い	0	0	0
PM・CRT・ICD 設定術中/CT/MRI対応	93	102	63
ICM 新規植込 立会い	4	5	5
PM・CRT・ICD・ICM遠隔モニタリング件数	149	124	63
計	282	282	162
呼吸療法関連業務			
成人用 人工呼吸器回路組立件数	701	453	518
新生児用 人工呼吸器回路組立件数	233	295	321
計	934	748	839
NOガス使用症例数	6	11	7
N2ガス 使用症例数	0	0	0
計	6	11	7

#### (4) 医療機器修理件数

##### ①年度別修理件数



##### ②修理処理件数内訳

(件)

部署名	修理件数	修理内訳				
		院内修理	院外修理	修理分類別		
				新品交換	異常なし	修理不能
内科外来 (総合・消化器・循環器・呼吸器・アレルギー・血液・腫瘍・腎臓)	48	2	37	8	1	0
糖尿病・内分泌内科	3	0	3	0	0	0
小児科外来	4	0	4	0	0	0
外科外来 (一般・小児・肛門・移植・呼吸器・心臓・血管・麻酔)	0	0	0	0	0	0
形成外科	1	0	1	2	0	0
整形外科	9	0	7	0	0	0
皮膚科	27	0	23	4	0	0
泌尿器科	16	0	16	0	0	0
産婦人科	18	0	18	0	0	0
耳鼻いんこう科	24	0	24	0	0	0
眼科外来	20	1	19	0	0	0
脳神経外科・脳神経内科外来	3	0	3	0	0	0
歯科口腔外科外来	7	0	7	0	0	0
病理診断科	1	0	1	0	0	0
放射線科	1	0	0	1	0	0
外来治療センター	12	4	8	0	0	0

予防医療センター	4	0	4	0	0	0
入退院支援センター	1	0	1	0	0	0
感染症管理センター	0	0	0	0	0	0
総合案内	25	1	14	10	0	0
総合生殖	0	0	0	0	0	0
東2	43	2	33	8	0	0
西2	69	5	60	4	0	0
東3	82	8	60	14	0	0
西3	71	3	59	9	0	0
総合周産期病棟	73	11	49	11	2	0
東5	66	5	55	6	0	0
西5	54	3	43	8	0	0
東6	45	2	36	7	0	0
西6	49	3	38	6	2	0
東7	48	2	42	4	0	0
西7	70	4	58	8	0	0
東8	63	2	52	9	0	0
西8	46	4	31	10	1	0
東9	37	0	33	3	1	0
西9	42	3	31	7	1	0
南病棟	48	45	2	0	1	0
放射線技術室	311	0	303	6	2	0
放射線治療室	0	0	0	0	0	0
画像検査(看護局)	56	0	55	1	0	0
中央臨床検査室	58	0	58	0	0	0
薬局	21	0	21	0	0	0
臨床工学室(ME)	129	1	123	3	0	2
血液浄化センター	19	1	18	0	0	0
新生児医療センター(NMC)	88	10	70	7	1	0
救命救急センター	55	5	41	9	0	0
中央滅菌材料室	84	0	83	1	0	0
リハビリテーションセンター	20	1	19	0	0	0
栄養管理室	3	0	3	0	0	0
医局	0	0	0	0	0	0
看護局	1	0	0	1	0	0
管理課(庶務担当)	7	0	7	0	0	0
医事課	4	1	2	1	0	0
医療情報課	6	1	3	2	0	0
物品事務室	0	0	0	0	0	0
手術センター	622	5	605	11	1	0
医療安全	0	0	0	0	0	0
計	2,614	135	2,283	181	13	2

### (5) 臨床工学室が管理する医療機器台数

\* 各科で購入されているが、保守点検を臨床工学室が行っている機器を含む

(台)

管理機器名称	管理台数
人工心肺装置	1
人工心肺用遠心ポンプコントローラー	1
心筋保護液供給装置	1
人工心肺用ヒータークーラーユニット	2
自己血回収装置	2
遠心ポンプ式補助循環装置(PCPS)	2
IABP	3
成人・小児用人工呼吸器	23
新生児用人工呼吸器	13
在宅用 人工呼吸器(リース機含む)	60
成人用NIPPV	7
小児・新生児用NIPPV	10
可搬型人工呼吸器(パラパック)	2
パーカッションベンチレーター	2
MRI対応型人工呼吸器	1
多人数用血液透析患者監視装置	17
手術ナビゲーションシステム	3
個人用血液透析患者監視装置	4
個人用RO装置	3
持続的血液ろ過透析装置	2
血漿交換装置	1
腹水濾過濃縮装置	1
除細動装置	17
AED	25
AED解析装置	1
閉鎖式保育器(多機能型4台含む)	15
開放式保育器(インファントウォーマー)	12
搬送用保育器	4
輸液ポンプ	320
輸注ポンプ	324
経腸ポンプ	29
医薬品注入コントローラー(ドリップアイ)	15
PCAポンプ	9
6連式シリンジポンプユニット	3
セントラルモニター	28
ベッドサイドモニター	164
無線式送信機台数	172
携帯型受信機	14
心電計	29
血液成分分離装置	1

全身麻酔器	17
低圧持続吸引器	31
連続心拍出力計	16
体外式ペースメーカー(DDD式を含む)	10
ネブライザーヒーター	60
手術支援ロボットシステム(ダヴィンチX, Xi)	2
計	1,479

## (6) 人工呼吸器稼働台数および平均装着日数

### 診療科別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
外科	74	413	5.6
脳神経外科	113	536	4.7
心臓血管外科	37	79	2.1
呼吸器外科	3	10	3.3
循環器内科	58	274	4.7
呼吸器内科	30	218	7.3
消化器内科	28	581	20.8
脳神経内科	34	372	10.9
血液内科	3	5	1.7
腎臓内科	9	52	5.8
糖尿病・内分泌科	3	14	4.7
整形外科	28	295	10.5
リウマチ科	0	0	0.0
泌尿器科	9	39	4.3
産婦人科	7	13	1.9
形成外科	0	0	0.0
皮膚科	1	3	3.0
耳鼻いんこう科	23	113	4.9
歯科口腔外科	4	14	3.5
小児科	74	892	12.1
移植外科	0	0	0.0
総合内科	0	0	0.0
救急科	20	20	1.0
計	558	3,943	7.1
前年度	326	3,040	9.3

※転科を含む

### 病棟別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
南1	2	18	9.0
南2	0	0	0.0
西2	25	242	9.7
東2	75	917	12.2
西3/ICU	400	1,654	4.1
東3	9	21	2.3
西4	0	0	0.0
東4	0	0	0.0
西5	10	158	15.8
東5	10	113	11.3
西6	14	369	26.4
東6	8	159	19.9
西7	9	70	7.8
東7	3	5	1.7
西8	3	25	0.0
東8	10	178	17.8
西9	1	2	2.0
東9	4	72	0.0
救急外来	20	20	0.0
計	603	4,023	6.7
前年度	359	3,078	8.6

※西病棟3階から病棟転症された症例を含む

※在宅人工呼吸療法中で入院した症例も含む

(7) 人工呼吸器稼働台数および平均装着日数（マスクを除く）

病棟別 人工呼吸器稼働（日常点検）台数の報告

病棟	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間365日計算	
	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数	延べ稼働台数	症例数
南1	0	0.0	0	0.0	16	0.5	2	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18	0.6
南2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西2	24	0.8	0	0.0	39	1.3	9	0.3	15	0.5	19	0.6	25	0.8	62	2.1	49	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	242	8.0
東2	87	2.9	118	3.8	126	4.2	124	4.0	97	3.1	69	2.3	67	2.2	40	1.3	76	2.5	51	1.6	28	1.0	34	1.1	917	30.0
ICU	100	3.3	93	3.0	170	5.7	120	3.9	114	3.7	157	5.2	188	6.1	126	4.2	207	6.7	156	5.0	120	4.3	103	3.3	1654	54.4
東3	0	0.0	0	0.0	1	0.0	1	0.0	4	0.1	2	0.1	2	0.1	1	0.0	6	0.2	4	0.1	0	0.0	0	0.0	21	0.6
西4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
東4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西5	30	1.0	18	0.6	0	0.0	0	0.0	15	0.5	15	0.5	54	1.7	26	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	158	5.2
東5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	18	0.6	21	0.7	0	0.0	7	0.2	55	2.0	11	0.4	113	3.9
西6	30	1.0	31	1.0	30	1.0	31	1.0	31	1.0	30	1.0	33	1.1	30	1.0	31	1.0	31	1.0	30	1.1	31	1.0	369	12.2
東6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	15	0.5	31	1.0	30	1.0	33	1.1	31	1.0	19	0.7	0	0.0	159	5.3
西7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	0.3	0	0.0	21	0.7	0	0.0	9	0.3	30	1.0	2	0.1	0	0.0	0	0.0	70	2.4
東7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.1	0	0.0	1	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.1
西8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	15	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	0.2	3	0.1	0	0.0	0	0.0	25	0.8
東8	1	0.0	5	0.2	2	0.1	0	0.0	0	0.0	4	0.1	17	0.5	30	1.0	31	1.0	31	1.0	28	1.0	29	0.9	178	5.8
西9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1
東9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	0.3	5	0.2	28	1.0	31	1.0	72	2.5
救急外来	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	2	0.1	2	0.1	2	0.1	6	0.2	4	0.1	2	0.1	20	0.8
合計/平均稼働台数	272	9.0	265	8.6	384	12.8	296	9.6	291	9.4	337	11.2	437	14.2	378	12.6	482	15.8	328	10.5	312	11.2	241	7.8	4023	132.7

マスク式人工呼吸器 症例数/延べ使用日数	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		成人 小児 比較 日数(日)
	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	延べ	延べ	
総数	25	204	13	119	19	82	5	10	11	50	14	38	15	105	15	49	21	113	23	75	18	38	26	88	205	971	
(内訳)成人	22	165	12	99	14	55	4	8	9	30	10	21	10	56	12	38	18	99	21	67	15	29	22	63	169	730	4.3
(内訳)小児	3	39	1	20	5	27	1	2	2	20	4	17	5	49	3	11	3	14	2	8	3	9	4	25	36	241	6.7
一日平均装着日数(日)	8.2		9.2		4.3		2.0		4.5		2.7		7.0		3.3		5.4		3.3		2.1		3.4		4.7		

## 栄養管理室

### 1. 概要

栄養管理室では、患者の病状や状態、年齢などに合わせた常食、やわらか食、糖尿食など40分類の食種を用意しており、食事の味や内容について、医師と管理栄養士が検食で確認して改善に努めている。また、選択メニューなど喜んで食べていただける食事や、食事療法を行うための食事を提供することでQOLの向上に努めている。家庭においても栄養管理や食事療法が行えるよう、栄養指導や糖尿病教室などを通して患者の支援をしている。

入退院支援センターに2020年4月から管理栄養士を1名配置し、入院前に栄養状態などの確認を行い、医師へ適切な食事を提案することで入院時から患者の病状に応じた食事の提供や栄養指導ができるようにした。

入院患者の栄養状態について看護師とともにスクリーニングを行い、栄養管理計画書を作成し、医師が確認している。また、栄養サポートチーム（NST）の専従者を1名配置しており、栄養状態の悪い患者にNST回診を行い、複数の医療職種で患者の栄養状態の把握や栄養状態改善の提案を行うことで治療に貢献している。他にも褥瘡対策チーム、呼吸療法ケアチームなど、チーム医療の一員としても活動している。

（室長 山口 育男）

（文責 室長補佐 藤田 克宣）

#### 「取得している認定資格等」

資格	認定団体
栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会

## 2. 活動報告

### (1) 実績

区分		令和2年度	令和元年度	平成30年度	
食種及び食数	一般食	363,901	418,096	405,065	
	特別食	加算食	133,016	133,603	124,933
		非加算食	3,889	4,507	4,713
		小計(食)	136,905	138,110	129,646
	合計(食)	500,806	556,206	534,711	

選択メニュー	実施日数(日)		365	366	365
	実施食種	一般食	常食	51,246	63,255
軟菜食			19,626	23,909	23,305
小計(人)			70,872	87,164	86,741
治療食		糖尿食	13,975	14,396	13,873
		心臓食	7,092	5,363	4,831
		肝臓食	367	464	330
		すい臓B食	1,328	1,298	1,197
		小計(人)	22,762	21,521	20,231
		合計(人)	93,634	108,685	106,972

栄養食事指導	外来患者栄養食事指導	1,280	857	1,060
	糖尿病透析予防管理	141	126	79
	入院患者栄養食事指導	2,376	1,544	1,618
	乳児栄養食事指導			21
	小計(件)	3,797	2,527	2,778
	糖尿病教室	117	137	110
	合計(件)	3,914	2,664	2,888

※乳児栄養相談（加算無し）は、令和元年度から必要な場合は栄養指導として実施（加算有り）。

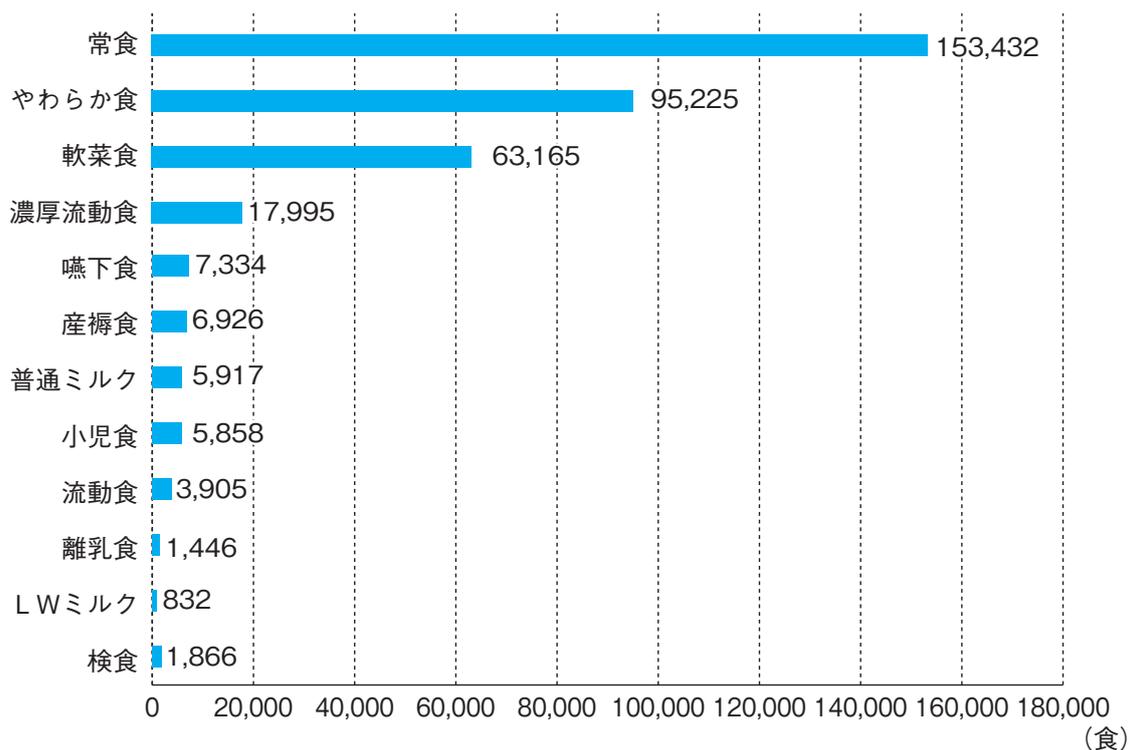
NST業務	栄養管理計画書(件)	22,561	24,038	22,722
	栄養サポートチーム加算(件)	1,046	992	814

NST定期教育講演会	実施回数(回)	0	7	7
	参加者(人)	0	441	405

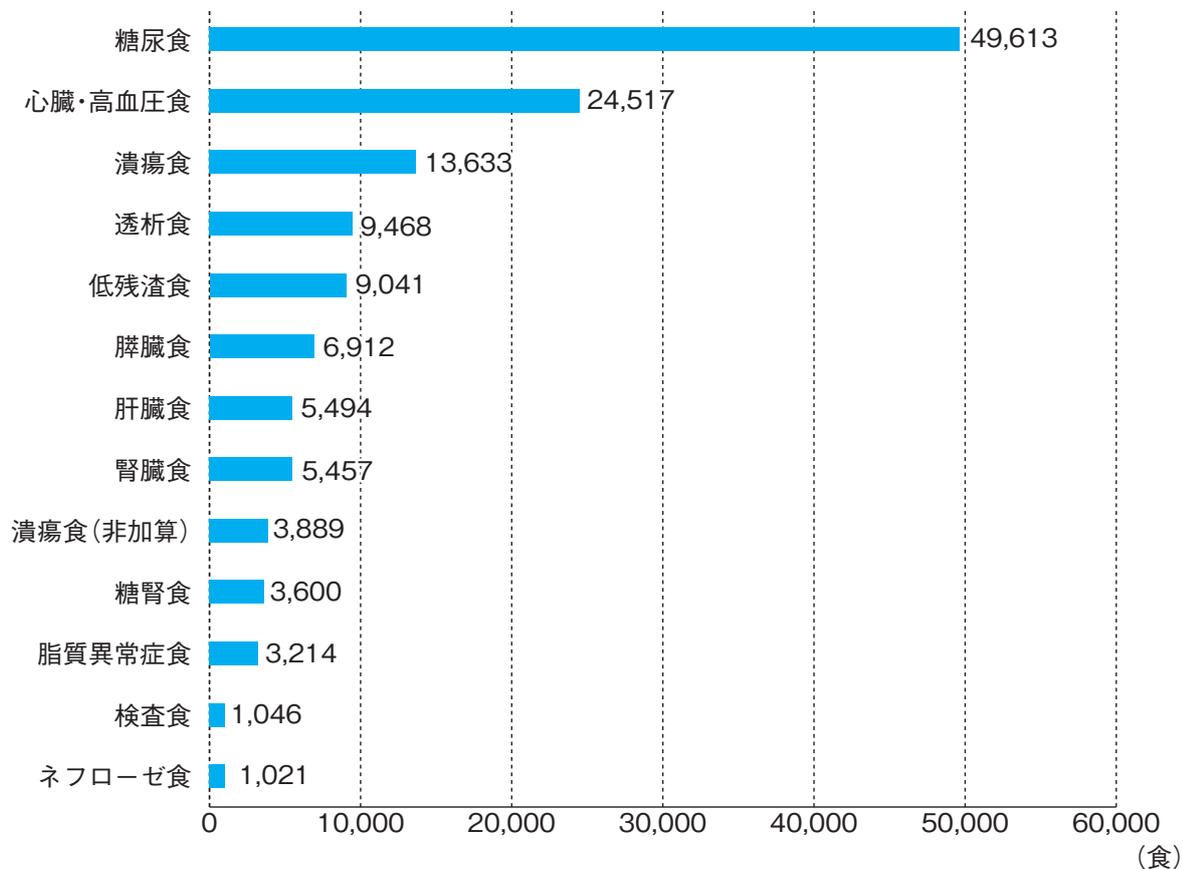
NST教育カリキュラム	実施回数(回)	0	1	1	
	受講者(人)	院外	0	3	6
		院内	0	4	1

## (2) 食種詳細

### ①一般食 363,901食



### ②特別食 136,905食



# 薬局

## 1. 概要

薬局は薬の専門家として薬物治療および医療安全に貢献することを目標に各部局と連携し業務を行っている。セントラル業務として調剤・麻薬、注射、管理、製剤・注射調製、医薬品情報の5グループからなる基本組織と治験管理センターを設けている。

病棟では、薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務を行い、服薬指導や副作用発現のチェック、他の医療職への情報提供などを実施し、薬物療法における有効性・安全性の向上に貢献している。手術室サテライト薬局では麻薬、筋弛緩薬などの薬品供給・管理を、外来治療センターではがん患者の薬剤指導や副作用管理を常駐して実施している。今年度より乳がんの外来内服治療患者に対し、薬剤師外来として診察前面談を開始した。

また、薬剤師の専門資格の取得を積極的に奨励し、がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、栄養サポートチーム専門療法士、日本糖尿病療養指導士、スポーツファーマシスト等の資格を取得しチーム医療に寄与している。

(局長 柳沼 妙子)

## 2. 活動報告

### (1) 患者数及び処方箋枚数

区分		年度		1日平均		1日平均		1日平均		1日平均	
		令和2年度(対前年度)		令和元年度(対前年度)		平成30年度(対前年度)		令和元年度(対前年度)		令和2年度(対前年度)	
外 来	患者数(人)	441,527	91.9%	1,817	480,575	101.8%	2,002	471,981	100.1%	1,891	
	院	処方箋枚数(枚)	45,077	91.0%	186	49,511	105.2%	206	47,053	98.2%	181
		平均投薬日数(日)	15.7	99.4%	/	15.8	102.6%	/	15.4	102.7%	/
	内	注射処方箋枚数(枚)	20,997	99.3%	86	21,148	108.8%	88	19,438	101.7%	62
		院	処方箋枚数(枚)	145,355	91.5%	598	158,918	98.8%	662	160,846	100.4%
	外	平均投薬日数(日)	33.3	98.2%	/	33.9	100.6%	/	33.7	99.3%	/
入 院	患者数(人)	231,804	89.3%	635	259,438	103.1%	709	251,669	100.1%	691	
	処方箋枚数(枚)	105,136	90.9%	288	115,659	100.5%	316	115,096	103.3%	313	
	平均投薬日数(日)	6.5	91.5%	/	7.1	104.4%	/	6.8	108.2%	/	
	注射処方箋枚数(枚)	122,849	92.4%	337	132,946	104.9%	363	126,772	101.1%	343	
備 考		外来日数243日 入院日数365日		外来日数240日 入院日数366日		外来日数244日 入院日数365日					

### (2) 薬剤管理指導実績

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
薬剤管理指導件数(件)	22,004	21,242	21,987
麻薬加算件数(件)	526	347	345

### (3) 無菌製剤処理料実績

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
無菌製剤処理料件数(件)	15,457	15,881	14,318

### (4) 外来及び入院の科別処方箋枚数

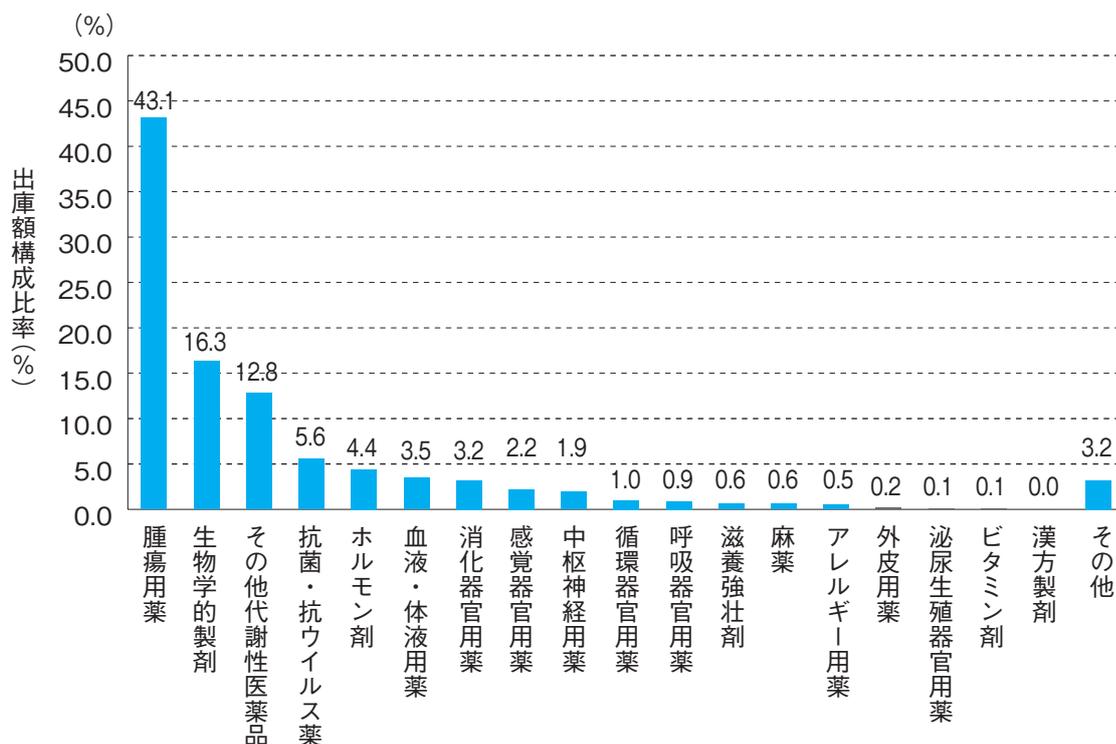
科名	外来			入院	
	処方箋枚数(枚)		全処方箋枚数に対する科別比率(%)	処方箋枚数(枚)	全処方箋枚数に対する科別比率(%)
	院内	院外			
総合内科	462	1,247	0.9	853	0.8
一般外科	4,219	7,281	6.0	9,403	8.9
整形外科	1,497	5,400	3.6	8,340	7.9
脳神経外科	342	3,335	1.9	7,060	6.7
産婦人科	1,962	7,011	4.7	7,811	7.4
小児科	2,277	9,627	6.3	4,218	4.0
耳鼻いんこう科	1,061	7,465	4.5	5,145	4.9
皮膚科	2,695	14,063	8.8	1,965	1.9
泌尿器科	1,252	8,032	4.9	4,804	4.6
眼科	847	7,119	4.2	491	0.5
放射線科	61	490	0.3	1	0.0
こころのケア科	1,008	3	0.5	0	0.0
形成外科	42	173	0.1	2	0.0
歯科口腔外科	439	4,238	2.5	1,332	1.3
リハビリテーション科	6	9	0.0	0	0.0
麻酔科	22	0	0.0	0	0.0
救急科	8,081	24	4.3	-	-
呼吸器内科	1,171	10,674	6.2	14,177	13.5
消化器内科	5,247	14,950	10.6	9,911	9.4
循環器内科	1,663	10,155	6.2	5,487	5.2
アレルギー内科*	0	0	0.0	-	-
腎臓内科	908	4,478	2.8	2,740	2.6
糖尿病・内分泌内科	3,455	10,860	7.5	2,367	2.3
脳神経内科	543	5,986	3.4	5,863	5.6
血液・腫瘍内科	3,852	4,826	4.6	10,596	10.1
小児外科	13	249	0.1	33	0.0
移植外科	50	658	0.4	332	0.3
リウマチ科	1,536	5,449	3.7	254	0.2
脊椎外科	0	0	0.0	0	0.0
呼吸器外科	235	443	0.4	811	0.8
心臓血管外科	131	1,110	0.7	1,140	1.1
合計	45,077	145,355	100.0	105,136	100
	190,432				

※処方箋枚数：外来の肛門科は一般外科、臨床検査科は総合内科、心臓血管・呼吸器外科は呼吸器外科に含む。入院の膠原病内科は糖尿病・内分泌内科に含む。

(5) 抗がん薬及びTPN調製本数

	区 分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
抗がん薬(本)	入 院	6,798	7,146	7,142
	外 来	17,467	17,276	14,708
TPN(本)	入 院	1,189	1,137	657

(6) 薬効別出庫薬品



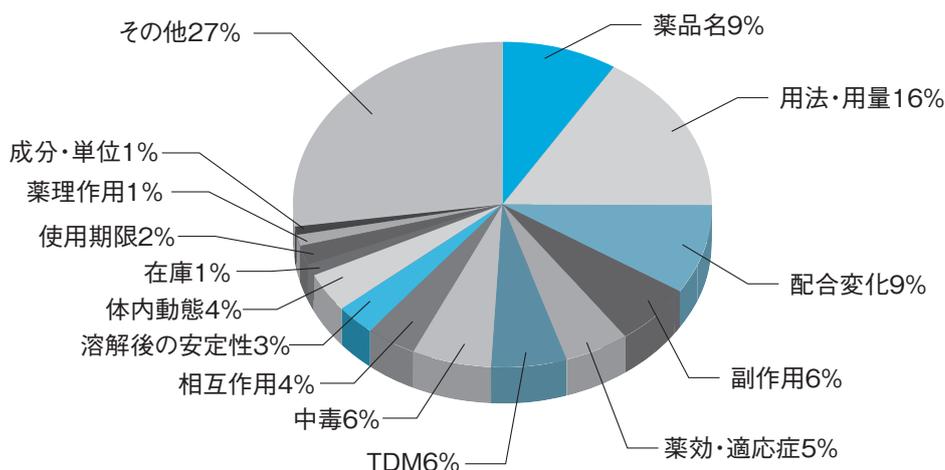
## (7) 院内特殊製剤（一部抜粋）

剤形	製剤名(出庫単位)	適応症等	主な使用科	払出し量
坐剤・ 腔坐剤	チラージンS坐薬50 $\mu$ g	甲状腺機能低下症(内服不可能時)	糖尿病・内分泌内科等	178本
	リファンピシン坐薬450mg	結核治療薬(イレウス等で内服困難時)	呼吸器内科	29本
注射剤	0.606%グルタルアルデヒド液(52mL)	胸部外科手術による心膜固定	心臓血管外科	12本
	シリコンオイル眼注(10mL)	増殖硝子体網膜症の硝子体手術における眼内充填物	眼科	28本
	10%フェノールグリセリン注射液(2mL)	難治性の会陰部痛, 腰部の痛み	一般外科	1本
	滅菌墨汁(5mL)	内視鏡的點墨法	消化器内科	161本
	2%滅菌パテントブルー注(5mL)	悪性リンパ腫のリンパ管染色	皮膚科	6本
	眼科用マイトマイシン液(5mL)	繊維柱帯切除術(トラベクレクトミー)、小シャーレ中でMQAを細かく切ってMMC液に浸し、これを強膜弁下に正確に3分間留置	眼科	20本
点眼剤	0.5%デノシン点眼液(5mL)	サイトメガロウイルス角膜内皮炎	眼科	4本
	バンコマイシン点眼液(5mL)	MRSA陽性患者への眼科感染症	眼科	37本
	0.125%ピロカルピン液(4mL)	瞳孔緊張症	眼科	6本
	1%ブイフェンド点眼液(5mL)	角膜真菌症	眼科	1本
	0.5%硫酸アトロピン点眼液(5mL)	診断または治療を目的とする散瞳と調節麻痺	眼科	23本
	0.25mg/mLブリリアントブルーG点眼液(5mL)	黄斑円孔、黄斑前膜等に対するガラス体手術での内鏡膜剥離時の染色	眼科	82本
	2.5%滅菌フルオレセインNa液(20mL)	眼圧検査・検査時にベノキシール点眼液に調製後1回1~2滴点眼する	眼科	13本
	1%ローズベンガル点眼液(5mL)	シェーグレン症候群の診断、角膜上皮欠損部の確認	眼科	17本
内用剤	セレン内服液(10 $\mu$ g/mL)	セレン欠乏症	小児科	13,400mL

外用剤	SAD液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	4,000mL	
	0.05%キシロカインB液	鼻の中の吸引をする際、器具挿入の痛みを止める	耳鼻いんこう科	3,400mL	
	鼓膜麻酔薬	鼓膜麻酔	耳鼻いんこう科	35mL	
	1.5%酢酸液	内視鏡観察時胃内散布（腫瘍との境界を明確にするため）	消化器内科	900mL	
	3%酢酸液	コルポスコピー下で行う子宮頸部の組織検査（癌検査用）	産婦人科	6,700mL	
	耳水	耳垢栓塞の軟化・1日1～2回点耳	耳鼻いんこう科	130mL	
	80%トリクロロ酢酸	焼灼作用によるアレルギー性鼻炎 滅菌綿棒にて鼻腔内下鼻用介に塗布	耳鼻いんこう科	80mL	
	2%滅菌硝酸銀	粘膜の殺菌or収れん	小児科	275mL	
	10%滅菌硝酸銀	鼻出血症・口内炎への塗布	耳鼻いんこう科	90mL	
	2%滅菌HPC液	肉芽組織の清浄化と形成促進剤	血液・腫瘍内科等	5,000mL	
	1%滅菌トリジンブルー液	内視鏡下の食道がんの精査 1回2～3mL使用する。(色素散布法)	消化器内科	70mL	
	0.02%滅菌ボスミン液	外傷・鼻・抜歯後など局所出血	耳鼻いんこう科	44,600mL	
	1%滅菌ピオクタニン青液	消毒・手術野の線引き	手術室、その他	1,100mL	
	軟膏剤	0.05%滅菌ヒビテングルコネート液	皮膚の創傷部位の消毒、手術室の消毒	眼科	4,100mL
		0.05%滅菌ヒビテングルコネート青液	手術部位の消毒	手術室のみ	24,600mL
1%ヨウ素ヨウ化カリウム液		カメラ室における検査薬	消化器内科	8,600mL	
	40%尿素軟膏	爪白癬の角質除去	形成外科	120g	
	5%ヒドロキノン軟膏	メラニン色素の破壊・生成抑制	形成外科等	1,880g	
	Mohs氏ペースト	Mohs surgeryにおける組織の固定	一般外科等	800g	

(8) 医薬品情報室への問い合わせ状況

総件数：794件



(9) 医薬品情報提供

医薬品集	1回
Drug Information News	12回
薬局ニュース	12回
緊急安全性情報・安全性速報	0件
適応症に関する情報	54件
使用上の注意に関する情報	37件
用法・用量に関する情報	11件
安全性情報	29件
薬物血中濃度解析	38件

(10) 持参薬鑑別

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
薬剤鑑別件数(件)	12,447	13,552	13,240

(11) 治験実施数 (令和2年度)

治験/製造販売後	相	件数	予定症例数	実施症例数
治験	ph I / II	2	4	4
	ph II	4	11	8
	ph II / III	2	8	6
	ph III	20	55	31
	ピボタル	1	4	1
	—	1	1	0

(12) 副作用報告

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
厚生労働省報告件数	9	10	18
プレアボイド報告件数	767	829	228

## (13) 年間麻薬使用量

薬品名	令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	院内	院外	院内	院外	院内	院外
オピスコ注(本)	0	-	2	-	8	-
ペチジン塩酸塩注(本)	0	-	3	-	0	-
モルヒネ塩酸塩注10mg(本)	1,404	-	1,348	-	2,011	-
モルヒネ塩酸塩注50mg(本)	196	-	301	-	421	-
モルヒネ塩酸塩注200mg(本)	114	-	65	-	241	-
フェンタニル注0.1mg(本)	10,832	-	10,540	-	9,844	-
フェンタニル注0.5mg(本)	6,052	-	6,135	-	5,958	-
アルチバ静注用2mg(瓶)	3,259	-	3,636	-	3,884	-
アルチバ静注用5mg(瓶)	2,294	-	2,280	-	1,784	-
ケタラル静注用200mg(瓶)	446	-	542	-	512	-
オキファスト10mg(本)	1,148	-	1,243	-	1,200	-
オキファスト50mg(本)	1,174	-	804	-	444	-
プレベノン注100mgシリンジ(本)	229	-	75	-	72	-
ナルベイン注2mg(本)	154	-	207	-	-	-
ナルベイン注20mg(本)	0	-	96	-	-	-
MSコンチン錠10mg(錠)	1,463	988	2,315	1,096	3,335	1,251
MSコンチン錠30mg(錠)	530	288	563	1,380	929	0
モルベス細粒2%10mg(包)	2,037	1,334	1,721	475	1,270	1,046
モルベス細粒6%30mg(包)	1,004	294	200	14	1,026	0
モルヒネ塩酸塩錠10mg(錠)	1,087	6,568	2,377	5,556	2,471	1,804
オプソ内服液5mg(包)	3,356	2,744	4,586	1,602	2,998	2,115
オプソ内服液10mg(包)	2,014	2,045	2,626	3,295	2,980	416
オキシコンチン錠5mg(錠)	-	-	-	-	20,595	23,917
オキシコンチン錠20mg(錠)	-	-	-	-	3,126	4,326
オキシコンチン錠40mg(錠)	-	-	-	-	1,339	2,730
オキシコドン徐放錠5mg(錠)	14,089	17,569	26,182	49,316	12,833	15,736
オキシコドン徐放錠20mg(錠)	2,000	2,531	4,996	10,582	1,838	2,316
オキシコドン徐放錠40mg(錠)	1,302	1,334	3,059	3,771	516	238
オキシコドン徐放錠5mgNX(錠)	18,097	18,860	-	-	-	-
オキシコドン徐放錠20mgNX(錠)	3,239	3,857	-	-	-	-
オキシコドン徐放錠40mgNX(錠)	1,141	1,885	-	-	-	-
オキノーム散2.5mg(包)	5,692	3,980	5,300	6,624	5,565	5,305
オキノーム散5mg(包)	8,310	6,966	5,254	8,127	5,681	4,514
オキノーム散10mg(包)	11,467	4,349	8,599	6,237	4,810	5,087
イーフェンバツカル錠50μg(錠)	393	130	492	20	160	293
イーフェンバツカル錠100μg(錠)	358	0	247	20	525	130
イーフェンバツカル錠200μg(錠)	267	290	702	50	765	590
タペンタ錠25mg(錠)	1,555	662	1,474	168	424	14
タペンタ錠100mg(錠)	42	96	84	52	173	0
メサペイン錠5mg(錠)	262	0	75	0	54	21
メサペイン錠10mg(錠)	974	0	183	0	678	840
ナルサス錠2mg(錠)	632	820	1,128	732	-	-
ナルサス錠6mg(錠)	975	992	608	308	-	-
ナルラピド錠1mg(錠)	388	890	694	873	-	-
ナルラピド錠2mg(錠)	1,038	970	444	310	-	-
アンベック坐薬10mg(本)	57	0	124	0	220	10
アンベック坐薬30mg(本)	0	0	0	0	0	0
フェントステープ0.5mg(枚)	693	203	174	37	-	-
フェントステープ1mg(枚)	2,561	1,499	3,648	1,510	3,668	2,811
フェントステープ2mg(枚)	3,854	2,223	4,995	1,806	4,099	2,616
フェントステープ6mg(枚)	476	575	1,544	658	2,389	348
アヘンチンキ(mL)	1,478.70	3,391.50	2,347.00	2,979.00	2,806.00	3,660.00
1%塩酸モルヒネ液(mL)	33.85	0	0	0	0	0
10%塩酸コカイン液(mL)	2	0	1	0	15	0

※ 年度の設定は麻薬関係法令上、令和元年10月1日～令和2年9月30日までとする。

# 看護局

## 1. 概要

看護局の重点目標として以下の4つを掲げ活動に取り組んだ。

- 1) 良い看護をするために、それぞれの立場で行動する。
- 2) 看護における診療密度の向上を図る。
- 3) 各部署で働き方改革に向け検討し、改善する。
- 4) 信頼できる職場環境を維持し、向上させる。

令和2年度はコロナ禍でイレギュラーな事が多かった。しかしながら、ピンチをチャンスに変えいつも患者のことを考え看護にあたり、やるべきことを速やかに行いそれぞれの目標を達成させた。これは看護師が個々の役割に対し懸命に取り組んだ成果である。特にインターバル確保に向けた勤務形態を工夫し、ミックス勤務を取り入れる部署が増えたことは働き方改革の一助になった。

(局長 間瀬 有奈)

## 2. 看護局の状況

### (1) 職員の動向

職員数 961人      助産師38人      看護師827人      准看護師10人  
看護補助者 70人      助手 13人      保育士 3人  
退職者 55人 (定年退職者6人含む)

### (2) 看護師確保対策

#### ① 採用試験

2020年度新規採用試験 4回実施 (新卒63人)

2020年度中途採用試験 (7人)

#### ② ガイダンス (4回実施 284人参加)

日 程	開 催 名	参加人数
2021年1月6日	ナース専科webガイダンス(於:第1会議室)	108人
2021年2月7日	マイナビ就職セミナー「MEGA」 (於:ポートメッセ名古屋)	51人
2021年2月27日	中日新聞社主催「看護師のたまごオンライン病院合同説明会」web(於:第1会議室)	46人
2021年3月27日	豊橋市民病院就職ガイダンス	79人

#### ③ インターンシップ (1回実施19人)

開 催 期 間	研 修 名	参加人数
2020年8月 5日～8月23日	夏のインターンシップ研修	中止
2021年3月1日～3月19日	春のインターンシップ研修	19人

④ 施設見学 コロナウイルス感染症拡大のため中止

⑤ 学校訪問 コロナウイルス感染症拡大のため中止 14校に採用募集パンフレット郵送

⑥ 看護師等再就職チャレンジ支援研修 コロナウイルス感染症拡大のため中止

⑦ 看護体験

高校生看護体験 COVID19感染症拡大のため中止

中学生職場体験 COVID19感染症拡大のため中止

⑧ 育児休業中職員向けに「ぶっちゃけママトーク」開催 24人

**(3) 認定看護師**

① 認定看護師数 (28人)

感染管理 (3) 救急看護 (2) 皮膚・排泄ケア (3) がん化学療法看護 (2)

がん性疼痛看護 (2) 緩和ケア (1) 集中治療ケア (1) 新生児集中ケア (1)

摂食・嚥下障害看護 (1) 脳卒中リハビリ看護 (1) 認知症看護 (2) 訪問看護 (1)

透析看護 (1) 手術看護 (1) 看護管理 (1) 糖尿病看護 (1) 小児救急看護 (1)

がん放射線療法看護 (1) 乳がん看護 (1) 慢性心不全看護 (1)

② 2020年度 認定看護師活動実績 (資料1)

**4. 教育活動**

① クリニカルラダー認定者数

レベルⅠ 650人 レベルⅡ 263人 レベルⅢ 55人 レベルⅣ 2人

② 2020年度 研修受講状況 (資料2)

③ 病棟看護補助者研修 6回 196人参加

**5. その他**

医療安全管理者養成研修修了者 14人

専任看護教員養成講習会修了者 17人

愛知DMAT隊員養成研修修了者 3人

災害派遣医療チーム研修修了者 (日本DMAT隊員) 7人

愛知県看護協会災害支援ナース登録者 18人

日本DMATインストラクター 2人

## 【資料1】2020年度 認定看護師活動実績

### 【感染管理】

#### 1) 実践

- ① 医療関連感染サーベイランス（耐性菌・ウイルス、CLABSI、CAUTI、VAP、SSI）
- ② 職業感染予防対策の推進（抗体価測定、ワクチン接種事業、他）
- ③ 職員健康外来の開催と診療介助（発生件数53件 受診者のべ人数50人）
- ④ ICトピックスの配信
- ⑤ 豊橋市民病院だより「青竹」投稿 No.86
- ⑥ 院内感染対策委員会の運営
- ⑦ 院内感染対策チーム（ICT）活動（週1回感染対策カンファレンス・院内ラウンド）
- ⑧ 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動（週1回患者カンファレンス）
- ⑨ 豊橋市民病院地域支援委員会 講演
- ⑩ IASR（国立感染症研究所 病原体微生物検出情報）投稿
- ⑪ 発熱スクリーニング外来の創設
- ⑫ 新型コロナワクチン接種プロジェクトチーム発足、ワクチン接種の実施
- ⑬ 愛知県看護協会『クラスター発生時の看護師等派遣支援制度（第1陣）』要請への対応（市内住宅型有料老人ホームの視察）

#### 2) 指導

- ① 新規採用者オリエンテーション：講義
- ② 基礎看護技術演習：講義&演習
- ③ 薬学生への感染対策：講義、院内ラウンド（計2回）
- ④ 感染対策リンクナース会：講義
- ⑤ 再就職チャレンジ支援研修：講義
- ⑥ 中途採用者オリエンテーション：講義（計3回）
- ⑦ 豊橋市立看護専門学校 看護第1・2科：講義（計30時間）
- ⑧ 豊橋准看護学校：講義（2クラス計10時間）
- ⑨ 院内感染対策講習会：講義（計3回）
- ⑩ 救急医学講座（初期研修医指導）：講義
- ⑪ 病棟勉強会：講義（3病棟）
- ⑫ 事務職員対象の感染対策勉強会（計2回）
- ⑬ 病棟助手研修：講義・演習
- ⑭ 他施設での感染対策講習会（3施設）
- ⑮ 院内ポスターセッション（認定看護師急性期グループ）

#### 3) 相談

年間相談件数： 10～15件/日（約2500件以上/年）

### 【皮膚・排泄ケア】

#### 1) 実践

- ① 褥瘡ラウンド（週1回：310件）
- ② 褥瘡フォローアップ回診（週1回：234件）
- ③ 褥瘡ハイリスク患者のリスクアセスメント・予防計画書立案・ラウンド・評価

- ④ ストーマ外来でのケア（週3回：598件）、病棟看護師におけるストーマ外来（62件）
- ⑤ 排尿ケアラウンド・カンファレンス（週1件：110件）
- ⑥ 在宅訪問（褥瘡：2件、ストーマ1件）

## 2) 指導

- ① 褥瘡勉強会：WEBで資料確認1回、褥瘡ミニレクチャー勉強会（実践）：6回
- ② 終末期や病棟の個別性にあったポジショニング勉強会：6部署52名
- ③ 褥瘡ラウンドを通して、褥瘡予防・褥瘡ケアについてスタッフへ指導
- ④ 基礎看護技術演習：講義・演習「安楽な体位の工夫」
- ⑤ 排尿ケア勉強会：年1回
- ⑥ 院内ポスターセッション（認定看護師急性期グループ）
- ⑦ ストーマラダーⅡ・Ⅲ：Ⅱ 28名（4回）、Ⅲ 8名（2回）

## 3) 相談

年間相談件数：96件/年（鈴木9件、春名85件、名倉2件）

### 【がん性疼痛看護】

## 1) 実践

- ① 緩和ケアチームラウンド（921件/年）
- ② 緩和ケア外来（128件/年）
- ③ がん患者指導管理員におけるIC同席（11件/年）
- ④ がん患者指導管理員における心理的支援（24件/年）
- ⑤ がん相談支援センターにおけるがん相談（40件/年）
- ⑥ 他部署倫理カンファレンスへの参加（4回/年）
- ⑦ 他部署合同カンファレンスへの参加（5回/年）
- ⑧ 他部署の退院前カンファレンスへの参加（7回/年）

## 2) 指導

- ① 看護臨床倫理・緩和ケアリンクナース会（2回/年）
- ② 地域多職種連携退院調整会議「ACP ～もしもの時の人生会議～」講演
- ③ 第10回日本在宅看護学会学術集会「急性期病院におけるACPの取り組みと課題」講演
- ④ がん看護セミナー：もしバナゲーム「人生の最期を考えるきっかけ作り」（9病棟）
- ⑤ フレッシュ研修「緩和ケアにおける医療用麻薬の使用法」

## 3) 相談

年間相談件数：20件/年

### 【緩和ケア】

## 1) 実践

- ① 緩和ケアチームラウンド（921件/年）
- ② 泌尿器科病棟がん患者の全人的ケア、家族ケア、倫理カンファレンス開催

## 2) 指導

- ① 看護臨床倫理・緩和ケアリンクナース会（2回/年）
- ② がん看護セミナー：アドバンス・ケア・プランニングについて
- ③ 病棟勉強会「倫理カンファレンスについて」西病棟8階

### 3) 相談

年間相談件数：5件/年

#### 【脳卒中リハビリテーション看護】

##### 1) 実践

- ① 脳卒中再発予防指導（自部署以外15件）
- ② 脳卒中再発予防パンフレット「脳卒中て入院された方へ」の改定（第3版製本）
- ③ 和みケア（7月～西病棟2階にて毎週水曜日15～16時：7～1月でのべ108人参加）
- ④ 脳卒中患者対象のパス作成・運用  
運用開始：9月～脳出血保存 作成中：軽症脳梗塞・軽症脳出血（東病棟5階・南病棟共同）
- ⑤ 脳卒中患者の症状や今後に対する不安への対応や退院調整
- ⑥ 麻痺肢の管理（ポジショニングや疼痛コントロール）とセルフリハビリ指導
- ⑦ 高次脳機能障害患者の生活支援
- ⑧ 食事開始や摂食条件の確認と調整
- ⑨ 経腸栄養剤（アイソカルサポート）の試行・評価
- ⑩ 看護をつなごうレター執筆  
5月「脱水から患者様や利用者様を守ろう」・2月「コロナの影響から患者さんを守ろう」

##### 2) 指導

- ① 脳卒中再発予防パンフレット改訂内容とマニュアルについて  
対象：西2階・東5階・東9階・南病棟・脳神経外科外来
- ② 東病棟9階 脳卒中患者の生活習慣について
- ③ 東病棟9階 脳卒中患者のリハビリについて
- ④ 西病棟3階 急性期脳卒中患者の体位変換・ポジショニング・関節可動域訓練について
- ⑤ 豊橋市立看護専門学校2科2年生 脳神経看護講師（全8時間）
- ⑥ 西病棟2階 臨地実習生 脳画像の見方・受け持ち患者の画像診断解説

##### 3) 相談

相談件数 4件

- ① 東病棟2階 脳梗塞 再発予防指導
- ② 東病棟9階 脳梗塞 高次脳機能障害への対応・退院指導
- ③ 東病棟9階 脳梗塞 再発予防指導への無関心・退院支援
- ④ 救急外来 麻痺のある患者の体位と移乗のポイントについて

#### 【糖尿病看護】

##### 1) 実践

- ① 院内インスリンシステム看護部門のマニュアル作成・院内ラウンド
- ② 糖尿病対応難渋患者への看護介入
- ③ 糖尿病対策委員会・サポートチーム会の運営
- ④ 院内糖尿病関連インシデント分析・対策支援
- ⑤ 糖尿病内分泌内科外来での療養指導（1回/週 35件）

##### 2) 指導

- ① 新人基礎看護技術研修「血糖測定、インスリン自己注射」講義・演習
- ② 看護学校講義「内分泌・代謝疾患の看護」（10時間）

③ 准看護学校講義「内分泌・代謝疾患の看護」(6時間×2クラス)

3) 相談

年間相談件数4件/年

- ① フットケア2件
- ② インスリンインシデント1件
- ③ 血糖自己測定1件

【小児救急看護】

1) 実践

- ① 呼吸器使用患児家族へマスクバギング指導(計4回)

2) 指導

- ① 病棟勉強会「小児一次救命処置演習」(東病棟2階)
- ② 病棟勉強会「挿管介助と気管カニューレ管理」(東病棟2階)
- ③ 病棟勉強会「災害対応」(東病棟2階)
- ④ 病棟勉強会「自殺企図患者の対応」(東病棟2階)
- ⑤ 院内ポスターセッション(認定看護師急性期グループ)

3) 相談

0件

【救急看護】

1) 実践

- ① 病棟における看護実践を通じて看護の質の向上に努めた
- ② 病棟のアクションカードの見直し
- ③ 病棟急変のカルテを振り返り、担当看護師にフィードバックを行った

2) 指導

- ① 急変時の対応、フィジカルアセスメントⅠの講義
- ② 病棟の新人看護師に心静止の4つの波形、対応について指導
- ③ 災害時の発生について指導

3) 相談

相談件数 0件

【認知症看護】

1) 実践

- ① 認知症や加齢により心身の安寧が得られていない患者に対する症状マネジメント
- ② 高齢者のせん妄患者に対する症状マネジメント
- ③ 認知症のある患者の家族支援
- ④ 認知症サポートチームラウンド(週1回および適宜臨時203例)
- ⑤ 高齢患者・せん妄患者へのアクティビティ

2) 指導

- ① 認知症サポートチームラウンドを通して、認知症看護についてスタッフに指導
- ② 看護スキルアップリンクナースの活動について指導
- ③ 認知症・せん妄勉強会：西病棟5階

- ④ 認知症対策委員会主催勉強会（3回）
  - ・「認知症ケアについて～非薬物的ケアを中心に～」
  - ・「ユマニチュードを学ぶ」
  - ・「いわゆる不穩のタイジ術～認知症の人を病棟・地域で支えるために～」

### 3) 相談

年間相談件数：5件/年

#### 【摂食・嚥下障害看護】

##### 1) 実践

- ① 認定看護師嚥下回診 介入件数：18件
- ② 病棟内の摂食・嚥下障害患者の把握と定期的な評価
- ③ 嚥下カンファレンス（週1回） 実施件数：61件
- ④ 特殊な間接訓練の実施 介入件数2件
- ⑤ 看護をつなごうレターの執筆  
11月「食べるための筋肉を維持しよう」

##### 2) 指導

- ① 基礎看護技術の講義と演習
- ② 豊橋准看護学校の講義（呼吸器疾患の患者の看護）（4時間×2クラス）
- ③ 高齢者の口腔ケアについての講義（西病棟8階）
- ④ 高齢者の口腔ケアについての講義（東病棟6階）
- ⑤ 脳卒中患者の口腔ケアと食事介助についての講義（東病棟9階）
- ⑥ 高齢者の食事介助と口腔ケアについて講義（西病棟5階）

##### 3) 相談

年間相談件数：5件/年

- ① 嚥下反射惹起遅延患者の食事介助方法について（東病棟7階）
- ② 食道入口部開大不全患者の間接訓練方法について（東病棟7階）
- ③ アンジェルマン症候群患者の直接訓練について（東病棟2階）
- ④ 水飲みテストの実施について（東病棟7階・西病棟6階）
- ⑤ 食事形態の変更について（東病棟7階）

#### 【がん化学療法看護】

##### 1) 実践

- ① 血管外漏出の対応と予防について（外来治療センター）
- ② 乳がん術後患者の血管穿刺についてフローチャート作成（外来治療センター）
- ③ 化学療法に伴う副作用や安全な投与管理に関する院内ラウンド（7部署）

##### 2) 指導

- ① 外来治療を受ける患者への副作用対応
- ② 外来治療センターでの抜針指導の現状説明と注意点

##### 3) 相談

- ① 抗がん剤治療における日業務での疑問と対応（東病棟2階）
- ② 発熱性好中球減少症時の対応と血管外漏出時の対応セットについて（西病棟6階）
- ③ 病棟でのオリエンテーション用紙の内容相談と血管外漏出時の観察と対応（西病棟7階）

- ④ 化学療法による悪心・嘔吐の症状マネジメントと看護ケア（東病棟7階）
- ⑤ GC/GCa療法の投与管理と退院指導（西病棟8階）
- ⑥ バックプライミングの方法と実際（西病棟9階）
- ⑦ CVポート穿刺困難患者への穿刺方法

### 【手術看護】

#### 1) 実践

- ① 脊椎外科手術の顔面皮膚保護について自部署で取り組んだ
- ② 特殊体位手術における皮膚保護剤の使用について皮膚排泄ケアと協働してマニュアル作成と看護記録記載の徹底に取り組んだ
- ③ 新規術式導入（鏡視下食道手術）のシミュレーションに立ちあい助言を行った

#### 2) 指導

- ① 院内ポスターセッション（認定看護師急性期グループ）
- ② 豊橋市立看護専門学校看護第1科 成人看護援助論Ⅰ講義（試験含め10時間）
- ③ 豊橋市立看護専門学校看護第2科 成人看護援助論Ⅱ講義（試験含め10時間）

#### 3) 相談

- ① 麻薬性貼付剤を使用した患者の看護について（局所麻酔手術での疼痛緩和について）

### 【訪問看護】

#### 1) 実践

- ① 退院前訪問 6件
- ② 退院後訪問 10件
- ③ 外来患者への訪問 3件

#### 2) 指導

- ① ラダー退院支援Ⅰ「退院支援のながれ」講義
- ② ラダー退院支援Ⅱ「退院支援と必要な多職種連携」講義

#### 3) 相談

相談依頼 なし

### 【集中ケア】

#### 1) 実践

- ① 呼吸ケアサポートチーム活動（RST）  
人工呼吸器装着患者の早期呼吸器離脱を目指した活動

#### 2) 指導

- ① 新人研修  
「呼吸と循環のアセスメント・体位ドレナージ」講義
- ② 院内講習会  
認定看護師セミナー「COVID-19患者の看護」  
RSTセミナー「人工呼吸器装着患者の体位変換」

#### 3) 相談

相談依頼件数：2件/年

人工呼吸器装着患者に対する看護ケアについて

## 【透析看護】

### 1) 実践

- ① 糖尿病内科での透析予防指導実践 53件
- ② 糖尿病内科外来でのフットケア 8件

### 2) 指導

- ① 慢性腎不全療養指導看護師受験希望スタッフへのレポート作成指導
- ② 造影剤腎症についての機序と予防策について部署内勉強会開催

### 3) 相談

- ① 腹膜透析導入に関する相談：2件

## 【新生児集中ケア】

### 1) 実践

- ① COVID-19、疑似母体から出生した児の蘇生と看護
- ② 新生児医療センターの看護実践を通しアセスメント能力、看護の質向上

### 2) 指導

- ① NIPP装着児の褥瘡予防に向けたデバイス選択と固定について（新生児医療センター）
- ② 新生児のポジショニング（新生児医療センター）
- ③ デイベロップメンタルケアの概念をもとにした看護（新生児医療センター）
- ④ 効果的な光線療法について（東2階）
- ⑤ 新生児看護（豊橋市立看護専門学校第1科授業）

### 3) 相談

2件/年

## 【放射線看護】

### 1) 実践

- ① 放射線治療患者看護（新患+再患）：671件
- ② 婦人科・放射線科合同カンファレンス：（月1回）
- ③ 学会発表：日本放射線腫瘍学会第33回学術大会

### 2) 指導

- ① 「全脳照射と看護」についての学習会（西病棟5階）
- ② がん看護セミナー「照射範囲から考える看護」（4部署）
- ③ 放射線治療患者に対するオリエンテーションのポイントについて（部署内勉強会）

### 3) 相談

年間相談件数：8件/年

- ① 放射線治療範囲の確認方法について（東病棟5階）（東病棟7階）
- ② 治療開始後の膀胱留置カテーテルの挿入と放射線治療の影響について（西病棟5階）
- ③ 照射終了後の痰がらみが強い患者の看護介入について（東病棟7階）
- ④ 照射開始後の軟膏の使用と放射線治療の影響について（西病棟9階）
- ⑤ 放射線治療の有害事象に伴う吐き気の強い患者に対する看護介入について（西病棟8階）
- ⑥ 照射範囲内におけるガーゼの固定方法について（東病棟5階）（東病棟7階）

## 【慢性心不全看護】

### 1) 実践

- ① 毎週木曜日に行われる「心不全カンファレンス」のファシリテート
- ② 本年度より開始した「心不全カンファレンス」実施後に、カンファレンス内容が病棟看護師へ上手くフィードバックできていない問題点があったため、情報共有ができるよう記録方法や伝達方法の調整を行った
- ③ 心不全stage Dの終末期患者における心不全の緩和ケアについて症例を通し検討
- ④ 多職種心不全チームにおける各職種の知識やモチベーションの向上を目的として、他県での取り組みなどを学ぶ機会を設けるためにZoomによるミーティングの実施や研修会の実施・調整を行った

### 2) 指導

- ① 心臓リハビリテーションにおける「心不全リハビリプログラム」の導入にむけて勉強会を東病棟3階で実施中

### 3) 相談

- ① 成人先天性心疾患患者の退院に向けた支援と精神面のフォローについて相談を受けたため、病態・病期を踏まえた患者の状態をアセスメントし、主治医と病棟看護師の支援を行った
- ② 入退院を繰り返し心不全が増悪して亡くなった患者の看護に対し、病棟看護師から「自分たちの関わりがどうであったのか」相談を受けたため、デスカンファレンスについて勉強会を行い、実際に症例のカンファレンスを実施

(資料2) 研修受講状況

	日付	研修名	延参加人数	内 容
フ レ ッ シ ュ 研 修	4/6 4/7 4/8	情報研修	63名	・電子カルテの操作方法
	4/13 4/15 4/16 4/17 5/7	基礎看護技術研修 (5日間)	295名	・感染対策 検査について 中央滅菌材料 室見学 ・膀胱留置カテーテル オムツ交換 ・採血 血糖測定 インスリン注射 ・呼吸循環のアセスメント 酸素 吸引 体位ドレナージ ・皮下、筋肉内注射 点滴静脈内注射法 ・安楽な体位の工夫 外傷性の止血 ・重症度、医療・看護必要度 栄養評価 (NST)
	5/7	高齢者の看護 高齢者と薬	58名	・高齢者の特徴 ・高齢患者に対する薬物療法の注意点と副 作用
	5/14	ME研修①	58名	・輸液ポンプと輸注ポンプの取り扱い
	5/25	新人フォロー振り返り 研修	58名	・働き始めて困ったこと、SBARを用いた報 告の仕方
	6/4 7/2 8/6 9/3 10/1 11/5	BLS研修	58名	・気道確保、胸骨圧迫などの蘇生方法 ・AED(自動体外式除細動器)の使用方法
	6/15	医療安全	58名	・KYT ・新人が起こしやすいインシデントと改善 策
	6/23	退院支援	58名	・退院支援の基礎知識
	6/23	リフレッシュ研修①	58名	・自己の振り返りとリアリティショックの 緩和 ・アロマセラピー、ハンドマッサージ ・感染予防対策、手指衛生チェック
	7/8	消防研修 災害時の初期対応	58名	・院内消防設備の講義と消火用散水栓・消化 器の取り扱い ・災害時の初動訓練、エアストレッチャー体 験
	8/17	輸血・血液製剤の取り 扱い	57名	・輸血、血液製剤の取り扱いと輸血時の看護
	8/17	緩和ケアにおける麻薬 の管理	55名	・麻薬の種類、用法の理解と管理 ・麻薬使用時の看護
	8/17	リフレッシュ研修②	55名	・理学療法士によるストレッチ ・漸進的筋弛緩法によるリフレッシュ
	9/14	フィジカルアセスメン ト I 急変時の対応	53名	・胸骨圧迫法とAEDの操作 ・救急カート内の物品の使用法、気管内挿 管の介助 ・12誘導心電図の装着と波形の理解
	10/22 10/23 10/26	シミュレーション研修	53名	・多重課題シミュレーション ・優先順位の考え方と対応
	11/11	ME研修②	53名	・人口呼吸器の取り扱いと看護
	3/23	看護過程の展開	52名	・看護過程の基本的な考え方
	3/23	プリセプターシップ	52名	・一年の振り返りと次年度への課題

レベルⅠ	6/1 9/7	退院支援Ⅰ	71名	・退院支援の基礎知識 ・退院支援に向けた看護ケア
	7/27	フィジカルアセスメントⅡ	52名	・生命維持の基本とショック及び急変時の対応 ・患者の変化を予測した情報収集と判断
	9/28 11/16	看護ケアのマネジメント	82名	・看護ケアと看護サービス ・看護ケアのマネジメントの実際
レベルⅡ	6/8 8/4	リーダーシップ	61名	・リーダーシップに必要な能力と理論
	7/13	退院支援Ⅱ	51名	・退院支援とチーム医療、多職種連携
	8/12	人材育成	54名	・人材育成に必要な能力
	11/30	看護理論	37名	・看護の主要概念をふまえた看護リフレクション ・看護観の明確化
	12/7	フィジカルアセスメントⅢ	48名	・患者の症状と状況からの意図的な情報収集、判断と対応
レベルⅢ	6/22 8/3	問題解決アプローチ	62名	・問題抽出の手法 ・問題解決策立案に向けてのプロセス
	7/20	コンフリクトマネジメントⅠ	43名	・コンフリクトとは ・コンフリクトのプロセスと対応
レベルⅣ	8/5	SWOT分析	15名	・SWOT分析の手法の理解
	10/21	コンフリクトマネジメントⅡ	14名	・コンフリクト ・協調的アプローチの方法
実地指導者	6/10 10/7 3/8	実地指導者研修	44名 44名 46名	・実地指導者の役割認識と効果的な指導 ・新人が育つ環境作りについて ・効果的な指導について

研修名	コマ数	人数
フレッシュ	31コマ	1,252名
レベルⅠ	5コマ	205名
レベルⅡ	6コマ	251名
レベルⅢ	3コマ	105名
レベルⅣ	2コマ	29名
実地指導者	3コマ	134名
総合計	55コマ	1,976名

### 1. 概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、国は、社会機能を維持することを目的として、「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」及び「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を創設し、地域の実情に応じて感染拡大防止や医療提供体制の整備が柔軟かつ機動的に実施できるよう地方公共団体の支援を行った。

こうした状況の中、当院は、県から新型コロナウイルス感染症患者専用の病棟を設定する「重点医療機関」に指定され、陽性患者等の受け入れのため、紫外線照射装置の設置など感染症対策を充実させるとともに、院内感染防止のため、来院時の検温などのスクリーニングや入院患者への面会制限、全身麻酔による手術を予定している患者に対しての抗原検査などを行った。

本年度の主な事業としては、東三河の急性期医療を担う中核病院として、高度専門医療を充実させるため、手術支援ロボットシステムを2台体制とした。また、外来患者の待ち時間の負担軽減を図るため、内科診察室を増室したほか、建物の長寿命化を図るため、東及び南病棟の外壁改修等工事を行った。さらに、第2次豊橋市民病院改革プランの計画期間終了に合わせ、2025年問題、感染症への対応などの課題や環境の変化に対応し、今後も切れ目のない改革を推進するため、「第3次豊橋市民病院改革プラン」を策定した。

(局長 渡辺 英仁)

## 2. 活動報告

### (1) 収益的収入及び支出

区分		令和2年度			令和元年度			平成30年度			
		金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	
収益的 収入	医業収益	入院収益	16,679,951,202	56.5	49.1	17,729,834,798	58.3	54.3	16,583,528,220	60.1	55.5
		外来収益	11,557,867,953	39.1	34.0	11,389,553,143	37.5	34.9	9,777,592,324	35.4	32.7
		その他医業収益	1,287,159,430	4.4	3.8	1,291,785,612	4.2	4.0	1,246,517,457	4.5	4.2
		小計	29,524,978,585	100.0	86.9	30,411,173,553	100.0	93.2	27,607,638,001	100.0	92.4
	医業外収益	受取利息	7,860,076	0.0	0.0	8,448,892	0.0	0.0	4,938,267	0.0	0.0
		他会計負担金	811,596,410	2.7	2.4	864,809,075	2.8	2.7	915,881,844	3.3	3.1
		他会計補助金	301,000	0.0	0.0	0	-	-	0	-	-
		国庫補助金	111,357,000	0.4	0.3	25,362,000	0.1	0.1	22,799,000	0.1	0.1
		県補助金	2,246,765,290	7.6	6.6	48,196,000	0.2	0.1	46,712,000	0.2	0.2
		長期前受金戻入	544,526,885	1.8	1.6	556,642,990	1.8	1.7	590,383,216	2.1	2.0
		その他医業外収益	225,740,434	0.8	0.7	232,375,059	0.8	0.7	242,780,582	0.9	0.8
		小計	3,948,147,095	13.4	11.6	1,735,834,016	5.7	5.3	1,823,494,909	6.6	6.1
	特別利益	長期前受金戻入	503,990,837	1.7	1.5	483,736,487	1.6	1.5	448,663,537	1.6	1.5
		小計	503,990,837	1.7	1.5	483,736,487	1.6	1.5	448,663,537	1.6	1.5
	計		33,977,116,517	115.1	100.0	32,630,744,056	107.3	100.0	29,879,796,447	108.2	100.0
収益的 支出	医業費用	給与費	13,109,763,132	44.4	40.4	13,053,398,438	42.9	40.5	12,566,260,189	45.5	42.9
		材料費	11,183,842,483	37.9	34.5	11,151,324,242	36.7	34.6	9,335,455,912	33.8	31.9
		経費	4,321,756,634	14.6	13.3	3,970,847,305	13.1	12.3	3,667,242,224	13.3	12.5
		減価償却費	2,374,566,696	8.0	7.3	2,411,812,776	7.9	7.5	2,375,453,582	8.6	8.1
		資産減耗費	60,145,866	0.2	0.2	150,977,660	0.5	0.5	60,454,647	0.2	0.2
		研究研修費	76,565,533	0.3	0.2	114,254,951	0.4	0.4	103,387,706	0.4	0.4
		小計	31,126,640,344	105.4	95.9	30,852,615,372	101.5	95.8	28,108,254,260	101.8	96.0
	医業外費用	支払利息	311,345,817	1.1	1.0	363,907,268	1.2	1.1	414,188,509	1.5	1.4
		保育費	47,308,298	0.2	0.1	36,697,206	0.1	0.1	44,810,442	0.2	0.2
		貸倒引当金繰入額	22,496,000	0.1	0.1	24,878,400	0.1	0.1	29,563,600	0.1	0.1
		雑損失	874,719,105	3.0	2.7	739,408,741	2.4	2.3	685,404,543	2.5	2.3
		小計	1,255,869,220	4.3	3.9	1,164,891,615	3.8	3.6	1,173,967,094	4.3	4.0
	特別損失	引当金繰入額	62,214,549	0.2	0.2	0	-	-	0	-	-
		過年度損益修正損	0	-	-	202,951,885	0.7	0.6	0	-	-
		小計	62,214,549	0.2	0.2	202,951,885	0.7	0.6	0	-	-
計		32,444,724,113	109.9	100.0	32,220,458,872	106.0	100.0	29,282,221,354	106.1	100.0	
当年度純利益(△純損失)		1,532,392,404	-	-	410,285,184	-	-	597,575,093	-	-	
前年度繰越利益剰余金(△繰越欠損金)		1,266,658,535	-	-	1,024,373,351	-	-	1,023,798,258	-	-	
その他未処理欠損金変動額		597,000,000	-	-	242,000,000	-	-	704,000,000	-	-	
当年度未処分利益剰余金(△未処分欠損金)		3,396,050,939	-	-	1,676,658,535	-	-	2,325,373,351	-	-	

※各項目は表示単位未満を四捨五入で処理しているため、合計と内訳の数値が一致しない場合がある。

## (2) 行為別入院収益・外来収益

区 分		令和2年度		
		金額(円)	前年度比(%)	構成比(%)
入院 収益	投 薬 収 入	143,042,252	93.3	0.9
	注 射 収 入	446,571,793	82.1	2.7
	処 置 及 び 手 術 収 入	4,501,749,614	91.7	27.0
	検 査 収 入	228,581,774	115.6	1.4
	放 射 線 収 入	40,778,674	102.6	0.2
	入 院 料	10,527,017,438	95.2	63.1
	給 食 収 入	333,829,351	90.2	2.0
	そ の 他	458,380,306	100.0	2.7
	計	16,679,951,202	94.1	100.0
外 来 収 益	初 診 料	112,585,563	75.0	1.0
	再 診 料	883,112,413	98.5	7.6
	投 薬 収 入	1,239,513,470	105.8	10.7
	注 射 収 入	5,658,296,896	106.4	49.0
	処 置 及 び 手 術 収 入	334,328,465	89.3	2.9
	検 査 収 入	1,773,001,203	95.3	15.3
	放 射 線 収 入	1,224,681,697	94.1	10.6
	そ の 他	332,348,246	105.2	2.9
	計	11,557,867,953	101.5	100.0

## (3) 資本的收入及び支出

(円)

区 分		令和2年度	増 減	令和元年度	増 減	平成30年度	増 減
資本 の 収 入	企 業 債	-	-	-	△ 1,370,400,000	1,370,400,000	1,332,800,000
	他 会 計 出 資 金	18,000,000	18,000,000	-	-	-	-
	他 会 計 負 担 金	1,351,431,893	59,302,096	1,292,129,797	34,268,482	1,257,861,315	283,013,132
	国 庫 補 助 金	14,846,000	14,846,000	-	-	-	-
	県 補 助 金	133,113,710	133,113,710	-	-	-	△ 12,927,000
	固 定 資 産 売 却 代 金	-	-	-	-	-	-
	投 資 回 収 金	8,420,000	△ 3,908,000	12,328,000	1,864,000	10,464,000	2,136,000
	損益勘定留保資金	1,853,456,255	△ 61,160,689	1,914,616,944	△ 797,033,418	2,711,650,362	963,395,647
	減債積立金取崩額	597,000,000	355,000,000	242,000,000	△ 462,000,000	704,000,000	△ 813,000,000
	消費税及び地方消費税 資本の収支調整額	3,414,649	885,708	2,528,941	△ 3,923,015	6,451,956	△ 577,739
	計	3,979,682,507	516,078,825	3,463,603,682	△ 2,597,223,951	6,060,827,633	1,754,840,040
資本 の 支 出	施 設 改 良 費	327,459,000	6,867,850	320,591,150	△ 1,193,426,481	1,514,017,631	773,444,182
	資 産 購 入 費	1,352,466,340	359,858,093	992,608,247	△ 659,115,914	1,651,724,161	△ 361,445,444
	長 期 貸 付 金	28,756,000	△ 886,800	29,642,800	△ 6,774,400	36,417,200	1,502,400
	投 資 有 価 証 券	-	-	-	△ 791,242,618	791,242,618	791,242,618
	企 業 債 償 還 金	2,271,001,167	150,274,435	2,120,726,732	53,310,472	2,067,416,260	550,086,521
	補 助 金 返 還 金	-	△ 34,753	34,753	24,990	9,763	9,763
	計	3,979,682,507	516,078,825	3,463,603,682	△ 2,597,223,951	6,060,827,633	1,754,840,040

## (4) 貸借対照表 (令和3年3月31日)

(単位：円)

		資 産 の 部	
1	固 定 資 産		
(1)	有 形 固 定 資 産		
	イ 土 地		6,385,451,623
	ロ 建 物	20,036,814,021	
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 9,198,494,794</u>	10,838,319,227
	ハ 附 属 設 備	17,397,725,361	
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 12,401,587,335</u>	4,996,138,026
	ニ 構 築 物	1,603,886,296	
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 823,083,711</u>	780,802,585
	ホ 器 械 備 品	11,378,822,461	
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 7,675,551,481</u>	3,703,270,980
	ヘ 車 両	17,991,211	
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 13,856,870</u>	4,134,341
	ト 放 射 性 同 位 元 素	17,946,000	
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 0</u>	17,946,000
	チ リ ー ス 資 産	1,770,067,809	
	減 価 償 却 累 計 額	<u>△ 1,098,151,061</u>	671,916,748
	リ 建 設 仮 勘 定		5,147,169
	有 形 固 定 資 産 合 計		<u>27,403,126,699</u>
(2)	無 形 固 定 資 産		
	イ 電 話 加 入 権		7,041,831
	ロ ソ フ ト ウ ェ ア		477,579,674
	ハ その他無形固定資産		11,912,535
	無 形 固 定 資 産 合 計		<u>496,534,040</u>
(3)	投 資 そ の 他 の 資 産		
	イ 投 資 有 価 証 券		792,347,373
	ロ 長 期 貸 付 金	106,490,000	
	貸 倒 引 当 金	<u>△ 78,878,000</u>	27,612,000
	ハ 出 資 金		500,000
	ニ 破 産 更 生 債 権 等	110,158,592	
	貸 倒 引 当 金	<u>△ 110,158,592</u>	0
	投 資 そ の 他 の 資 産 合 計		<u>820,459,373</u>
	固 定 資 産 合 計		<u>28,720,120,112</u>
2	流 動 資 産		
(1)	現 金 預 金		5,299,683,525
(2)	未 収 金		6,021,475,793
	貸 倒 引 当 金	<u>△ 15,668,449</u>	6,005,807,344
(3)	貯 蔵 品		31,075,613
(4)	前 払 金		745,810
	流 動 資 産 合 計		<u>11,337,312,292</u>
	資 産 合 計		<u><u>40,057,432,404</u></u>

## 負 債 の 部

3	固 定 負 債				
	(1) 企 業 債				
	イ 建設改良費等の財源 に充てるための企業債	11,911,460,535			
	企業債合計			11,911,460,535	
	(2) リース債務			350,424,298	
	(3) 引 当 金				
	イ 退職給付引当金	4,648,989,046			
	引当金合計			4,648,989,046	
	固定負債合計				16,910,873,879
4	流 動 負 債				
	(1) 企 業 債				
	イ 建設改良費等の財源 に充てるための企業債	2,325,590,921			
	企業債合計			2,325,590,921	
	(2) リース債務			377,984,892	
	(3) 引 当 金				
	イ 賞与引当金	647,178,021			
	ロ 法定福利費引当金	119,251,379			
	引当金合計			766,429,400	
	(4) 未 払 金			3,142,423,554	
	(5) 未払消費税及び地方消費税			19,411,100	
	(6) 預 り 金			120,337,636	
	流動負債合計				6,752,177,503
5	繰 延 収 益				
	(1) 長 期 前 受 金				
	イ 受贈財産評価額	13,745,551			
	収益化累計額	△ 10,056,056	3,689,495		
	ロ 補 助 金	1,287,647,785			
	収益化累計額	△ 847,089,374	440,558,411		
	ハ 負 担 金	16,875,496,223			
	収益化累計額	△ 14,323,776,097	2,551,720,126		
	長期前受金合計			2,995,968,032	
	繰延収益合計				2,995,968,032
	負債合計				26,659,019,414

資 本 の 部

6	資 本 金		9,212,942,341
7	剰 余 金		
(1)	資 本 剰 余 金		
	イ 受 贈 財 産 評 価 額	258,564,805	
	ロ 負 担 金	120,854,905	
	資 本 剰 余 金 合 計		379,419,710
(2)	利 益 剰 余 金		
	イ 減 債 積 立 金	410,000,000	
	ロ 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	3,396,050,939	
	利 益 剰 余 金 合 計		3,806,050,939
	剰 余 金 合 計		4,185,470,649
	資 本 合 計		13,398,412,990
	負 債 資 本 合 計		40,057,432,404

(5) 主な経営財務分析

区 分	算 式	令和2年度	令和元年度	平成30年度
1. 平均在院日数 (施設基準上の算定) (日)	$\frac{\text{在 院 患 者 数}}{1/2(\text{新入院患者数} + \text{退院患者数})}$	11.6	11.7	11.5
2. 病床利用率 (一般病床) (%)	$\frac{\text{入 院 患 者 数}}{\text{許 可 病 床 数}} \times 100$	80.1	90.5	87.9
3. 入院患者1人1日 当たり収入額 (円)	$\frac{\text{入 院 収 益 額}}{\text{入 院 患 者 延 数}}$	71,957	68,340	65,894
4. 外来患者1人1日 当たり収入額 (円)	$\frac{\text{外 来 収 益 額}}{\text{外 来 患 者 延 数}}$	26,177	23,700	20,716
5. 剖 検 率 (%)	$\frac{\text{解 剖 数}}{\text{院 内 死 亡 患 者 数}} \times 100$	2.9	2.3	3.0
6. 100床当たり職員数 (人)	$\frac{\text{職 員 数 (年 度 末)}}{\text{許 可 病 床 数 (年 度 末)}} \times 100$	159.3	151.4	148.9
7. 100床当たり医師数 (人)	$\frac{\text{医 師 数 (年 度 末)}}{\text{許 可 病 床 数 (年 度 末)}} \times 100$	28.6	23.4	23.1
8. 100床当たり 看護師数 (人)	$\frac{\text{看 護 師 (年 度 末)}}{\text{許 可 病 床 数 (年 度 末)}} \times 100$	94.8	93.4	92.1
9. 100床当たり器械備品額 (年度末) (千円)	$\frac{\text{器 械 備 品 額 (減 価 償 却 累 計 額 控 除 額)}}{\text{許 可 病 床 数}} \times 100$	462,909	474,049	527,883
10. 人 件 費 率 (%)	$\frac{\text{給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	44.4	42.9	45.5
11. 流 動 比 率 (%)	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	167.9	166.4	176.7
12. 総 資 本 利 益 率 (%)	$\frac{\text{当 年 度 純 利 益}}{1/2(\text{期 首 総 資 産} + \text{期 末 総 資 産})} \times 100$	3.8	1.0	1.4

# 医師事務作業補助者

## 1. 概要

医師事務作業補助者は、医師の事務作業軽減を目的として2008年に誕生した職種である。当院では、2009年から採用を開始し、現在48人工となった。主な業務内容は以下の4つである。

- ①文書作成補助業務：保険会社の入院証明書・通院証明書、介護保険に伴う主治医意見書、傷病手当一時金、障害年金審等の診断書作成補助を行っている。当院は、ドクタークラークと称している。
- ②臨床データ登録業務：診療に関するデータの抽出・整理・登録業務、薬品市販後調査、患者を他院に紹介するための画像CDの作成補助をしている。当院は、ドクタークラークと称している。
- ③がん登録：地域がん診療連携拠点病院の義務である、診断年ごとのがん患者の抽出・登録システムへの入力を行っている。
- ③外来代行入力業務：電子カルテへの代行入力を行っている。当院は、外来クラークと称している。

これらの業務は、医師事務作業軽減部会で管理をしている。事務職でありながら、医師の働き方改革において欠かせない存在であるが、より広く多様な業務支援を担うにあたり、医師事務作業補助者のスキルアップという課題に取り組まなければならない。今後も医師の要望を取り入れ、医師の事務作業の軽減に努めたい。

(部会長 小山 典久)

## 2. 活動報告

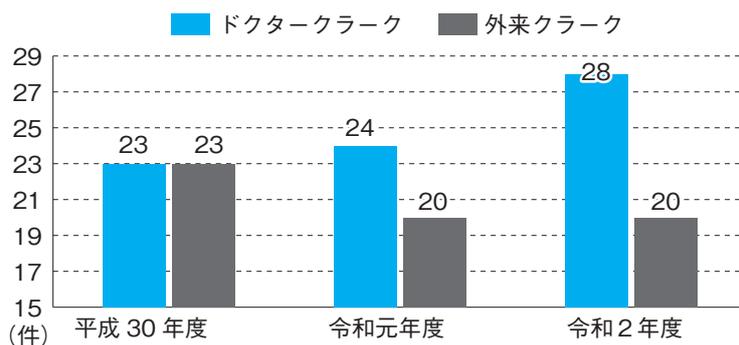
### (1) 従事者数 (人工)

#### ①ドクタークラーク

チーム名(主な業務)	人数(人工)
Aチーム (入院証明作成)	6
Bチーム (その他書類作成)	6
Cチーム (データの抽出・整理)	6
Dチーム (市販後調査の補助)	6
Eチーム (がん登録の登録支援)	4
計	28

#### ②外来クラーク

診療科	人数(人工)
内科	3
糖尿病・内分泌内科	1
外科	2
整形外科	3
脳神経外科	2
小児科	2
産婦人科	1
産婦人科(生殖医療)	1
耳鼻いんこう科	1
眼科	1
泌尿器科	2
放射線科	1
計	20



## (2) ドクタークラーク実績

### ①入院証明作成補助業務（担当者 6人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
入院証明書(患者申込数)	682	571	686	651	627	663	726	623	623	683	617	745	7,897
中止件数	3	2	3	1	3	2	3	2	5	9	2	2	37
入院証明書(実質作成数)	679	569	683	650	624	661	723	621	618	674	615	743	7,860

### ②その他書類作成補助業務（担当者 6人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
特定疾患診断書(更新) 特定疾患診断書(新規)	20	15	18	15	17	15	16	10	13	17	16	17	189
介護保険主治医意見書	85	119	124	128	100	128	127	138	113	126	93	112	1,393
自賠責保険診断書	121	91	88	101	102	106	139	114	109	112	108	131	1,322
傷病手当金請求書	181	159	167	150	151	143	175	170	163	164	164	187	1,974
労災休業給付申請書	48	30	34	42	30	33	45	38	37	38	30	41	446
生活保護医療要否意見書	61	70	61	58	70	59	68	69	68	74	66	60	784
B型C型肝炎患者医療給付事業 受給者票認定に係わる診断書	8	2	0	5	4	2	4	4	5	7	4	4	49
肝疾患インターフェロン 治療効果判定報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出産一時金支給申請書	3	4	1	3	2	4	7	0	2	3	2	4	35
出産手当金支給申請書	7	3	6	6	3	4	9	2	4	6	4	9	63
訪問看護指示書	27	40	49	32	42	29	46	31	47	22	31	55	451
障害認定医師意見書	4	10	12	3	6	8	6	3	8	7	9	9	85
自立支援	18	11	3	4	3	6	3	1	1	6	7	11	74
結核定期病状調査報告書	0	19	10	8	6	13	9	12	13	6	7	0	103
小児慢性特定疾病	3	8	6	0	3	5	6	159	82	40	13	10	335
障害年金診断書	12	9	17	13	7	3	9	8	4	9	18	17	126
身体障害者診断書 (神経内科) (H30.12.3~脳神経外科) (H31.2.6~整形外科) (R1.8.7~外科W5Dr柴田)	8	10	14	9	12	10	8	9	10	11	11	10	122
特別児童扶養手当認定 診断書	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4	3	2	12
受診状況等証明書	8	8	11	13	9	6	6	7	8	11	9	9	105
計	614	608	621	590	567	575	683	776	688	663	595	688	7,668

### ③他院紹介・学会用CD作成業務（担当者 6人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
転院・紹介用(申請書あり)	110	87	151	145	130	137	127	111	123	92	79	125	1,417
学会・研究用(申請書あり)	9	15	5	1	1	3	5	6	5	8	4	3	65
転院・紹介用(Dr作成)	532	441	629	641	547	652	705	639	702	624	643	717	7,472
学会・研究用(Dr作成)	0	14	4	17	5	7	2	11	2	3	3	4	72
計	651	557	789	804	683	799	839	767	832	727	729	849	9,026

④薬品別市販後調査票作成業務（担当者 3人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
調査票記入数	19	13	17	36	27	28	25	17	21	21	20	23	267
製薬会社提出数	0	0	2	1	1	0	2	2	5	2	1	2	18

⑤症例登録・抽出業務（担当者 12人 ※③・④・⑥担当者兼務）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
DWHを使用したデータ抽出・作成	8	7	5	3	4	10	10	4	5	6	10	11	83
血液学会疾患登録(血液・腫瘍内科)	97	73	10	12	8	99	84	22	0	13	86	77	581
血液学会疾患登録(小児科)	2	0	2	0	1	0	1	1	0	0	1	0	8
NCD症例登録(一般外科)	124	97	130	103	130	132	128	140	141	109	118	141	1,493
NCD症例登録(先天性心臓外科・血管外科)	4	0	9	0	0	12	6	0	15	10	0	0	56
NCD症例登録(成人心臓外科)	4	3	7	0	0	1	3	5	6	3	6	1	39
JND症例登録(脳神経外科)	132	92	133	144	96	142	107	103	80	178	157	112	1,476
NCD症例登録(循環器内科)	27	20	10	19	15	12	27	22	28	24	23	18	245
NCD症例登録(移植外科)	0	7	0	0	19	3	19	11	5	23	0	0	87
NCD症例登録(呼吸器外科)	10	10	13	18	10	6	11	22	0	10	12	20	142
NCD症例登録(泌尿器科)	48	24	58	31	41	76	40	46	34	43	49	46	536
分娩件数登録	62	121	113	111	120	108	132	99	103	125	73	70	1,237
計	518	454	490	441	444	601	568	475	417	544	535	496	5,983

⑥各診療科の患者データベース作成業務（担当者 12人 ※③・④・⑥担当者兼務）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
脊椎外科	23	19	28	19	14	31	18	27	26	18	14	27	264
呼吸器外科	9	9	6	5	1	4	3	2	4	16	14	11	84
心臓外科・血管外科	2	2	3	6	5	5	6	3	2	5	5	0	44
歯科・口腔外科(外傷)	0	0	0	64	29	0	34	0	0	39	0	0	166
歯科・口腔外科(口腔)	0	0	0	0	477	0	1,277	675	62	0	0	0	2,491
消化器内科(内視鏡検査)	29	17	27	23	16	9	36	20	15	21	6	24	243
産婦人科(助産録分娩件数)	83	102	118	0	52	74	123	8	63	0	88	56	767
産婦人科(がん登録)	287	0	0	0	0	25	0	49	38	0	0	0	399
泌尿器科	62	121	113	111	120	108	132	99	103	125	73	70	1,237
リウマチ科	40	43	48	34	34	46	40	39	46	45	46	36	497
放射線科	0	0	0	0	0	0	708	0	0	0	0	0	708
小児科(新生児)(新規)	7	0	2	1	3	3	2	4	4	5	0	1	32
小児科(新生児)(予後)	0	10	12	11	13	5	2	0	0	0	0	0	53
小児科 小児救急重篤疾患登録調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科 川崎病全国調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	98	0	0	98
呼吸器内科 COVID-19	0	0	0	15	12	13	13	12	14	27	31	24	161
消化器内科(RFA)	1	6	1	5	4	3	2	3	0	2	2	9	38
整形外科(学会用)	15	15	11	9	11	15	25	9	0	33	13	12	168
整形外科(パス会議用)	16	16	11	9	13	13	28	10	0	35	13	11	175
整形外科(JOANR)	0	0	39	96	95	125	97	133	115	95	82	113	990
救急科(日本外傷データベース)	0	0	0	0	0	0	20	18	21	41	27	19	146
脳神経外科 Close The Gap-Stroke	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科 杉田ク リップ後向き観察研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	574	360	419	408	899	479	2,566	1,111	513	605	414	413	8,761

⑦院内がん登録支援業務（担当者 4人）

2020年度 <月別>院内がん登録件数

